

講義概要（シラバス）

講義概要（シラバス）について

講義概要（シラバス）は、今年度開設される科目について、そのテーマやねらい、各回の授業内容、開設時期、単位数などを予め記したものです。科目は、幼稚園教諭免許状や保育士資格、介護福祉士国家試験受験資格（経過措置期間5年）を取得するために国が定めている科目と本校独自に開設する科目とで構成されています。

科目ごとの単位数は、授業の時間数だけではなく、授業外に皆さんが行う学修時間数を含めて計算することになっています。本書を活用し、積極的な事前・事後の学修を行うよう心がけてください。また、各科目の初回授業では、本書をもとに担当教員が授業展開等について説明することがありますから、初回授業に出席する際には必ず本書を持参してください。

なお、各種資格取得や大学等への入学・編入学の際に、本校で修得した単位が認められることがあります。その場合には講義概要の写しの提出が求められることが通例ですので、本書を各自で大切に保管してください。

2021年度 学 年 暦 (前期)

保 育 科	専攻科	学 事	期日または期間	備 考
	●	新2年生登校日・教科書販売	4月1日(木)	*詳細は別途通知
	●	保育科2年 春期教育実習	4月2日(金)～4月21日(水)	*期間中に所定の日数を行う
●	●	入学式	4月6日(火)	*本校講堂 詳細は別途通知
●	●	新入生オリエンテーション(教科書販売、健診あり)	4月7日(水)	*詳細は別途通知
●	●	保育科1年, 専攻科 前期授業開始	4月8日(木)	
●	●	新入生研修会	4月16日(金)	*詳細は別途通知
●	●	土曜授業日	4月17日(土)	4月16日(金)分の授業を行う
●	●	保育科2年 前期授業開始	4月22日(木)	
●	●	保育科2年 選択科目登録	4月22日(木)～4月28日(水)	*履修届提出
●	●	土曜補講日	4月24日(土) 5月8日(土) 5月22日(土) 7月3日(土)	*時間割は別途掲示
●	●	全科・全学年 授業実施日	4月29日(木)昭和の日 5月3日(月)憲法記念日 5月4日(火)みどりの日 5月5日(水)こどもの日	*祝日であるが通常授業を実施
●	●	保育科2年 健康診断	5月8日(土)	*詳細は別途掲示
●	●	スポーツ大会(実施でも中止でも授業は休講)	5月19日(水)	
●	●	保育科2年 土曜補講日	7月10日(土)	
●	●	前期定期試験期間	7月15日(木)～7月21日(水)	*試験を実施しない科目は授業を実施
●	●	前期授業終了	7月21日(水)	
●	●	専攻科 全体会	8月16日(月)	*詳細は別途通知
●	●	専攻科 介護実習Ⅰ・Ⅱ	8月17日(火)～9月27日(月)	*期間中に所定の日数を行う
●	●	前期追試験承認者・時間割発表	8月18日(水)	*午後掲示発表
●	●	前期追試験	8月19日(木)～8月20日(金)	*承認者のみ受験
●	●	保育科2年 保育実習Ⅱ	8月23日(月)～9月7日(火)	*期間中に所定の日数を行う
●	●	専攻科 登校日	9月1日(水)	*詳細は別途通知
●	●	保育科1・2年 登校日	9月15日(水)	*詳細は別途通知
●	●	保育科2年 秋期教育実習	9月21日(火)～10月8日(金)	*期間中に所定の日数を行う
●	●	前期終了	9月30日(木)	

※土曜補講日以外の土曜日にも補講が行われることがあります。補講の時間割は、原則として2週間前までに掲示等でお知らせします。

※保育科 保育実習Ⅰ(施設)、専攻科 介護実習Ⅰ(訪問介護等)は、適宜実施します。

2021年度 学 年 暦 (後期)

保 育 科	専攻科	学 事	期日または期間	備 考
●		● 保育科 1年 専攻科 後期授業開始	10月4日(月)	
●		● 保育科 1年 選択科目登録	10月4日(月)～10月8日(金)	*履修届提出
	●	● 保育科 2年 後期授業開始	10月11日(月)	
	●	● 保育科 2年 選択科目登録	10月11日(月)～10月15日(金)	*履修届提出
●	●	● 土曜補講日	10月23日(土) 11月27日(土) 12月18日(土) 1月8日(土)	*時間割は別途掲示
		● 専攻科 介護実習Ⅰ(2)	10月25日(月)～12月10日(金)	
●	●	● 全科・全学年 授業実施日	11月3日(水)文化の日 11月23日(火)勤労感謝の日	*祝日であるが通常授業を実施
●	●	● 学園祭準備/学園祭(授業は休講)	11月19日(金)	*午前中準備、午後教科発表等
●	●	● 学園祭	11月20日(土)	*一般公開日
		● 専攻科 学力評価試験	11月27日(土)	*詳細は別途通知
●	●	● クリスマス礼拝	12月22日(水)	*霊南坂教会 詳細は別途通知
●	●	● 年内授業終了	12月23日(木)	
●	●	● 新年授業再開	1月5日(水)	
●	●	● 補講日	1月20日(木)	*時間割は別途掲示
●	●	● 保育科 後期定期試験期間	1月25日(火)～1月31日(月)	*試験を実施しない科目は授業を実施
●		● 保育科 1年 後期授業終了	1月31日(月)	
		● 専攻科 後期定期試験期間	2月1日(火)～2月7日(月)	*試験を実施しない科目は授業を実施
●		● 保育科 1年 保育実習Ⅰ	2月1日(火)～3月25日(金)	*期間中に所定の日数を行う
	●	● 保育科 2年 後期授業終了	2月4日(金)	
		● 専攻科 後期授業終了	2月7日(月)	
●	●	● 後期追試験承認者・時間割発表	2月8日(火)	*午後掲示発表
●	●	● 後期追試験	2月9日(水)・2月10日(木)	*承認者のみ受験
●	●	● 再試験対象者・時間割発表	2月24日(木)	*午後掲示発表
●	●	● 再試験	2月28日(月)	*対象者のみ受験
	●	● 卒業予定者登校日・卒業礼拝・同窓会入会式	3月16日(水)	*詳細は別途通知
	●	● 卒業式	3月18日(金)	*詳細は別途通知
●	●	● 後期終了	3月31日(木)	

※土曜補講日以外の土曜日にも補講が行われることがあります。補講の時間割は、原則として2週間前までに掲示等でお知らせします。

※保育科 保育実習Ⅰ(施設)は、適宜実施します。

学校からの緊急連絡がある場合は、彰栄保育福祉専門学校のWebページに掲載します。<https://www.shoei.ac.jp/>

目 次

保育科教育課程	66
介護福祉専攻科教育課程	68

保 育 科

1 学年

キリスト教概論（渡邊）	72
法学（日本国憲法を含む）（前川）	73
体育理論（増田）	74
外国語コミュニケーション（佐々木）	75
情報機器演習（門岡）	76
保育原理Ⅰ（山梨）	77
教育の原理と制度（綾／伊藤）	78
子ども家庭福祉（藤澤）	79
社会福祉（伏見）	80
社会的養護Ⅰ（熊田）	81
教育心理学（日比）	82
発達心理学（政近）	83
子どもの保健（安藤）	84
生涯学習論（栗原）	85
保育・教育課程論（綾／伊藤）	86
保育指導法総論（野見山）	87
環境指導法（石川）	88
表現指導法ⅠA（荒木）	89
表現指導法ⅠB（増田）	90
子どもと健康（眞鍋）	91
子どもと環境（石川）	92
身体表現（眞鍋）	93
音楽表現ⅠA（桐原）	94
音楽表現ⅠB（倉林）	95
音楽表現Ⅱ（桐原・他音楽講師9名）	96
造形表現ⅠA（荒木）	97
造形表現ⅠB（荒木）	98
乳児保育Ⅰ（川邊）	99
乳児保育Ⅱ（川邊）	100
子どもの健康と安全（小林）	101

2 学年

体育実技（増田）	104
こども家庭支援論（中内）	105
保育者論（学校安全への対応を含む）（綾）	106
保育原理Ⅱ（川邊）	107
こども家庭支援の心理学（上田）	108
子どもの理解と援助（山梨）	109
子どもの食と栄養Ⅰ（岡田）	110
子どもの食と栄養Ⅱ（岡田）	111
臨床心理学（松宮）	112
健康指導法（眞鍋）	113
人間関係指導法（中内）	114
言葉指導法（中村）	115
表現指導法Ⅱ（荒木）	116
子どもと言葉（藤澤）	117
音楽表現Ⅲ（桐原・他音楽講師9名）	118
造形表現Ⅱ（宮脇）	119
特別支援教育・保育概論（三輪）	120
社会的養護Ⅱ（熊田）	121
子育て支援（上田）	122
教育相談論（松宮）	123
生活文化（市原）	124
国語表現法（綾）	125
保育・教職実践演習（綾・川邊・山梨・石川・野見山・他）	126
実習科目	
保育実習Ⅰ－保育所（山梨・他）	128
保育実習Ⅰ－施設（川邊・他）	129
保育実習指導Ⅰ（川邊・山梨）	130
教育実習指導（野見山）	131
教育実習（野見山・他）	132
保育実習Ⅱ（保育所）（山梨・他）	133
保育実習指導Ⅱ（山梨）	134

介 護 福 祉 専 攻 科

社会の理解Ⅰ（高橋）	137
社会の理解Ⅱ（伏見）	138
介護の基本Ⅰ（小方）	139
介護の基本Ⅱ（高橋）	140
介護の基本Ⅲ（森倉）	141
介護の基本Ⅳ（市原）	142
コミュニケーション技術Ⅰ（市原）	143
コミュニケーション技術Ⅱ（市原）	144
生活支援技術Ⅰ（中川）	145

生活支援技術Ⅱ（高橋）	146
生活支援技術Ⅲ（中川・萩元）	147
生活支援技術Ⅳ（小林）	148
生活支援技術Ⅴ（市原）	149
介護過程Ⅰ（中川）	150
介護過程Ⅱ（中川）	151
介護過程Ⅲ（中川）	152
介護総合演習（中川）	153
介護実習Ⅰ（中川・他5名）	154
介護実習Ⅱ（中川・他5名）	155
発達と老化の理解Ⅰ（松宮）	156
発達と老化の理解Ⅱ（小林）	157
認知症の理解Ⅰ（櫻庭）	158
認知症の理解Ⅱ（櫻庭）	159
障害の理解（櫻庭）	160
こころとからだのしくみⅠ（松宮）	161
こころとからだのしくみⅡ（小林）	162
こころとからだのしくみⅢ（櫻庭）	163
こころとからだのしくみⅣ（岡田）	164
医療的ケアⅠ（櫻庭）	165
医療的ケアⅡ（小林・櫻庭）	166

履 修 の 手 引 き

履修のQ&A	169
履修チャート	171
資格取得方法	172
専門士の称号が与えられます	173
時間割表	174

保育科教育課程及び授業時間数

系 列		授 業 科 目	授業形態	必・選	1 年次		2 年次		年間授業 時間数	単位数 合計		
					年間授業 時間数	年間 単位数	年間授業 時間数	年間 単位数				
教職 課程*3	保育士 養成課程*4	教養科目	キリスト教概論	講義	必修	30	2			30	2	
			法学（日本国憲法）	講義	必修	30	2			30	2	
			体育理論	講義	必修	30	2			30	2	
			体育実技	実技	必修			30	1		30	1
			外国語コミュニケーション	演習	必修	60	2				60	2
			情報機器演習	演習	必修	60	2				60	2
教養科目	①保育の本質・目的に関する科目	◇ 保育原理Ⅰ	講義	必修	30	2			30	2		
		◇ 教育の原理と制度	講義	必修	30	2			30	2		
		◇ 子ども家庭福祉	講義	必修	30	2			30	2		
		◇ 社会福祉	講義	必修	30	2			30	2		
		◇ 子ども家庭支援論	講義	必修			30	2		30	2	
		◇ 社会的養護Ⅰ	講義	必修	30	2			30	2		
		◇ 保育者論（学校安全への対応を含む）	講義	必修			30	2		30	2	
		◆ 保育原理Ⅱ	講義	選択			30	2		30	2	
		◆ 社会的養護Ⅲ	講義	選択			30	2		30	2	
		*1 ○	◇ 教育心理学	講義	必修	30	2			30	2	
		*1 ○	◇ 発達心理学	講義	必修	30	2			30	2	
		*2 ○	◇ 子ども家庭支援の心理学	講義	必修			30	2		30	2
			◇ 子どもの理解と援助	演習	必修			30	1		30	1
			◇ 子どもの保健	講義	必修	30	2			30	2	
	◇ 子どもの食と栄養Ⅰ	演習	必修			30	1		30	1		
	◇ 子どもの食と栄養Ⅱ	演習	必修			30	1		30	1		
	◆ 臨床心理学	演習	選択			60	2		60	2		
	◆ 生涯学習論	講義	選択	30	2				30	2		
*1 ○	◇ 保育・教育課程論	講義	必修	30	2			30	2			
*2 ○	◇ 保育指導法総論	演習	必修	30	1			30	1			
領域及び 保育内容に関する科目	③保育の内容・方法に関する科目	◇ 健康指導法	演習	必修			60	2		60	2	
		◇ 人間関係指導法	演習	必修			30	1		30	1	
		◇ 環境指導法	演習	必修	30	1				30	1	
		◇ 言葉指導法	演習	必修			60	2		60	2	
		◇ 表現指導法ⅠA	演習	必修	30	1				30	1	
		◇ 表現指導法ⅠB	演習	必修	30	1				30	1	
		◆ 表現指導法Ⅱ	演習	選択			60	2		60	2	
		◇ 子どもと健康	演習	必修	30	1				30	1	
		◇ 子どもと環境	演習	必修	30	1				30	1	

領域及び保育内容に関する科目	○	◇	子どもと言葉	演習	必修			30	1	30	1	
	○	◇	身体表現	演習	必修	30	1			30	1	
	○	◇	音楽表現 I A	演習	必修	30	1			30	1	
	○	◇	音楽表現 I B	演習	必修	30	1			30	1	
		◆	音楽表現 II	演習	選必	60	2			60	2	
		◆	音楽表現 III	演習	選択			30	1	30	1	
	○	◇	造形表現 I A	演習	必修	30	1			30	1	
	○	◇	造形表現 I B	演習	必修	30	1			30	1	
	●	◆	造形表現 II	演習	選択			30	1	30	1	
		◇	乳児保育 I	講義	必修	30	2			30	2	
		◇	乳児保育 II	演習	必修	30	1			30	1	
		◇	子どもの健康と安全	演習	必修	30	1			30	1	
	*1	○	◇	特別支援教育・保育概論	演習	必修			60	2	60	2
		◇	社会的養護 II	演習	必修			30	1	30	1	
		◇	子育て支援	演習	必修			30	1	30	1	
	*2	○		教育相談論	演習	必修			60	2	60	2
			◆	生活文化	演習	選択			30	1	30	1
		◆	国語表現法	演習	選択			60	2	60	2	
教育実践に関する科目		◇	保育実習 I - 保育所	実習	必修	90	2			90	2	
		◇	保育実習 I - 施設	実習	必修			90	2	90	2	
		◇	保育実習指導 I	演習	必修	60	2			60	2	
	○		教育実習指導	実習	必修	45	1			45	1	
	○		教育実習	実習	必修			180	4	180	4	
		◆	保育実習 II	実習	選必			90	2	90	2	
		◆	保育実習指導 II	演習	選必			30	1	30	1	
○	⑤総合演習	◇	保育・教職実践演習	演習	必修			60	2	60	2	
授業科目時間数及び単位数合計						1185	52	1350	46	2535	98	

*1 教育の基礎的理解に関する科目

*2 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

*3 ○は教員の免許状取得のための必修科目、●は教員の免許状取得のための選択科目を指す

*4 ◇は厚生労働省告示別表第1による必修科目、◆は厚生労働省告示別表第2による選択必修科目を指す

【選択授業科目の単位修得について】

選択授業科目は、選択必修科目である「音楽表現Ⅱ」、「保育実習Ⅱ」及び「保育実習指導Ⅱ」を含め、計5科目9単位以上を修得する。

卒業基準	区 分	単位数合計	授業時間数合計
	必修授業科目	78	1995
	選択授業科目	9 以上	240 以上
	合 計	87 以上	2235 以上

介護福祉専攻科教育課程及び授業時間数

領域	教育内容	授業科目	授業形態	年間授業時間数	年間単位数	授業時間数合計	単位数合計
人間と社会	社会の理解	社会の理解Ⅰ	講義	15	1	15	1
		社会の理解Ⅱ	講義	30	2	30	2
介護	介護の基本	介護の基本Ⅰ	講義	60	4	60	4
		介護の基本Ⅱ	講義	60	4	60	4
		介護の基本Ⅲ	講義	30	2	30	2
		介護の基本Ⅳ	講義	30	2	30	2
	コミュニケーション技術	コミュニケーション技術Ⅰ	演習	30	1	30	1
		コミュニケーション技術Ⅱ	演習	30	1	30	1
	生活支援技術	生活支援技術Ⅰ	演習	30	1	30	1
		生活支援技術Ⅱ	演習	60	2	60	2
		生活支援技術Ⅲ	演習	120	4	120	4
		生活支援技術Ⅳ	演習	60	2	60	2
		生活支援技術Ⅴ	演習	30	1	30	1
	介護過程	介護過程Ⅰ	講義	30	2	30	2
		介護過程Ⅱ	演習	60	2	60	2
		介護過程Ⅲ	演習	60	2	60	2
	介護総合演習	介護総合演習	演習	60	2	60	2
	介護実習	介護実習Ⅰ	実習	45	1	45	1
介護実習Ⅱ		実習	180	4	180	4	
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	発達と老化の理解Ⅰ	講義	15	1	15	1
		発達と老化の理解Ⅱ	講義	30	2	30	2
	認知症の理解	認知症の理解Ⅰ	講義	30	2	30	2
		認知症の理解Ⅱ	演習	30	1	30	1
	障害の理解	障害の理解	講義	30	2	30	2
	こころとからだのしくみ	こころとからだのしくみⅠ	講義	15	1	15	1
		こころとからだのしくみⅡ	講義	30	2	30	2
		こころとからだのしくみⅢ	講義	30	2	30	2
こころとからだのしくみⅣ		講義	15	1	15	1	
医療的ケア	医療的ケア	医療的ケアⅠ	講義	90	6	90	6
		医療的ケアⅡ	演習	60	2	60	2
授業科目時間数及び単位数				1395	62	1395	62

保 育 科

1 学年

科目名 キリスト教概論			担当教員 渡邊さゆり	
1 年次	通年	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 本講義は、対人援助者の「霊性」「隣人性」「ディアコニア」「死生観」についてとりあげ、受講者が利用者との相互関係に着目することを目的とします。キリスト教、聖書に基づく隣人性、人権意識について学びます。「いのちの尊厳」を重んじる対人援助者の基本的姿勢、所作を学ぶことを目標とします。				
授業のねらい・概要 イエス・キリストの生涯における「癒し」と「いのちの希求」を取り上げます。特に「しょうがい」、「やまい」、「小さい人びと」とイエスとの出会いから、現代の差別、偏見の根源への気づきをうながします。高い人権意識を身に着けた対人援助者に必要な基本的知識をキリスト教、聖書から身に着けます。「心に触れる対人支援者」としての自覚を呼び覚まし、生、死、悔い改め、赦し、和解、信仰、希望、愛、奉仕、などのテーマを取り上げます。				
授業の内容・進め方				
1. オリエンテーション・チャペルアワーについて		17. イエスの癒し② (Marginalized - Centerized MK3)		
2. 彰栄学園のあゆみ		18. イエスの癒し③ (自己責任～社会的責任 JN9)		
3. キリスト教の暦、礼拝、讃美歌、祈り、聖書構成		19. Temporary Abled Body と Disabled People		
4. 世界創造物語 (「良い」ものと呼ばれること)		20. ザアカイの物語から 代苦と共生		
5. 仕える者 (創世記 6 章～)		21. Sharing Spirit 自己開示と依存性		
6. 多様な価値観 (創世記 11 章)		22. 「恐れ」、ターミナルに立たされること		
7. アブラハムの決心「信頼」(創世記 12 章)		23. 経済的、社会的「格差」に対する態度 (タリタタム)		
8. 族長物語：和解とは (創世記 32 章)		24. 「運命」論からの離脱と応答 (蒔かれた種)		
9. ヨセフ物語：「いじめ」について (創世記 37 章)		25. ぶどう園の労働者のたとえ		
10. シフラとプアの物語 (出エジプト記 1, 2 章)		26. 共感的援助 「よきサマリヤ人」のたとえ		
11. モーセの寄り道 (出エジプト記 3 章)		27. 洗足のイエスから学ぶ「愛と奉仕」(JN13)		
12. 列王記下 4 章から読む「対人支援」の基本姿勢		28. イエスはなぜ十字架につけられるのか		
13. エレミヤの手紙～そこに居続けること		29. まとめ／イエスの復活とは何だったのか		
14. まとめ／イエス・キリストの時代へ		30. 定期試験		
15. 定期試験				
16. イエスの癒し① (友を運ぶ人びと MK2)				
単位認定の方法及び基準 出席、講義への取り組み (30%)。定期試験 (前期、後期) (70%)。				
学生へのメッセージ 毎回提出する、コメント付きの出席カードにしっかりと意見を記してください。これから保育に携わる一人ひとりが、高い人権意識を養い、違いを大切にす援助者として成長することを期待しています。講義には資料を入れるためのファイルを各自準備してください。				
テキスト 講義内で資料を配布。 『聖書 新共同訳』日本聖書協会、『讃美歌・讃美歌第二編・ともにうたおう』日本基督教団出版局		参考図書 必要に応じて適宜紹介する。		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (有) 子育てで支援事業、保育、臨床牧会訓練、ターミナルケア (ホスピスでのパストラルケア)、がん治療者への伴走牧会、キリスト教プロテスタント教会牧師に携わった経験のある教員が、その経験をいかし、対人援助職養成のための講義、ワークショップを実施する。				

科目名 法学（日本国憲法を含む）		担当教員 前川佳夫		
1 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 現代日本の法を考える				
授業のねらい・概要 契約自由の原則、私的所有権の絶対性、過失責任主義を 3 本柱とする近代市民法システムは、私たちの生活全般をとりまく基本ルールとしての役割を果たしている。本講義は、19 世紀に西欧に生まれた近代市民法の特徴と日本国憲法の基本的な考え方を学び、現代日本の法をめぐる主要な課題を理解することを目的とする。				
授業の内容・進め方 講義形式で行うが、小レポートの提出を求めることもある。以下に主な講義テーマを掲げる。 <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに—— rule of law とはなにか 2. ひとり一人が権利をもつということ 3. フランス人権宣言とナポレオン法典 4. 自由権・社会権・新しい人権 5. ものを買う——消費者契約法の意義 6. 仕事につく——労働契約法の意義 7. 事故にあう——不法行為法のしくみ 8. 過失責任主義と罪刑法定主義 9. プライバシーをまもる——個人情報保護法の意義 10. 結婚、子育て、離婚に関する法 11. 児童虐待と親権の制限 12. 国会・内閣・司法 13. ひとを裁く——裁判員制度の課題 14. これからの法の役割 15. おわりに——日本法のゆくえ 				
単位認定の方法及び基準 成績は、期末試験と、授業への取り組みを総合して評価、判定する。評価の比率は、期末試験 80%、授業への取り組み 20%とする。				
学生へのメッセージ 理解しにくい言葉（法律用語など）が出てくることが多いと思いますので、そういうときは遠慮せずに質問してください。なお、授業中の私語は極力控えるように。				
テキスト 特定の教科書は使用しない。		参考図書 テーマに応じて参考文献等を紹介する。また場合によっては関連資料等のコピーを配布する。		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（ 無 ）				

科目名 体育理論			担当教員 増田未来	
1年次	後期	2単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 ヒトの発育発達を理解し、体育・スポーツ・身体活動をかんがえる、ひろげる、ふかめる				
授業のねらい・概要 誕生から死に至るまでのヒトの形態、機能、体力の変化と、それらと運動の関わりを理解する。また、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るために、運動やスポーツについての幅広い知識を身に付ける。それによって、子ども達の成長という現象を多角的に捉えるための目を培う。				
授業の内容・進め方 1. ヒトの成長の生物学的基礎 2. 発育発達の諸理論 3. 乳幼児期の発育発達 4. 思春期までの発育発達 5. 思春期の発育発達 6. 体力特性と加齢変化 7. 発育発達と運動学習 8. 運動指導の実例と体育・スポーツ共創 9. 運動やスポーツの多様性 10. 文化としての体育・スポーツの意義 11. 現代の体育・スポーツの特徴 12. スポーツとSDGs、オリンピック教育 13. スポーツ観戦学とスポーツ産業 14. 発育発達と運動指導のまとめ 15. 豊かなスポーツライフの設計の仕方				
単位認定の方法及び基準 評価は期末試験を基本とし、授業への積極性も加えて評価する。評価比率は、授業中の課題提出や授業態度60%、期末試験を40%とする。				
学生へのメッセージ 対話的なグループ活動の多い科目なので、コミュニケーションをしっかりと取り、相手の発言を受け止め発言するよう心がけること。各授業における積極的な態度も評価として考慮するので、些細な質問でも積極的にすること。				
テキスト 特定の教科書は使用しない			参考図書 『「遊び」から考える体育の学習指導』創文企画 『よくわかるスポーツ文化論 [改訂版]』ミネルヴァ書房	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育園における運動あそび（ボールあそびやマット運動等を含む）の指導経験を持つ教員が、生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るために必要な、運動やスポーツに関する幅広い知識、技術を指導する。				

科目名 外国語コミュニケーション			担当教員 佐々木三千代	
1年次	通年	2単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育現場で使用する英語の単語と表現、コミュニケーションスキルを身につける。				
授業のねらい・概要 1. 保育者としての知識、英語4技能をバランスよく身につける。 2. 保育現場において外国人園児やその保護者とのコミュニケーションを円滑に行うことのできる力を養う。				
授業の内容・進め方 1. オリエンテーション・保育英語について 2. (1) 新学期・園の人々・園舎 3. (2) 登園・家族 4. (3) 室内あそび・保護者との連絡 5. (4) 外あそび・遊具 6. (5) 園庭・トラブル 7. 実践コミュニケーション I 8. (6) 食事 9. (7) 着替え・おはなし 10. (8) トイレ・お昼寝 11. コミュニケーションロールプレイ 12. Sing and Dance 1 13. Sing and Dance 2 14. Sing and Dance 発表 15. これまでのまとめ・期末試験 16. (9) 体の症状を知る・伝える 17. (10) 緊急事態の対応 18. 実践コミュニケーション II 19. (11) 行事の案内状・電話連絡 20. 運動会・アクティビティ 21. (13) 散歩 (1) 地図 22. (14) 散歩 (2) 交通機関 23. (15) お絵描き・クラフト 24. Grammar I (Reading/Writing) 25. Grammar II (Reading/Writing) 26. 実践コミュニケーション III 27. Storytelling I 28. Storytelling II 29. 実践発表 30. これまでのまとめと期末試験				
単位認定の方法及び基準 前期試験 (20%)、後期試験 (20%) アクティビティ・コミュニケーション活動・発表 (40%) Grammar テスト (20%)				
学生へのメッセージ 昨今の保育現場では英語を使用できる保育士・教諭を求めている。英語によるアクティビティ・コミュニケーションスキルを身につけることにより、多様化した保育現場に対応できる保育者を目指してほしい。				
テキスト 森田和子『新・保育の英語』三修社			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (無)				

科目名 情報機器演習			担当教員 門岡喜威			
1年次	通年	2単位	必修	演習		
授業のテーマ及び到達目標 保育にも、パソコンを活用しよう。						
授業のねらい・概要 保育の中でパソコンなど情報機器を効果的に活用するために、パソコンなどの情報機器を扱う技術を身につける必要がある。保育素材などを用いた演習を中心に、情報収集や処理、活用の技能を身につけ、情報化社会に対応していくための基本的な態度や能力を養う。						
授業の内容・進め方						
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. パソコンの構造と機能について 2. OS (Windows) の基礎知識と基本的な操作 3. 文書作成ソフト (Word) 操作 ①文書の体裁・文字入力とフォントの変更 ②文書の装飾・装飾の設定 ③文書の書式 ④ワードアートの扱い ⑤クリップアートや写真の扱い ⑥図形を描く ⑦図形と文字の配置 ⑧表の作成 ⑨文書の印刷 4. プレゼンテーション・ソフト (Power Point) ①プレゼンテーションソフトの概要と構想 ②背景の設定とスライドのデザイン ③文章の入力 ④画像の挿入 ⑤スライドの切り替えとアニメーション効果 5. データの処理・表計算ソフト (Excel) 操作 ①データの入力と修正 </td> <td style="vertical-align: top;"> ②行や列の挿入・削除 ③セル、行や列の調整 ④データ処理の基本 ⑤データ処理 (グラフ作成・基本的な関数) ⑥表の印刷 6. ワープロソフトと表計算ソフトのリンク 7. インターネットの活用 ①情報や資料の収集、資料の活用 ②資料の整理と情報発信 ③情報化社会とその対応 8. 情報機器の保育・教育への応用 (実践演習) ①指導場面の構想と作成計画 ②作成 (実習) ③作成 (実習) ④プレゼンテーションと相互評価 </td> </tr> </table>					1. パソコンの構造と機能について 2. OS (Windows) の基礎知識と基本的な操作 3. 文書作成ソフト (Word) 操作 ①文書の体裁・文字入力とフォントの変更 ②文書の装飾・装飾の設定 ③文書の書式 ④ワードアートの扱い ⑤クリップアートや写真の扱い ⑥図形を描く ⑦図形と文字の配置 ⑧表の作成 ⑨文書の印刷 4. プレゼンテーション・ソフト (Power Point) ①プレゼンテーションソフトの概要と構想 ②背景の設定とスライドのデザイン ③文章の入力 ④画像の挿入 ⑤スライドの切り替えとアニメーション効果 5. データの処理・表計算ソフト (Excel) 操作 ①データの入力と修正	②行や列の挿入・削除 ③セル、行や列の調整 ④データ処理の基本 ⑤データ処理 (グラフ作成・基本的な関数) ⑥表の印刷 6. ワープロソフトと表計算ソフトのリンク 7. インターネットの活用 ①情報や資料の収集、資料の活用 ②資料の整理と情報発信 ③情報化社会とその対応 8. 情報機器の保育・教育への応用 (実践演習) ①指導場面の構想と作成計画 ②作成 (実習) ③作成 (実習) ④プレゼンテーションと相互評価
1. パソコンの構造と機能について 2. OS (Windows) の基礎知識と基本的な操作 3. 文書作成ソフト (Word) 操作 ①文書の体裁・文字入力とフォントの変更 ②文書の装飾・装飾の設定 ③文書の書式 ④ワードアートの扱い ⑤クリップアートや写真の扱い ⑥図形を描く ⑦図形と文字の配置 ⑧表の作成 ⑨文書の印刷 4. プレゼンテーション・ソフト (Power Point) ①プレゼンテーションソフトの概要と構想 ②背景の設定とスライドのデザイン ③文章の入力 ④画像の挿入 ⑤スライドの切り替えとアニメーション効果 5. データの処理・表計算ソフト (Excel) 操作 ①データの入力と修正	②行や列の挿入・削除 ③セル、行や列の調整 ④データ処理の基本 ⑤データ処理 (グラフ作成・基本的な関数) ⑥表の印刷 6. ワープロソフトと表計算ソフトのリンク 7. インターネットの活用 ①情報や資料の収集、資料の活用 ②資料の整理と情報発信 ③情報化社会とその対応 8. 情報機器の保育・教育への応用 (実践演習) ①指導場面の構想と作成計画 ②作成 (実習) ③作成 (実習) ④プレゼンテーションと相互評価					
単位認定の方法及び基準 演習における課題達成度及びテスト・出席状況による総合評価。						
学生へのメッセージ 学生諸君のこれまでの環境や生活経験の違いから、パソコンなど情報機器への興味・関心や扱い方の能力差が大きいことが予想されます。パソコン初心者をご想定して、説明や演習を進めますが、分からないところは互いに教えあい、協力しながら、技術も身につけてください。 実践演習を多く取り入れ、保育園や幼稚園などでの活用を考え、まとめをしたいと考えます。						
テキスト 「30時間でマスター Word 2019」実教出版 「30時間でマスター Excel 2019」実教出版			参考図書 Word、Excel、Power Point については多くのハウツウ本が市販されています。分かり易さも様々ですが、自分にあった物があれば参考になります。			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (有) メーカーと共同で教育ソフト開発経験のある教員が、その経験を活かし、オフィスソフトを中心に実践的に指導する。						

科目名 保育原理 I			担当教員 山梨有子	
1 年次	前期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 保育の概念及び今日の保育の実態の概要を総合的に知る。保育の総合的理解の上に保育者の役割について学ぶ。				
授業のねらい・概要 保育の意義及び目的について理解する。また、保育の内容と方法の基本について理解する。保育者の専門性について理解する。保育に関する法令及び制度を理解する。				
授業の内容・進め方 1. 授業のねらい、方針について 2. 現在の保育の周辺状況 3. 日本の保育の思想と歴史 4. 諸外国の保育の思想と歴史 5. 保育の意義① 児童の最善の利益とは 6. 保育の意義② 保育の理念と概念 7. 保育の意義③ 保育の社会的役割と責任 8. 保育所保育指針における保育の基本① 養護と教育の一体性・環境を通して行う保育 9. 保育所保育指針における保育の基本② 発達に応じた保育 10. 保育所保育指針における保育の基本③ 保護者との密接な関係 11. 保育の目標と方法① 保育の目標 12. 保育の目標と方法② 遊びを通して総合的に行う保育 13. 保育の目標と方法③ 保育の計画：記録・省察と評価 14. 保育の現状と課題・保育に関する法令及び制度 15. 保育者の専門性とは				
単位認定の方法及び基準 授業への取り組み・課題 1/2、定期試験 1/2 程度とし、総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 保育を体系的に学ぶことで保育の楽しさを学んでいきましょう。日頃から保育に関する時事情報に関心を持ち臨んでください。				
テキスト 無藤隆、増田時枝、松井愛菜編著「保育実践・原理・内容－写真でよみとく保育－」ミネルヴァ書房			参考図書 厚生労働省「保育所保育指針解説平成 30 年」フレール館 他、適宜授業で紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育実践の経験がある教員がその経験を活かし、保育所保育指針に基づく保育の理解を深める授業を行う。				

科目名 教育の原理と制度			担当教員 綾 牧子 / 伊藤智行	
1 年次	前期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 教育学の基本的な知識と考え方を学ぶことが目的である。教育の意義・目的、教育の基礎的概念、理論、歴史、制度等について知ることで、教育に関する体系的知識を習得する。また、子ども家庭福祉との関連性を理解し、基礎的な実践原理や指導原理に関して理解する。さらに、現代の生涯学習社会における教育の在り方について考察する。最終的には、教育に関して幅広い考え方ができるようにすることが目標である。				
授業のねらい・概要 「教育」とは、どのような営みかを常に考えながら授業を進める。教育の基本的な知識を身に付けた上で、「教育を受ける立場」から「教育をする立場」に立つことを考えながら発想の転換を図り、教育に関する幅広い思考を獲得することを目指す。				
授業の内容・進め方 1. 教育の意義 2. 教育の目的 3. 乳幼児期の教育の特性 4. 教育と子ども家庭福祉の関連性 5. 人間形成と家庭・地域・社会等との関連性 6. 諸外国の教育思想と歴史 7. 日本の教育思想と歴史 8. 子ども観と教育観の変遷 9. 教育制度の基礎 10. 教育法規・教育行政の基礎 11. 諸外国の教育制度 12. 教育実践の基礎理論－内容・方法・計画と評価－ 13. 教育実践の多様な取り組み 14. 生涯学習社会と教育 15. 現代の教育課題 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、授業におけるレポート課題の評価（30%）				
学生へのメッセージ 「教育」とは、どのような営みかを常に考えながら授業を進めていきたい。「教育を受ける立場」は誰でもが経験してきているが、今度は「教育をする立場」に立った場合を考えていくことで、発想の転換を図り、幅広い思考を獲得してほしい。授業は、テキストや適宜資料を配布して進める。また、テーマによっては、グループワークや発表を取り入れていく。				
テキスト 『コンパクト版 保育者養成シリーズ 教育原理』（石橋哲成編著、一藝社）			参考図書 『教育のための教育原理の現状と課題』（山室吉孝編著、大学図書出版） その他、授業時に適宜紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 無 ）				

科目名 子ども家庭福祉		担当教員 藤澤麻里				
1 年次	後期	2 単位	必修	講義		
授業のテーマ及び到達目標 子ども家庭福祉の意義、制度、現状、動向等を学ぶ 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。						
授業のねらい・概要 子ども家庭福祉の専門職である保育士にとって、子ども家庭福祉全般についての知識や役割等の理解は必要不可欠である。 この授業では子ども家庭福祉の意義、歴史、法律、制度、サービス等の体系を学ぶとともに、現状と課題を把握し、その動向と展望等についても理解を深めていきたい。 また、子どもの人権の尊重のあり方や保育士の役割、特に関係機関との連携と子ども・家庭への援助方法についても取り上げていきたい。						
授業の内容・進め方 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷 1. 子ども家庭福祉の理念と概念 2. 子ども家庭福祉の歴史の変遷 / 現代社会と子ども家庭福祉 子どもの人権擁護 3. 子どもの人権擁護の歴史の変遷 / 児童の権利に関する条約 4. 子どもの人権擁護と現代社会における課題 子ども家庭福祉の制度と実施体系 5. 子ども家庭福祉の制度と法体系 6. 子ども家庭福祉の実施体系 7. 児童福祉施設 / 子ども家庭福祉の専門職 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 子ども家庭福祉の現状と課題 8. 少子化と地域子育て支援 / 母子保健と子どもの健全育成 9. 多様な保育ニーズへの対応 10. 子ども虐待・DV とその防止 / 社会的養護 11. 障害のある子どもへの対応 / 少年非行等への対応 12. 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 子ども家庭福祉の動向と展望 13. 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 14. 地域における連携・協働とネットワーク 15. 諸外国の動向・まとめ </td> </tr> </table>					現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷 1. 子ども家庭福祉の理念と概念 2. 子ども家庭福祉の歴史の変遷 / 現代社会と子ども家庭福祉 子どもの人権擁護 3. 子どもの人権擁護の歴史の変遷 / 児童の権利に関する条約 4. 子どもの人権擁護と現代社会における課題 子ども家庭福祉の制度と実施体系 5. 子ども家庭福祉の制度と法体系 6. 子ども家庭福祉の実施体系 7. 児童福祉施設 / 子ども家庭福祉の専門職	子ども家庭福祉の現状と課題 8. 少子化と地域子育て支援 / 母子保健と子どもの健全育成 9. 多様な保育ニーズへの対応 10. 子ども虐待・DV とその防止 / 社会的養護 11. 障害のある子どもへの対応 / 少年非行等への対応 12. 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 子ども家庭福祉の動向と展望 13. 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 14. 地域における連携・協働とネットワーク 15. 諸外国の動向・まとめ
現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷 1. 子ども家庭福祉の理念と概念 2. 子ども家庭福祉の歴史の変遷 / 現代社会と子ども家庭福祉 子どもの人権擁護 3. 子どもの人権擁護の歴史の変遷 / 児童の権利に関する条約 4. 子どもの人権擁護と現代社会における課題 子ども家庭福祉の制度と実施体系 5. 子ども家庭福祉の制度と法体系 6. 子ども家庭福祉の実施体系 7. 児童福祉施設 / 子ども家庭福祉の専門職	子ども家庭福祉の現状と課題 8. 少子化と地域子育て支援 / 母子保健と子どもの健全育成 9. 多様な保育ニーズへの対応 10. 子ども虐待・DV とその防止 / 社会的養護 11. 障害のある子どもへの対応 / 少年非行等への対応 12. 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 子ども家庭福祉の動向と展望 13. 次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進 14. 地域における連携・協働とネットワーク 15. 諸外国の動向・まとめ					
単位認定の方法及び基準 定期試験と出欠席状態、提出物、授業への取組みを総合して評価する。基礎知識の理解度を重視して試験 80%、その他 20% 程度の割合とする。						
学生へのメッセージ 子どもの健やかな育ちを支え、家庭を支援するために必要な福祉理念、法律、制度、実践について授業を通して考え、理解を深めて欲しい。						
テキスト 喜多一憲監修・堀場純矢編 『子ども家庭福祉』(株) みらい		参考図書 授業中に適宜紹介する。				
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (有) 保育現場に勤務した経験を持つ教員が、保育者になるために必要な子ども家庭福祉の知識、保育者としての視点について事例を紹介しながら授業を行う。						

科目名 社会福祉			担当教員 伏見幸子	
1 年次	前期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 この授業では、社会保障・社会福祉の概念、社会福祉・社会保障制度の歴史、現在の社会保険制度の仕組みと財源、福祉マンパワー、福祉関連法規等、社会保障、社会福祉の現状と課題について講義します。				
授業のねらい・概要 1. 現代社会における社会福祉の理念、意義について理解する。 2. 社会福祉の法体系、制度及び行財政の基礎について理解する。 3. 社会福祉サービス体系における講師の役割や活動内容について理解する。 4. 社会福祉専門職の役割と援助技術の基礎を理解する。 5. 社会福祉の関連領域について理解する。 6. 現代における社会福祉サービス利用者保護の諸制度を理解する。				
授業の内容・進め方 1. (1) 授業オリエンテーション 授業の進め方、小六法や資料の読み方使い方 (2) 講義：私たちを取り巻く社会 2. 社会保障・社会福祉とは その理念と歴史 3. 現代社会の生活問題、社会福祉の対象とニーズ 4. 現代の貧困問題と公的扶助制度 5. 高齢社会の下での高齢者福祉 6. 社会保険制度：介護保険制度 7. 社会保険制度：医療保険制度 8. 社会保険制度：①年金制度 ②雇用保険制度 ③労災ほか 9. 社会保障関連諸施策、第1回～第8回までの範囲で中間試験 10. 障がい者福祉（障害者総合支援法その1） 11. 障がい者福祉（障害者総合支援法その2） 12. 福祉サービス利用者保護のしくみと権利擁護 13. 地域福祉とソーシャルワーク 14. 社会福祉専門職の職業倫理とボランティア 15. 社会福祉関連サービス、第8回～第14回までの範囲を中心にまとめ試験				
単位認定の方法及び基準 2回の筆記試験結果90%、出席状況等の授業態度10%				
学生へのメッセージ 授業の進め方や受講のポイントなど、大事なことは第1回目授業で話しますので、必ず出席してください。				
テキスト 1. 岡田忠克編『よくわかる社会福祉』最新版 ミネルヴァ書房 2. 『保育福祉小六法2021年版』（株）みらい			参考図書 『社会保障入門2019』中央法規出版	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 福祉事務所にて婦人・母子相談員として勤務した経験がある教員が、その経験を活かし、授業を行う。				

科目名 社会的養護 I			担当教員 熊田智恵子	
1 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 保育士に必要な社会的養護の基礎を理解する				
授業のねらい・概要 1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する 2. 子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する 3. 社会的養護の制度や実施体系、対象や形態等について理解する				
授業の内容・進め方 1. 授業オリエンテーション 社会的養護の概念・意義 2. 社会的養護の歴史の変遷 3. 社会的養護の理念 4. 子どもの権利擁護と社会的養護 5. 社会的養護の基本原則 (1) 6. 社会的養護の基本原則 (2) 7. 社会的養護の法制度の理解 8. 社会的養護の仕組みと実施体系 9. 施設養護 (1) 10. 施設養護 (2) 11. 家庭養護 (1) 12. 家庭養護 (2) 13. 社会的養護に関わる専門職の倫理・責務 14. 被措置児童等の虐待防止と地域福祉 15. まとめ				
単位認定の方法及び基準 平常点（授業への参加態度、授業内の課題提出等）40%、期末試験 60%とし、総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 保育士資格取得にともなう社会的責務を認識しながら、自己を洞察する視点を培って行ってほしい。				
テキスト 『図解で学ぶ保育 社会的養護 I』 原田旬也・杉山宗尚編著 萌文書林			参考図書 初回にアナウンスする	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 社会福祉士として療育施設に勤務した経験のある教員が、その経験を活かして社会的養護の知識・技術についての授業を行う。				

科目名 教育心理学			担当教員 日比 暁美	
1 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 子どもの発達を踏まえた学習過程等に関する基礎的な知識と考え方を理解する。				
授業のねらい・概要 発達、学習、人格・適応・評価等に関する心理学の基礎的な事項についての理解を図り、保育実践の能力を高めるための授業展開を行う。				
授業の内容・進め方 1. 教育心理学とは何か 2. 発達を捉える視点 3. 人生周期と漸成 4. 子どもの発達と環境 5. 発達理論と発達観・子ども観・保育観 6. 人間の発達と生涯学習の課題 7. 乳児期の発達課題と社会情動的スキル 8. 幼児期の発達課題と社会情動的スキル 9. 児童期以降の発達課題と社会情動的スキル 10. 乳幼児期の学びに関わる理論～条件づけと観察学習 11. 乳幼児期の学びの過程と特性 12. 子どもの生活と学び 13. 子どもの遊びと学び 14. 乳幼児の学びを支える保育 15. 保育・幼児教育をめぐる諸問題 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（80%）、小課題の提出物の評価（20%）				
学生へのメッセージ 新聞の教育欄などには日頃から目を通し、いわゆる「教育問題」への関心を高めてほしい。授業中の質問は大いに歓迎する。				
テキスト 『保育の心理学』（長谷部日呂美・日比暁美・山岸道子・吉村真理子著、ななみ書房）			参考図書 授業時に配布または紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （有） 心理カウンセラー、児童福祉司の経験のある教員が、発達、学習、適応等について講義する。				

科目名 発達心理学			担当教員 政近彩子	
1 年次	前期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 子どもの発達に関する知識と考え方を学び、保育現場での子どもを理解する。				
授業のねらい・概要 特に乳幼児期の発達を理解するための基礎的知識の習得を目指し、具体的な子どもへの関わりのあり方について考察できる授業を展開する。				
授業の内容・進め方 1. 発達心理学を学ぶ目的と方法 2. 発達の理論と発達の個人差 3. 初期経験の重要性 4. 発達課題の理解 5. 胎児期の発達 6. 新生児期の発達 7. 乳児期から児童期の運動発達 8. 乳児期から児童期の言語発達 9. 乳児期から児童期の認知発達 10. 乳児期から児童期の社会性発達 11. 乳児期から児童期の情動発達 12. 青年期の発達 13. 成人期の発達 14. 老年期の発達 15. 生涯発達の観点からみた人間の一生 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、小テスト・小課題の評価（30%）				
学生へのメッセージ 授業は、出席と授業態度を重視します。講義の中でグループワークなどを行いますので、皆さんの積極的な参加を希望しています。				
テキスト 『手にとるように発達心理学がわかる本』（小野寺敦子著、かんき出版）			参考図書 授業時に配布または紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 中学校における心の教室相談員、精神保健福祉センターにおける精神科救急医療相談員の経験を有する教員が、その経験を活かし、発達心理学について授業を行う。				

科目名 子どもの保健			担当教員 安藤 幸子	
1 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 小児の心身を医学的に学ぶ				
授業のねらい・概要 1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2) 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3) 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4) 子どもの疾病とその予防法および他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。				
授業の内容・進め方 子どもの心身の健康と保健の意義 1. 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 2. 健康の概念と保健指標 3. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 4. 地域における保健活動と子ども虐待防止 子どもの身体的発育・発達と保健 5. 身体発育および運動機能の発達と保健 6. 生理機能の発達と保健 (1) 7. 生理機能の発達と保健 (2) 子どもの心身の健康状態とその把握 8. 健康状態の観察 9. 心身の不調等の早期発見 10. 発育・発達の把握と健康診断 11. 保護者との情報共有 子どもの疾病の予防および適切な対応 12. 主な疾病の特徴 (1) 13. 主な疾病の特徴 (2) 14. 子どもの疾病の予防と適切な対応 (1) 15. 子どもの疾病の予防と適切な対応 (2)				
単位認定の方法及び基準 筆記試験 70% 課題提出 20% 授業態度 10% による総合評価				
学生へのメッセージ 子どもの心身の健康を守るのは、皆さんです。子どもは自ら訴えることができない場合が多く、保育の現場で皆なんが気づくことが必要です。この授業では、基礎的な知識を踏まえた上で、事例検討を重ねていきたいと思ひます。現場で起こっている様々な課題を一緒に考えていきましょう。				
テキスト 小林美由紀編著「子どもの保健テキスト」診断と治療社			参考図書 必要があれば授業中に紹介する	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (無)				

科目名 生涯学習論			担当教員 栗原 保	
1 年次	後期	2 単位	選択	講義
授業のテーマ及び到達目標 生涯学習に関する基本的な知識と考え方を学ぶことで、保育者としての専門性を高める。				
授業のねらい・概要 「生涯教育から生涯学習に発展していった背景」が根本原理である。授業では、生涯学習の意義・目的、基礎的概念・理論、歴史、制度について学ぶことで体系的な知識を習得する。保育の本質・目的の理解を目指す「教育原理」、「社会福祉」、「児童福祉」などとの関連性を理解することで保育者としての幅広い考え方を習得する。				
授業の内容・進め方 1. 生涯教育の誕生 2. 生涯教育から生涯学習への発展 3. 生涯教育の意義・目的 4. 諸外国の生涯教育 5. 人間発達と生涯教育 6. 生涯教育と学校教育 7. 生涯教育と社会教育 8. 生涯教育と家庭教育 9. 子育て支援と生涯学習支援システム (1) 10. 子育て支援と生涯学習支援システム (2) 11. 生涯学習の展開 (1) 12. 生涯学習の展開 (2) 13. 生涯学習に関する市民活動の動向 14. 生涯学習社会の構築 15. 福祉と生涯学習との関連性と課題				
単位認定の方法及び基準 期末試験、途中のレポート (1 回) 提出、予習課題等で評価する。期末試験 60%、レポート 40%等とする。				
学生へのメッセージ 今まで学んできた学校教育を教育・学習の原点にかえて見つめ直すことが必要となる。家庭や地域における自身の経験を教育的な事象と結びつける学びの姿勢が不可欠である。そのため、生涯学習に関する実態把握を行う調査活動を重視している。				
テキスト 遠藤克弥編『地域教育論』川島書店			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (有) 社会教育施設 (公民館、青少年教育施設) や公立中学校、教育委員会で社会教育主事・管理職経験がある教員が、その経験を活かし、生涯学習の今日的課題への対応を指導する。				

科目名 保育・教育課程論		担当教員 綾牧子 / 伊藤智行		
1 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 保育・教育課程編成の基礎事項を学び、計画と実践についての関係を理解する。				
授業のねらい・概要 保育の計画の全体構造を捉え、理解できるようにする。また、保育・教育課程の編成と指導計画の作成、評価の意義について具体的に学び実践する基礎を身に付ける。				
授業の内容・進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1. 保育・教育課程編成の基本原則とカリキュラムの基礎理論 2. 保育・教育課程編成における計画と評価の意義 3. 子ども理解に基づく保育・教育課程の循環による保育の質の向上 4. 「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の内容及び社会的背景、並びに保育の目標と計画の基本的な考え方 5. 「教育課程」・「全体的な計画」と「指導計画」の関連性とカリキュラム・マネジメント 6. カリキュラム・マネジメントの意義 7. 幼稚園における指導計画（長期的・短期的）の作成 8. 保育所における指導計画（長期的・短期的）の作成 9. 認定こども園における指導計画（長期的・短期的）の作成 10. カリキュラム・マネジメントに基づいた指導計画作成上の留意事項 11. カリキュラム・マネジメントに基づく保育の柔軟な展開 12. 保育の記録及び省察 13. 保育者の自己評価 14. 保育の質向上に向けた改善の取組 15. 生活と発達の連続性を踏まえた幼稚園幼児指導要録と保育所児童保育要録等 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（60%）、授業内での課題の評価（20%）、課題レポート（20%）				
学生へのメッセージ 保育の計画について、グループワークを中心に理論、指導案作成、実践を学びます。子どもにとってのふさわしい保育の計画を理解していきます。				
テキスト 『教育課程・保育の計画と評価－書いて学べる計画と評価』（岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正著、萌文書林）		参考図書 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（ 無 ）				

科目名 保育指導法総論			担当教員 野見山直子	
1 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 子ども理解を基礎にした保育内容、及び保育の方法や技術を総合的に学び、豊かな子どもの育ちを支える保育の視点を持つ。				
授業のねらい・概要 保育所、幼稚園、認定こども園における保育内容についての構造、歴史的変遷を理解する。保育内容、及び保育の方法や技術と保育計画の基礎を学び、子ども理解を踏まえた保育を営む視点を養う。保育のニーズや課題について学び、考察する。				
授業の内容・進め方 1. 保育の全体構造と保育内容 2. 保育の内容の歴史的変遷と社会背景 3. 保育の方法に関する基礎的理論と実践の理解 4. 主体的・対話的で深い学びを実現するための保育の在り方（子どもの主体性を尊重した保育） 5. 子どもの発達や生活に即した保育内容を構成する基礎的な考え方の理解 6. 育みたい資質・能力と子ども理解に基づいた評価の考え方 7. 個と集団の発達と保育内容 8. 養護及び教育が一体的に展開する保育 9. 環境を通して行う保育 10. 生活や遊びにおける情報機器等の教材を活用した保育技術の理解と実践 11. 保育指導案作成のための基礎理論 12. 情報機器を活用した家庭・地域との連携を踏まえた保育 13. 小学校との連携を踏まえた保育 14. 長時間の保育及び特別な支援を必要とする子どもの保育 15. 多文化共生の保育 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（60%）、授業内での課題の評価（20%）、課題レポート（20%）				
学生へのメッセージ 積極的にグループワークやディスカッションに参加し、自分の子ども観、保育観の視野を広げて欲しい。また、日常においても保育に関する情報にアンテナを張り、現在の保育の課題について敏感になって欲しい。				
テキスト 『マンガとアクティブラーニングで学ぶ 保育内容総論』第2版（開仁志編著、保育情報出版）			参考図書 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 幼稚園教諭経験のある教員が実践事例を用い、幼児理解を踏まえた保育計画の立て方、指導・援助の在り方についての授業を行う。				

科目名 環境指導法			担当教員 石川晶生	
1年次	後期	1単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 自然をはじめとする身近な環境との関わりについて学び、その教育的意義について理解を深める。				
授業のねらい・概要 遊具や玩具、栽培方法や食育の意義とその支援方法を探る。さらに、子どもをとりまく自然環境や社会環境などの成り立ちを保育者として客観的にとらえ、環境の持つ教育力について考察する。また、外遊びによって五官が刺激され、身体と頭を使うことによって心が豊かに育っていく意義についても考察する。				
授業の内容・進め方 1. 環境と子どもの活動～栽培活動と情報・機器等を活用した管理 2. 環境と子どもの活動～動物飼育と情報・機器等を活用した管理 3. 環境と子どもの活動～伝統遊びにおける多様な教材の活用 4. 環境と子どもの活動～数と形における多様な教材の活用 5. 環境と子どもの活動～動物園での学外授業 6. 領域「環境」のねらいと「身近な環境と子どもの生活、活動」 7. 園外保育の方法と設計 8. 自然現象と社会～自然現象のとらえ方 9. 自然現象と社会～自然現象が社会環境に与える影響 10. グループ活動での模擬保育～自然環境について 11. グループ活動での模擬保育～自然保全について 12. グループ活動での模擬保育～自然とふれあう際の安全指導について 13. グループ活動での模擬保育～子どもの遊びと文化について 14. グループ活動での模擬保育～絵本を用いた環境教育について 15. まとめ～環境と子ども、保育者のかかわり・人的環境 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、課題レポート提出（30%）				
学生へのメッセージ 子どもは遊びをとおして自分をとりまく環境の中でさまざまな刺激を受けています。園内環境はその意味で重要な環境です。保育者は子どもにとって大きな影響力をもつ人的環境であることをよく認識して、さまざまな体験をさせて下さい。 授業は全出席が基本です。欠席した学生は必ず自らをフォローすること。積極的に授業に参加し、大人としての態度と行動を望みます。テキスト以外の内容もあります。ノートをとること。特に復習は重要です。時に小テストなどもあります。				
テキスト 『シードブック 保育内容 環境〔第3版〕』（榎沢良彦・入江礼子編著、建帛社）			参考図書 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 無 ）				

科目名 表現指導法ⅠA			担当教員 荒木みどり	
1年次	前期	1単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 子どもの育ちになかでの「表現」の捉え方と実践演習での気づきによって、「表現」領域を理解する。				
授業のねらい・概要 表現領域の「造形表現」を軸に、「音楽表現」や「身体表現」の領域を取り入れた実践演習を行う。				
授業の内容・進め方 1. 「表現」領域のねらいと授業の概要 2. 表現領域の捉え方 — 子どもの世界を知る。感じる。考える。 3. 子ども描画の発達過程と子どもの気持ち 4. つくる表現の発達過程Ⅰ — クレヨンを使って 5. つくる表現の発達過程Ⅱ — 新聞紙を使って 6. つくる表現でのグループ発表 7. 子どもの技能発達過程の理解と活動 — ハサミの訓練1 8. 保育者の製作物 — ハサミの訓練2 9. 造形あそびⅠ — 素材とかかわるあそびの工夫 10. 造形あそびⅡ — 活動を振り返って、グループミーティングと発表 11. 活動に繋がる促し — 保育現場の実践記録を通して理解する 12. 表現あそびの提案 — 身近な素材を使って、手遊び歌を考える 13. 表現あそびの発表 — グループ発表を通して、面白さを知る 14. 12ヶ月を通して保育現場における行事の理解 15. 12ヶ月を通して保育現場におけるあそびの演習 定期試験				
単位認定の方法及び基準 授業や演習での積極性（50%）提出物（20%）定期試験（15%）出席状況（15%）				
学生へのメッセージ 子どもの気持ちに立ち戻りながら演習を行い、保育者目線で育ちのなかでのあそびを理解してください。				
テキスト 適宜、印刷物を配布する			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） こどもの造形ワークショップや幼児遊具の開発経験を有する教員が、乳幼児の造形表現活動を支えるための基礎的知識・技能・表現力を養うための講義、実践演習を行う。				

科目名 表現指導法 I B			担当教員 増田未来	
1 年次	後期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 「表現」の領域のねらいと内容を理解する。また、子どもの表現力を育てるための保育者の役割を理解する。				
授業のねらい・概要 音楽と身体表現を用いた表現を実践的に学ぶ。身体運動の中にあるリズムを楽しむとともに、保育の現場で音楽リズムを活用する方法を実践し、表現についての基本的な考えを理解する。また、保育における豊かな表現的環境づくりについて考察する。				
授業の内容・進め方 1. 「表現」のねらいと内容について 2. 子どもの発育・発達と身体表現について 3. 幼児期の表現活動と小学校の諸科目との学びの連続性について 4. 情報機器等を活用した模擬保育の実践 －五感を使った表現活動（リズム遊び入門） 5. 情報機器等を活用した模擬保育の実践 －身体を用いた表現活動①手遊び・からだあそび 6. 情報機器等を活用した模擬保育の実践 －身体を用いた表現活動②音まねっこ・リズムまねっこ 7. 情報機器等を活用した模擬保育の実践 －自然や自然物を用いた表現活動 8. 情報機器等を活用した模擬保育の実践 －季節の行事に関連した表現活動 9. 情報機器等を活用した模擬保育の実践 －新聞紙など身近な素材を用いた表現活動 10. 情報機器等を活用した模擬保育の実践 －インクルーシブ保育における表現活動 11. 表現活動や遊びを広げるための情報機器等を活用した教材研究 12. 情報機器等を活用した模擬保育 －グループ学習での指導案作成 13. 情報機器等を活用した模擬保育 －グループ学習での教材研究 14. 情報機器等を活用した模擬保育 －グループ発表での実践発表 15. 保育の場における豊かな表現的環境づくりについての考察 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（60%）、授業内での実技評価（40%）				
学生へのメッセージ 大人である私たちも、好きな音楽を聴けば自然に身体が動く。自身が持つ「リズムを楽しむ能力」を呼び覚まし、トレーニングする機会にしたいと考えている。積極的な参加を期待する。				
テキスト 適宜、印刷物を配布する。			参考図書 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育園における運動あそび（身体表現あそびを含む）の指導経験を持つ教員が、子どもの身体を用いた表現あそびやその指導方法を解説する。				

科目名 子どもと健康			担当教員 眞鍋 隆祐	
1 年次	後期	1 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 領域「健康」の指導の基盤となる知識、技術を身に付ける。				
授業のねらい・概要 子どもの心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などに関して、大人と違った特徴や意義があることを踏まえ、その相違が指導方法にも関連していることについて理解する。				
授業の内容・進め方 1. 乳幼児期の健康問題 2. 健康の定義と乳幼児期の健康の意義 3. 乳幼児を取り巻く生活環境と健康 4. 乳幼児の心身の発達の特徴 5. 乳幼児の生理機能の発達 6. 乳幼児の生活習慣の形成 7. 乳幼児の生活リズムの形成とその意義 8. 乳幼児の安全教育 9. 危険に関するリスクとハザード 10. 乳幼児期の運動発達の特徴 11. 幼児期の「多様な動き」の意味 12. 日常生活における運動 13. 社会の変化と生活の中の動き 14. 遊びとしての運動 15. 保育における身体活動 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、授業中の課題提出（30%）				
学生へのメッセージ 乳幼児期は生涯にわたって健康的な生活を送る基となる習慣を、遊びや生活を通して身に付ける重要な時期です。自分ならどのようにかかわるだろうかと考えながら授業に臨んでいただきたい。				
テキスト 『新しい保育講座 7 保育内容「健康」』 ミネルヴァ書房			参考図書 適宜、参考資料を配布する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 幼稚園でボールあそびや平均台、マット等の幼児体育実技指導に携わった経験を持つ教員が、領域「健康」の基盤となる、子どもの心身の発達や基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などに関して、知識、技術を指導する。				

科目名 子どもと環境			担当教員 石川晶生	
1年次	前期	1単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 領域「環境」の指導の基盤となる知識、技術を身に付ける。				
授業のねらい・概要 野外の自然環境や生き物の姿を知ることを通して自然の環境についての認識を深めると共に、乳幼児の生活のすべてである遊びの実態を捉え、活動の場である園内外の環境について考察する。				
授業の内容・進め方 1. 「環境」のもつ人間形成に果たす役割と意義 2. 「環境」のねらいと内容 3. 「環境」の基本的理解～身の回りの自然 4. 「環境」の基本的理解～自然と生活文化 5. 「環境」の基本的理解～数と形 6. 「環境」の基本的理解～自然の生態系 7. 環境調査の方法と実践～自然観察の方法 8. 環境調査の方法と実践～植物園での学外授業 9. ふりかえり「身の回りの自然の見方」 10. 環境と子どもの活動～子どもと自然のふれあい、植物と動物 11. 環境と子どもの活動～植物と子どもの遊び 12. 製作活動の意義と内容～伝統的な草花あそびと草玩具 13. 製作活動の意義と内容～身近な素材の活用 14. 園内環境～保育室、廊下、テラス、遊戯室 15. 園内環境～園庭、遊具、樹木 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、課題レポート提出（30%）				
学生へのメッセージ 子どもは周りの環境からさまざまなことを学びながら、生きる力を育んでいきます。 自然は生きていくための基本的環境であり、学びの原点とも言えます。保育者は日ごろから身近な自然や生きものに親しみ、自らの感性を高めて下さい。 授業は全出席が基本です。欠席した学生は必ず自らフォローすること。積極的に授業に参加し、大人としての態度と行動を望みます。テキスト以外の内容もあります。ノートをとること。特に復習は重要です。時に小テストなどもあります。				
テキスト 『シードブック 保育内容 環境〔第3版〕』（榎沢良彦・入江礼子編著、建帛社）			参考図書 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 無 ）				

科目名 身体表現			担当教員 眞鍋隆祐	
1 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 領域「表現」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、乳幼児の表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。身体表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、乳幼児の表現を支えるための感性を養う。				
授業のねらい・概要 子どもたちが面白いと感じる運動遊びや表現活動を引き出すことのできる指導者となることを目指す。そのために、子どもたちの発育発達段階、状況に応じた運動遊びの選択、環境の設定、指導と援助の実践的方法を身に付ける。また、様々な運動遊びに触れ、指導者としての幅を広げる。				
授業の内容・進め方 1. 身体表現の理論的背景 2. まねっこ遊び、ごっこ遊びの指導法 3. まねっこ遊び、ごっこ遊びの指導案作成、発表及び評価 4. 鬼遊び、ボールを使った身体表現の指導法 5. 鬼遊び、ボールを使った身体表現の指導案作成、発表及び評価 6. マットや器具を使った運動遊びの指導法 7. マットや器具を使った運動遊びの指導案作成、発表及び評価 8. 音楽を使ったりズム遊びの指導法 9. 音楽を使ったりズム遊びの指導案作成、発表及び評価 10. 短い時間で行う身体表現の指導法 11. 短い時間で行う身体表現の指導案作成、発表及び評価 12. 運動遊びサーキットの指導法 13. 運動遊びサーキットの指導案作成、発表及び評価 14. なわを使った身体表現の指導法 15. なわを使った身体表現の指導案作成、発表及び評価 定期試験				
単位認定の方法及び基準 授業中の課題提出（50%）、指導実践の成果（25%）、定期試験（25%）				
学生へのメッセージ グループ活動が非常に多い科目なので、クラスメートとコミュニケーションをしっかりと取り活動を円滑にすすめるよう心がけること。				
テキスト 『現場発！0～5歳児 遊びっくり箱』ひかりのくに			参考図書 適宜、参考資料を配布する。 『みんなが輝く体育（1） 幼児期 運動あそびの進め方』創文企画 『幼児体育』健帛社	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 親子体操教室、親子スポーツ教室での指導経験を有する教員が、子どもたちが面白いと感じる運動遊びや表現活動を引き出すことのできる指導者となるために必要な環境の設定、指導と援助の実践的方法について、指導をする。				

科目名 音楽表現 I A			担当教員 桐原明子	
1 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 領域「表現」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境などについて実践的に学び、乳幼児の音楽表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。特に、音楽表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、乳幼児の表現を支えるための感性や実践力を養う。				
授業のねらい・概要 乳幼児期の表現の発達を理解すると同時に、保育の様々な場面を想定し子どもたちの音楽表現に合わせた音楽実践を通して保育を構想する方法を身に付ける。また、保育者として現場に立つためのピアノ演奏や歌唱の訓練の前提となる楽譜を自力で読むための規則について、実技も交えながら学ぶ。				
授業の内容・進め方 1. 領域「表現」と音楽表現 2. 楽譜を読むための基礎①音符の読み方 3. 楽譜を読むための基礎②リズム打ち 4. 楽譜を読むための基礎③音休符の長さとはリズム・拍子 5. 楽譜を読むための基礎④拍子・弱起・変化記号・反復記号 6. 楽譜を読むための基礎⑤調性・音階について 7. 楽譜を読むための基礎⑥主要三和音について 8. 子どもの歌に合わせた弾き歌い①生活のうた 9. 子どもの歌に合わせた弾き歌い②季節の歌 10. 子どもの歌に合わせた弾き歌い③行事でのうた 11. 子どもの歌に合わせた弾き歌い④子ども讃美歌 12. 子どもの歌に合わせた弾き歌い⑤チャペルアワーで歌う讃美歌 13. 乳幼児期の音楽表現と感性 14. 身の回りの音、声、器楽による音楽遊び 15. 子どもの発達に即した音遊びとリズム遊び 定期試験				
単位認定の方法及び基準 授業における課題の成果（60%）、授業中の小テスト（20%）、定期試験（20%）				
学生へのメッセージ まず、授業開始前に使用テキストをそろえ、着席しておくこと。 音楽は実践と反復練習が命。毎回真剣に、集中して授業に参加してほしい。 *教科書を持ってこない者、授業態度の悪い者（あからさまな居眠り、私語、スマホなど授業に無関係な機器の使用を含む）は、大幅減点（場合によっては欠席扱い）とする。 人の前で演奏することに慣れるため、全4回の「弾き歌い発表」の機会を設ける。保育現場を想定し、子ども達の歌にあわせて弾く（歌を絶対止めない）ことを目標にする。音楽表現Ⅱ（ピアノ）の授業で個別指導を受け、十分に準備すること。 資料を貼るために A4 サイズのスケッチブックを使用する。授業でも説明するが、早めに準備しておくこと。				
テキスト 『楽譜が読めるステップ12』（甲斐彰著、音楽之友社）、『やさしい伴奏によるこどものうた①』（東保編、全音楽譜出版社）、『こどもの歌名曲選』（足羽章解説、ドレミ楽譜出版社）、『讃美歌』（日本基督教団出版局）			参考図書 その他、適宜プリントを配布する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 無 ）				

科目名 音楽表現 I B			担当教員 倉林 公美	
1 年次	後期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 領域「表現」の指導に関する、乳幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、乳幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、乳幼児の音楽表現活動を支援するための知識・技能・表現力を身に付ける。特に、保育現場で子どもたちと歌うための声楽分野の初歩を学ぶことを通し、乳幼児の表現を支えるための感性を養う。				
授業のねらい・概要 弾き歌いのための発声法、歌唱法を学び、乳幼児期の表現の発達を踏まえて、子どもの歌を楽しみ、表現豊かに歌えるようにする。また、音楽表現として子どもたちに歌唱指導をする際の基礎的技術や歌唱指導計画立案のための基礎的知識を身に付ける。				
授業の内容・進め方 1. 領域「表現」と歌唱表現 2. 手遊び、リズムを導入した遊びうた、歌の基本姿勢、発声法 3. 歌唱表現の基礎①生活のうたを通して 4. 歌唱表現の基礎②春のうたを通して 5. 歌唱表現の基礎③夏のうたを通して 6. 歌唱表現の基礎④動物のうたを通して 7. 弾き歌いのためのグループ学習 8. 弾き歌いのグループ発表 9. 讃美歌の基礎的知識（幼児讃美歌、クリスマス讃美歌） 10. 歌唱表現の基礎⑤秋のうたを通して 11. 歌唱表現の基礎⑥冬のうたを通して 12. 歌唱指導のための基礎的技術 13. 歌唱指導計画立案のための基礎的知識 14. 歌唱指導計画立案のためのグループ学習 15. 歌唱指導計画立案のグループ発表 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、授業中のグループ学習発表（30%）				
学生へのメッセージ 子どもは歌うことが大好きである。保育士はたくさんの曲を弾き歌いができることを求められるため、授業で大きな声を出し歌唱技術を磨いてほしい。そして人間性と共にぜひ子どもが憧れる保育士を目指してもらいたい。授業では出席や授業態度を重視する。10分以上の遅刻は欠席とみなす。皆には将来、社会を担う人になってほしいため日頃から精一杯取り組んでほしい。 授業内で弾き歌いのテストを行う。不合格の場合は実習に出ることを許可しない場合もありうるためしっかりと準備をし受験すること。				
テキスト 『やさしい伴奏によるこどものうた①』（東保編、全音出版）、『子どもの歌名曲選』（足羽章編、ドレミ楽譜出版）、『讃美歌』（日本基督教団出版局）、『幼児さんびか』（キリスト教保育連盟）			参考図書 その他、適宜プリントを配布する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 無 ）				

科目名 音楽表現Ⅱ		担当教員 桐原明子・倉林公美・浅見二子・今石明子・佐倉藍・佐々木純子・清水絵美・菅原ユリ・橋本美香・水上まり		
1年次	通年	2単位	選択必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育のためのピアノと弾き歌い—基礎技術の習得				
授業のねらい・概要 保育の現場で必要とされるピアノの基礎技術、童謡伴奏および弾き歌いを学ぶ。90分約6名の個人指導である。担当教員が各学生の入学前の音楽経験や進度にあわせて指導を行う。しかし、 <u>いくら個人指導でも、欠席すると全く進歩しないので欠席しないこと</u> 。選曲等は各担当教員の指示に従う。				
授業の内容・進め方				
前期:15回の個人指導でピアノの基礎技術を学ぶ。 1. 読譜の確認 2. 楽器(ピアノ)について 3. 指の体操と運指の基礎 4～5. ピアノ曲を弾くための練習と手順 6～7. 曲を仕上げるといこと(暗譜を含む) 8～9. 体の動きに合わせた曲を弾く(マーチ他) 10～11. ピアノで歌うこと(カンタービレ奏法) 12～13. 保育の中のピアノ(役割と特徴) 14～15. 人前で仕上げた曲を演奏する(試験)		後期:15回の個人指導で童謡伴奏・弾き歌いを中心にピアノと歌の技術を身につける。 1. 生活の歌:「おはよう」～「おかえり」 2～4. 弾き歌いの練習と実践 5～7. 童謡伴奏の基礎と応用 8～10. アンサンブル(歌とピアノ)の基礎と実践 11～12. 複数の曲を同時に仕上げること 13. 保育の中で弾く(弾き歌いする)こと 14～15. 人前で発表すること(歌・弾き歌い・伴奏・試験)		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 教本・『ピアノへのアプローチ4 Steps』 音楽之友社 ・その他(各担当教員の指示に従う。) </div> <p>*全員が上記教本でレッスンをスタートするが、並行して用いる教材あるいは上記教本終了後の発展等については担当教員の指示に従う。音楽表現ⅠAの弾き歌い課題も指導を受ける。 *前期試験を行う。これは前期の成果を大勢の前で一人ずつ発表する形式である。課題曲・日程等については5月末頃に発表する。 *夏期休暇中の課題として弾き歌い5曲を全員に課す。この5曲は11月に試験を行い合格しなければ実習に出ることができない。</p>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 教本・前期からの継続教材 ・『やさしい伴奏によるこどものうた①』 全音出版社 ・『こどもの歌名曲選』ドレミ出版 ・『幼児さんびか』キリスト教保育連盟 </div> <p>*実習および就職試験など保育現場ですぐに使える実力を身につける。 *童謡伴奏は有名なものから始めて1曲でも多く数をこなす努力をする。 *11月に弾き歌いの試験を行う(夏休み宿題) *後期授業終了時に試験を行う。童謡伴奏・弾き歌いを中心に約10曲の課題曲を出す。課題曲は11月末頃に発表する。</p>		
単位認定の方法及び基準 基本的に期末試験の成績で単位認定を行うが、前期試験を受験しない学生には単位は認めない。前期後期とも、しっかり準備して試験を受けること。また、授業の出席状況と日頃の取り組みが著しく不十分な場合は減点する。				
学生へのメッセージ 出席と授業態度を重視する。ピアノ実技は講義科目と違って「各自が授業に向けて1週間準備(練習)してきたものを教員が指導する」という授業形態である。授業前日にあわてて練習するのではなく、たとえ短時間でも毎日練習すること。授業では各自のレベルにあわせた指導を行うが、実習ではレベルに関係なく保育の中でピアノを弾かねばならないことを頭に置き、担当教員の指導によく耳を傾け、毎時間の課題に真剣に取り組む努力をすること。また、どの曲も楽譜をしっかりと読んで練習すること。練習予定表(初回配付)を毎回持参すること。 *遅刻厳禁(10分以上遅れて来た者は指導は行方が欠席扱いとする) *ツメを短く切っていない者は授業を受けさせない *楽譜を持ってこない者、宿題をやってこない者は大幅減点(場合によっては欠席扱いとする) *あいさつをしっかりと「よろしくお願ひします」「ありがとうございました」 *ピアノは実技科目であるため、定期試験不合格者への救済措置として、再テストの機会を複数回設けている。ただし、安易に再テスト受験しないよう、2度目の再テストからは受験料として3000円を徴収する。再テスト受験せずにすむよう、日頃から精一杯の努力をすること。				
テキスト 『授業の進め方』の教本の箇所を参照。		参考図書		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (無)				

科目名 造形表現 I A			担当教員 荒木みどり			
1 年次	前期	1 単位	必修	演習		
授業のテーマ及び到達目標 乳幼児期の造形表現活動を支援する上での知識・技能・表現力を身につけるための演習・指導を行なう。 また、幼児の表現活動を通して得られる心の育ちや発達に合わせた造形活動を修得する。						
授業のねらい・概要 造形活動の基礎教材であるさまざまな画材、用具、素材に関わりながら、その特徴や使用方法を体験し修得する。さらに、造形活動を通してさまざまな子どもの表現を感受できる感性を養う。						
授業の内容・進め方						
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. ハサミの扱い方と活動 2. 色彩の知識 I — 色の性質を知る 3. 色彩の知識 II — 色の対比・色の混合 4. 色彩の知識 III — 色彩の連想 5. 描画材の理解 — イメージを広げる活動 6. 造形の基礎と知識 I — クレヨン・クレパスの特徴と活動 7. 造形の基礎と知識 II — 水性ペン・竹ペンの特徴と活動 8. 造形の基礎と知識 III — 紙の加工技法と活動 9. 造形の基礎と知識 IV — 紙の加工技法と活動 10. 造形の基礎と知識 V — カッターの使い方と活動 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 11. 土粘土の活動 I — 活動前の準備、環境づくりの理解 12. 土粘土の活動 II — 活動と後片付け、こどもの土粘土活動を知る 13. 絵本づくり I — 絵本の種類を知る 14. 絵本づくり II — オリジナル絵本の立案と準備 15. 絵本づくり III — オリジナル絵本の製作定期試験 </td> </tr> </table>					1. ハサミの扱い方と活動 2. 色彩の知識 I — 色の性質を知る 3. 色彩の知識 II — 色の対比・色の混合 4. 色彩の知識 III — 色彩の連想 5. 描画材の理解 — イメージを広げる活動 6. 造形の基礎と知識 I — クレヨン・クレパスの特徴と活動 7. 造形の基礎と知識 II — 水性ペン・竹ペンの特徴と活動 8. 造形の基礎と知識 III — 紙の加工技法と活動 9. 造形の基礎と知識 IV — 紙の加工技法と活動 10. 造形の基礎と知識 V — カッターの使い方と活動	11. 土粘土の活動 I — 活動前の準備、環境づくりの理解 12. 土粘土の活動 II — 活動と後片付け、こどもの土粘土活動を知る 13. 絵本づくり I — 絵本の種類を知る 14. 絵本づくり II — オリジナル絵本の立案と準備 15. 絵本づくり III — オリジナル絵本の製作定期試験
1. ハサミの扱い方と活動 2. 色彩の知識 I — 色の性質を知る 3. 色彩の知識 II — 色の対比・色の混合 4. 色彩の知識 III — 色彩の連想 5. 描画材の理解 — イメージを広げる活動 6. 造形の基礎と知識 I — クレヨン・クレパスの特徴と活動 7. 造形の基礎と知識 II — 水性ペン・竹ペンの特徴と活動 8. 造形の基礎と知識 III — 紙の加工技法と活動 9. 造形の基礎と知識 IV — 紙の加工技法と活動 10. 造形の基礎と知識 V — カッターの使い方と活動	11. 土粘土の活動 I — 活動前の準備、環境づくりの理解 12. 土粘土の活動 II — 活動と後片付け、こどもの土粘土活動を知る 13. 絵本づくり I — 絵本の種類を知る 14. 絵本づくり II — オリジナル絵本の立案と準備 15. 絵本づくり III — オリジナル絵本の製作定期試験					
単位認定の方法及び基準 授業態度や造形活動での積極性と提出物の内容（65%）、定期試験（20%）、出席状況（15%）						
学生へのメッセージ 造形教材に慣れ親しむことから始まるので、意欲的に活動に向き合うことが望ましい。						
テキスト 適時に配布する。また、指定のスケッチブック、材料費として 500 円程度徴収する場合がある。			参考図書 『幼児造形の基礎』（樋口一成編、萌文書林）			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） こどもの造形ワークショップや幼児遊具の開発経験を有する教員が、乳幼児の造形表現活動を支えるための基礎的知識・技能・表現力を養うための講義、実践演習を行う。						

科目名 造形表現 I B			担当教員 荒木みどり	
1 年次	後期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 乳幼児期の造形表現活動を支援する上での知識・技能・表現力を身につけるための演習・指導を行なう。 また、幼児の表現活動を通して得られる心の育ちや発達に合わせた造形活動を修得する。				
授業のねらい・概要 造形活動の基礎教材であるさまざまな画材、用具、素材に関わりながら、その特徴や使用方法を体験し修得する。さらに、造形活動を通してさまざまな子どもの表現を感受できる感性を養う。				
授業の内容・進め方 1. オリジナル絵本の鑑賞とディスカッション 2. 感触の活動 — フィンガーペインティング 3. 色彩の活動 — にじみ・ぼかし・混色 4. 季節を取り入れた活動 I — 仮装を楽しむ 5. 粘土の活動 — 紙粘土・小麦粉粘土の活動 6. 活動の応用 — フィンガーペインティング版画を利用して 7. 季節を取り入れた活動 II — 自然を取り入れた造形活動 8. 紙材の活動 — コラージュ 9. 壁面の造形 I — 12ヶ月の季節を彩る造形の立案 10. 壁面の造形 II — 12ヶ月の季節を彩る造形の製作 11. 季節を取り入れた活動 III — クリスマス行事の造形活動 12. ゲーム性のある遊びの考案 — 運動要素と表現要素 13. いろいろな版画 — 紙版画・フロッタージュ・スタンピング 14. 物語を紡ぐ造形あそび — 再利用の紙材を使って 15. こどもの興味を引く造形 — からくりシート 定期試験				
単位認定の方法及び基準 授業態度や造形活動での積極性と提出物の内容（65%）、定期試験（20%）、出席状況（15%）				
学生へのメッセージ 造形教材に慣れ親しむことから始まるので、意欲的に活動に向き合うことが望ましい。				
テキスト 適時に配布する。また、指定のスケッチブック、材料費として、500円程度徴収する場合がある。			参考図書 『幼児造形の基礎』（樋口一成編、萌文書林）	
実務経験のある教員の担当する科目該当（有） こどもの造形ワークショップや幼児遊具の開発経験を有する教員が、乳幼児の造形表現活動を支えるための基礎的知識・技能・表現力を養うための講義、実践演習を行う。				

科目名 乳児保育 I			担当教員 川邊恵子	
1 年次	前期	2 単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 0、1、2 歳児の発達過程と低年齢児保育について理解する。				
授業のねらい・概要 本講では3歳未満児の保育の意義・目的と歴史の変遷からその役割を理解する。3歳未満児の育つ場として、保育所、乳児院、家庭における乳児保育の現状と課題を知り、発達や状況をふまえた保育の内容と運営体制、職員間の連携などを学ぶ。				
授業の内容・進め方				
1. 乳児保育とは (1)乳児・乳児保育の概念 (2)保育ニーズと乳児保育の基本 2. 乳児保育の歴史の変遷と現状 (1)乳児に対する保育観の変遷 (2)「乳児保育」一般化への過程 (3)保育所、乳児院、家庭の社会的役割 3. 発達過程と保育－(1)新生児期 (2)0歳児前期 4. 発達過程と保育－(3)0歳児後期 5. 発達過程と保育－(4)1歳児前期 6. 発達過程と保育－(5)1歳児後期 7. 発達過程と保育－(6)2歳児前期 8. 発達過程と保育－(7)2歳児後期 9. 発達過程と保育－(8)2歳児後期～3歳児前期 10. 発達過程と保育－(9)コミュニケーションの獲得過程 11. 乳児保育における連携・協働 －(1)気になるこども 12. 乳児保育における連携・協働 －(2)職員間の連携 13. 乳児保育における連携・協働 －(3)保護者との連携 14. 乳児保育における連携・協働 －(4)自治体や地域の他機関との連携 15. 乳児保育の今後の課題				
単位認定の方法及び基準 筆記試験 1/3、レポート 1/3、及び出席状況 1/3 による総合評価。				
学生へのメッセージ 学習のまとめとして筆記試験を行う予定です。評価は授業態度、課題提出、試験などの総合的評価とします。				
テキスト 『改訂 乳児保育の基本』萌文書林			参考図書 適宜紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (有) 心身障害児総合通園施設において、保育士・心理士として障害児の療育指導の経験がある教員が、乳児の発達と生活を理解し、保育所・乳児院・家庭などにおける保育者の子ども援助、親に対する支援などを指導する。				

科目名 乳児保育Ⅱ			担当教員 川邊恵子			
1 年次	後期	1 単位	必修	演習		
授業のテーマ及び到達目標 0、1、2 歳児の育ち・発達過程や特性を踏まえた上での低年齢児の生活や遊びの援助の方法を、具体的に理解する。						
授業のねらい・概要 乳児保育の現場での事例や映像を活用して、3 歳未満児の子どもの生活や遊びの援助の方法及び環境 や配慮を、具体的に理解する。また、実際に感覚遊びや身体を使った遊びを体験し、大人と共に遊ぶ中で楽しみながら人との信頼関係を築いていくことや、自分の身体に気付き周囲の世界との関わり方が変化していく 3 歳未満児の育ちを実感してみる。そして 乳児保育における指導案、指導計画を立案も行う。						
授業の内容・進め方						
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 3 歳未満児と大人(保育士、親など)の関係の重要性 2. 月例差、個性の応じた援助と関わりについて 3. 子どもの「自ら育つ力」の尊重と自我の芽生え 4. 乳児保育の実際－(1)3 歳未満児の 1 日の生活の流れと保育の環境 5. 乳児保育の実際－(2)3 歳未満児の生活や遊びを豊かにする保育の環境 6. 乳児保育の実際－(3)0 歳児の保育 ①保育環境とデイリープログラム 7. 乳児保育の実際－(3)0 歳児の保育 ②安全への配慮 8. 乳児保育の実際－(3)0 歳児の保育 ③養護の実際 9. 乳児保育の実際－(4)1 歳児の保育 ①保育環境とデイリープログラム 10. 乳児保育の実際－(4)1 歳児の保育 ②基本的生活習慣の援助 11. 乳児保育の実際－(4)1 歳児の保育 ③遊びの実際 </td> <td style="vertical-align: top;"> 12. 乳児保育の実際－(5)2 歳児の保育 ①保育環境とデイリープログラム 13. 乳児保育の実際－(5)2 歳児の保育 ②遊び活動の広がり と 保育 ③主活動を考える 14. 乳児保育の記録と計画－(1)保育記録の意義(2)保育計画の意義と実際 15. 乳児保育の記録と計画－(3)指導計画の立案 </td> </tr> </table>					1. 3 歳未満児と大人(保育士、親など)の関係の重要性 2. 月例差、個性の応じた援助と関わりについて 3. 子どもの「自ら育つ力」の尊重と自我の芽生え 4. 乳児保育の実際－(1)3 歳未満児の 1 日の生活の流れと保育の環境 5. 乳児保育の実際－(2)3 歳未満児の生活や遊びを豊かにする保育の環境 6. 乳児保育の実際－(3)0 歳児の保育 ①保育環境とデイリープログラム 7. 乳児保育の実際－(3)0 歳児の保育 ②安全への配慮 8. 乳児保育の実際－(3)0 歳児の保育 ③養護の実際 9. 乳児保育の実際－(4)1 歳児の保育 ①保育環境とデイリープログラム 10. 乳児保育の実際－(4)1 歳児の保育 ②基本的生活習慣の援助 11. 乳児保育の実際－(4)1 歳児の保育 ③遊びの実際	12. 乳児保育の実際－(5)2 歳児の保育 ①保育環境とデイリープログラム 13. 乳児保育の実際－(5)2 歳児の保育 ②遊び活動の広がり と 保育 ③主活動を考える 14. 乳児保育の記録と計画－(1)保育記録の意義(2)保育計画の意義と実際 15. 乳児保育の記録と計画－(3)指導計画の立案
1. 3 歳未満児と大人(保育士、親など)の関係の重要性 2. 月例差、個性の応じた援助と関わりについて 3. 子どもの「自ら育つ力」の尊重と自我の芽生え 4. 乳児保育の実際－(1)3 歳未満児の 1 日の生活の流れと保育の環境 5. 乳児保育の実際－(2)3 歳未満児の生活や遊びを豊かにする保育の環境 6. 乳児保育の実際－(3)0 歳児の保育 ①保育環境とデイリープログラム 7. 乳児保育の実際－(3)0 歳児の保育 ②安全への配慮 8. 乳児保育の実際－(3)0 歳児の保育 ③養護の実際 9. 乳児保育の実際－(4)1 歳児の保育 ①保育環境とデイリープログラム 10. 乳児保育の実際－(4)1 歳児の保育 ②基本的生活習慣の援助 11. 乳児保育の実際－(4)1 歳児の保育 ③遊びの実際	12. 乳児保育の実際－(5)2 歳児の保育 ①保育環境とデイリープログラム 13. 乳児保育の実際－(5)2 歳児の保育 ②遊び活動の広がり と 保育 ③主活動を考える 14. 乳児保育の記録と計画－(1)保育記録の意義(2)保育計画の意義と実際 15. 乳児保育の記録と計画－(3)指導計画の立案					
単位認定の方法及び基準 筆記試験 1/3、レポート 1/3、及び出席状況 1/3、ディスカッションへの参加態度による総合評価。						
学生へのメッセージ 学習のまとめとして筆記試験を行う予定です。評価は授業態度、課題提出、試験などの総合的評価とします。						
テキスト なし			参考図書 適宜紹介する。			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (有) 心身障害児総合通園施設において、保育士・心理士として障害児の療育指導の経験がある教員が、乳児の発達と生活を理解し、保育所・乳児院・家庭などにおける保育者の子ども援助、親に対する支援などを指導する。						

科目名 子どもの健康と安全			担当教員 小林久美子	
1 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 子ども保健の実際を実習して理解をする。				
授業のねらい・概要 人間は生涯発達し続ける存在であり、乳幼児期の成長発達は子どもの一生に影響を及ぼすことが多い。子どもの健康の保持と増進をはかるために、保育者として必要な知識と技術を習得する。また、子どもの健康が家庭や地域との密接な関係にあることを認識して、家庭や地域との連携を通じた保健活動の重要性を理解できるようにする。				
授業の内容・進め方 1. 小児の健康の定義と健康に影響する要因 2. 実習 養護技術 そのⅠ 着脱衣・おむつの交換 3. 実習 養護技術 そのⅡ 沐浴 4. 実習 養護技術 そのⅢ 歯みがき、爪切り 5. 子どもの健康状態の観察と評価 6. 保健活動の経過と評価 7. 実習 子どもの身体発育の測定と評価 8. 実習 生理機能の測定と評価 バイタルサイン測定 9. 乳幼児の事故と応急処置・安全教育 10. 実習 乳幼児の事故と応急処置 11. 基本的な看護技術 12. 実習 基本的な看護技術 与薬 罨法 13. 実習 乳幼児の救急処置及び救急蘇生法の習得 14. 児童福祉施設の保健活動 15. 実習 保育所における感染症予防 手洗い 消毒				
単位認定の方法及び基準 期末試験と授業への取り組みを総合して評価する。評価の比率は、筆記試験 50%、課題・その他提出物 30%、演習態度 20%とする。				
学生へのメッセージ 演習を通じて保健的な技術を実際に身につけていきます。演習を行う際にたとえ相手が人形であっても、実際の乳幼児に接するときを想定し真剣に行なって下さい。				
テキスト 『これだけはおさえたい！保育者のための「子どもの健康と安全』創成社（2020）			参考図書 ・赤十字幼児安全法講習（10 版） ・赤十字幼児安全法 乳幼児の一次救命処置	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 医療現場や保健センターで乳幼児看護・健康診断業務経験のある教員がその経験を活かし、子どもの健康と安全について授業を行う。				

2 学年

科目名 体育実技			担当教員 増田未来	
2年次	前期	1単位	必修	実技
授業のテーマ及び到達目標 生涯スポーツの実践を見据え、様々な体育・スポーツの実践を通じ健康の維持、増進を図る。				
授業のねらい・概要 生涯にわたり身体を動かすことを楽しみ、生活の一部として運動やスポーツ習慣を確立するためには学生生活のなかで様々な運動・スポーツ体験が必要である。そこで本授業では、多様な種目を行い、楽しみながら各種目のルールや特性を理解する。加えて、安全面に配慮をしながら、学生が中心となり運営を行うこともねらいとする。				
授業の内容・進め方 1. 体づくり運動 2. 用具を使用した運動（縄跳び、ボール、フラフープなど） 3. ドッジビー、フライングディスク 4. ピラティス、ボールエクササイズ 5. ヨガ、マインドスポーツ 6. キャッチバレーボール、ハンドサッカー 7. グラウンド・ゴルフ 8. パラスポーツ（ボッチャ） 9. パラスポーツ（ゴールボール） 10. スポーツウエルネス吹矢、ダーツ 11～12. バッドレスベースボール、ソフトボール 13. 表現・リズム体操 14. エアロビクスダンス 15. 様々なダンス				
単位認定の方法及び基準 評価は実技の小テストおよび授業への積極性をもとに総合的に評価する。実技の小テストを2/3とし、授業への積極性を1/3とする。				
学生へのメッセージ 授業は動ける服装にて受講すること。また、グループ活動が非常に多い科目なので、クラスメートとコミュニケーションをしっかりと取り活動を円滑にすすめるよう心がけること。				
テキスト なし			参考図書 『子どもが喜ぶ！体育授業レシピ－運動の面白さにドキドキ・ワクワクする授業づくり－』 教育出版	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育園でボールあそびや平均台、マット等の幼児体育実技指導に携わった経験を持つ教員が多様な体育・スポーツの種目を提案し、各種目のルールや特性について実技を通して指導する。				

科目名 こども家庭支援論			担当教員 中内幸子	
2年次	前期	2単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 家庭支援の意義や機能、関係機関との連携について理解する。				
授業のねらい・概要 保育士は、「児童の保育」と「保護者に対する支援」をあわせて行う専門職として位置づけられている。ここでは、保育士の家庭への支援が必要とされるに至った社会的要因と現代の家族・家庭の変容について理解を深める。また、必要とされる多様な支援、および関連機関との連携をとおして家族・家庭・地域を視野にいれた支援体制の重要性を理解し、柔軟に対応できる視点を養うことをねらいとする。				
授業の内容・進め方 1. 家庭の意義と機能 2. 現代の家族・家庭の変容 3. 家庭生活をとりまく社会状況の変化 4. 子育て支援政策・次世代育成支援施策の推進 5. 保育者が行う家庭支援の原理と社会資源 6. 多様な子育て支援：地域の子育て家庭① 7. 多様な子育て支援：地域の子育て家庭② 8. 多様な子育て支援：共働き家庭 9. 多様な子育て支援：シングルマザー 10. 多様な子育て支援：シングルファーザー① 11. 多様な子育て支援：シングルファーザー② 12. 多様な子育て支援：ステップファミリー 13. 多様な子育て支援：ハンディを持つ子の家庭 14. 子育て支援サービスの課題 15. まとめと筆記試験				
単位認定の方法及び基準 期末試験と授業への取り組みを総合して評価する。評価の比率は期末試験 80%、授業内でのグループワークへの取り組みとレスポンスシートの提出を 20% 程度とする。				
学生へのメッセージ 保育の現場において多様なニーズをもつ親子との出会いがある。その時に、柔軟で最善の支援が可能になるよう、積極的に授業に取り組んでもらいたい。				
テキスト 毎回プリントを配布する。			参考図書 井村圭壯・今井慶宗編著『保育実践と家庭支援論』2016 勁草社 新保幸男・小林理編集『家庭支援論』2016 中央法規 岸井勇雄・無藤隆・柴崎正行監修『家族援助を問いただす』2009 同文書院	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (無)				

科目名 保育者論（学校安全への対応を含む）			担当教員 綾 牧子	
2年次	後期	2単位	必修	講義
授業のテーマ及び到達目標 子どもの育ちを支える保育者（幼稚園教諭・保育士）の職業について多様な視点から考え、保育職の専門性を理解する。子どもの育ちを支える保育者のあり方について様々な視点から考え、保育職の専門性について理解を深める。特に、人間形成の根幹にかかわる保育者の職務内容、意義や役割などを理解し、その重要性を認識する。そして、保育専門職である保育者としての倫理観を身につけ、自己成長をしていく素地を養う。				
授業のねらい・概要 幼稚園実習や保育所実習において、実際に多くの保育者の姿に接し、そこから保育者の職務と責務について学ぶことは多い。授業では、これまでの実習における学びを踏まえて、改めて保育者の職務と責務について学ぶ。そして、幅の広い視点から考えることにより、保育者の専門性について理解を深める。				
授業の内容・進め方 第1回：保育者の役割・職務内容 第2回：保育者の倫理 第3回：保育者の制度的位置付け（児童福祉法等における保育者の定義） 第4回：保育者の資格・要件 第5回：保育者の責務（欠格事由、信用失墜行為及び秘密保持義務等） 第6回：保育者の資質能力 第7回：養護及び教育の一体的展開 第8回：家庭との連携と保護者に対する支援 第9回：計画に基づく実践と省察・評価 第10回：保育の質の向上 第11回：保育における職員間の連携・協働 第12回：専門職間及び専門機関、並びに地域自治体や関係機関との連携・協働 第13回：資質向上に関する組織的取組 第14回：保育者の専門性と発達とキャリア形成 第15回：組織とリーダーシップ、危機管理を含む学校安全への対応 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、授業中のレポート（30%）				
学生へのメッセージ 幼稚園実習や保育所実習において、実際に多くの保育者の姿に接し、そこから保育者の職務と責務について学ぶことは多い。この授業では、これまでの実習における学びを踏まえて、改めて保育者の職務と責務について学ぶ。そして、幅の広い視点から考えることにより、保育者の専門性を確認していく。調べ学習やグループ学習も取り入れながら授業を進めるので、積極的な姿勢で授業に臨むこと。				
テキスト 『シードブック 三訂 保育者論』 （榎田二三子・大沼良子・増田時枝編著、建帛社）			参考図書 適宜プリントを配布する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （ 無 ）				

科目名 保育原理Ⅱ			担当教員 川邊恵子	
2年次	前期	2単位	選択	講義
授業のテーマ及び到達目標 保育の重要性と保育の在り方について学ぶ。 保育所保育に限らず、生きていく、育っていく中で様々な“困りごと”をかかえる子どもや大人の「生活支援・援助」のあり方を考える。				
授業のねらい・概要 保育の基本的な考え方を理解した上で、保育における今日的課題や動向を知る。保育者に必要な知識をより幅広く身につけ、今後保育者になったときに求められる専門性や資質を形成していく基礎を培っていくことをねらいとする。				
授業の内容・進め方 1. 保育とはなにかを考える 2. 保育者論①保育者の位置づけ 3. 保育者論②生活文化を伝える 4. 子ども理解①3歳未満児の園生活 5. 子ども理解②3歳児の園生活 6. 子ども理解③4歳児の園生活 7. 子ども理解④5歳児の園生活 8. 保育の実践①保育の計画 9. 保育の実践②保育の記録 10. 多様な保育ニーズ①近年の動向 ②子育て支援 11. 乳児院・児童養護施設における保育者の役割 12. 障害児・者施設における保育者の役割 13. “困りごと”を抱える子どもの支援について 14. 子どもを通した親指導、家族支援について 15. 今後の保育課題を検討する				
単位認定の方法及び基準 筆記試験 1/3、レポート 1/3 及び出席状況 1/3 による総合評価。				
学生へのメッセージ 次世代を育成していく保育者になるために必要なことを知り探求していく姿勢は大事である。日頃から保育の制度や多様化する保育ニーズ、社会問題など幅広く関心を持つことを心がけ授業に臨んで欲しい。				
テキスト 「こどもの傍らに在ることの意味－保育臨床論考」 大場幸夫著 萌文書林			参考図書 適宜紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 心身障害児総合通園施設において、保育士・心理士として障害児の療育指導の経験がある教員が、様々な困りごとをかかえる子どもの「生活支援・援助」についてのあり方を考えられるように指導する。				

科目名 子ども家庭支援の心理学			担当教員 上田美香	
2年次	前期	1単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、子どもとその家庭を捉える視点、子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。				
授業のねらい 生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し、乳幼児期の発達課題や様々な発達の道すじをふまえた保育士の関わりについて考える。また、家族・家庭の役割、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解する。さらに、子育てを取り巻く環境や子育て家庭の抱える課題について学び、保護者を理解し日常的・継続的に支えていく保育士の役割を考える。				
授業の内容・進め方 1. オリエンテーション 授業のねらいと進め方 2. 乳児期の発達 3. 幼児期の発達 4. 学童期の発達 5. 青年期の発達 6. 成人期・中年期の発達 7. 高齢期の発達 8. 家族・家庭の意義と機能 9. 家族関係・親子関係の理解 10. 子育ての経験と親としての育ち 子育てを取り巻く社会的状況 11. ライフコースと仕事・子育て 12. 多様な家庭とその理解 13. 子どもの生活・生育環境とその影響 14. 子どものこころの健康にかかわる問題 15. まとめ				
単位認定の方法及び基準 ・単位数が2／3以下の場合、単位履修を認めない。 ・期末試験（40%）、レポート・小テスト（20%）、出席状況・授業態度（30%）を総合して評価する。				
学生へのメッセージ 子どもや子育て家庭が抱える問題は深刻化しており、日常的に寄り添いながら支援できる保育士に大きな期待が寄せられています。保育士になるために自身が身につけるべき知識、価値、態度を常に考えながら、授業に取り組むことを望みます。				
テキスト 青木紀久代編集「シリーズ知のゆりかご 子ども家庭支援の心理学」みらい、2019年			参考図書 参考文献等は、その都度紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 社会福祉士の資格を持ち、保育現場における保育士経験がある教員がその経験を活かし、保育所や児童福祉施設における子育て支援の方法と技術について指導する。				

科目名 子どもの理解と援助			担当教員 山梨有子	
2年次	後期	1単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 園における子どもの生活及び生活の実態に即して、子どもの発達や及び学び並びにその過程で生ずるつまずき、その要因を把握するための原理及び対応の方法を考えることができる。				
授業のねらい・概要 子どもの生活に即した発達や学びに関する理論を概観し、子ども理解のための視点や具体的方法を知り、また保護者の心情などの理解について考えを深めることができる授業を行う。				
授業計画 第1回：子どもの実態に応じた発達や学びの把握 第2回：子ども理解に基づく養護及び教育の一体的展開 第3回：子どもへの共感的理解と関わりの姿勢 第4回：子どもの生活や遊び 第5回：保育者と子ども、子ども同士の関わり 第6回：集団経験の中での個人の育ち 第7回：子どもの葛藤やつまずきに対する理解 第8回：保育の環境の理解と構成 第9回：保育の環境の変化と移行 第10回：子ども理解の方法～観察 第11回：子ども理解の方法～記録 第12回：子ども理解の方法～評価 第13回：子ども理解の方法～職員間での情報共有 第14回：保護者理解と情報共有、連携 第15回：子ども理解に基づく発達援助				
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、授業における課題（30%）とし、総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 実習などで印象の残った子どもの様子や事例を基に、子ども理解を深めていきます。グループワーク等を通して学びを深めていきます。積極的に対話に参加することが望まれます。				
テキスト 『幼児理解に基づいた評価 平成31年3月』（文部科学省 著作権所有、チャイルド本社）			参考図書 適宜授業の中で紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育実践の経験がある教員がその経験を活かし、心理学的視点をいながら事例について解説をし、保育現場における子どもの内面を理解するための授業を行う。				

科目名 子どもの食と栄養 I			担当教員 岡田恵子	
2年次	前期	1単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 子どもの健康と食生活を理解し、栄養の基礎的知識と小児栄養の実際を学ぶことができる。				
授業のねらい・概要 子どもの栄養の特徴と食生活の意義を理解し、保育者として食事と心の健康をふまえ、食生活と生活全般、食育の望ましい形を理解し実践できるようにする。				
授業の内容・進め方 1. 子どもの健康と食生活の概要 2. 栄養の基礎知識 3. 乳児期栄養（乳児期栄養の特徴） 4. 離乳期栄養（乳児期栄養の問題と健康への対応） 5. 幼児期栄養（幼児期の心身の特徴と食生活） 6. 幼児期栄養（幼児期の食生活の特徴とその実践） 7. 幼児期栄養（間食の意義とその実践） 8. 幼児期栄養（集団生活と献立作成・調理） 9. 学齢期・思春期の食生活 10. 摂食障害と食生活のあり方 11. 小児期の疾病の特徴と食生活 12. 障害児の食生活と実際 13. 児童福祉施設の食生活と給食 14. 学齢期食育と栄養教育について 15. まとめ				
単位認定の方法及び基準 授業態度 20%、およびレポート 30%と定期試験成績 50%により総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 栄養学は教科書等で学ぶことが多いが、健康を考えることは必須である。保育者・教育者になるために、子どもの栄養について学んで欲しい。				
テキスト ① 「三訂セミナー子どもの食と栄養」建帛社 その他適宜資料を配布する			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 管理栄養士として勤務した経験がある教員が、その経験を活かし、子どもの食と栄養について実践的な事例の紹介をしながら授業を行う。				

科目名 子どもの食と栄養Ⅱ			担当教員 岡田恵子	
2年次	後期	1単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 子どもの各発達期と栄養の実際を理解する。				
授業のねらい・概要 子どもの発達に伴う栄養の特徴を理解し、食生活の現状と課題について学び、保育者として食育と栄養教育に対応できる力を身につけることができる。				
授業の内容・進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児期栄養（乳汁栄養・離乳期の栄養） 2. 離乳期栄養（離乳期栄養の実際と問題） 3. 離乳期栄養（献立作成と調理の基本） 4. 幼児期栄養（幼児期の発達と健康への対応） 5. 幼児期栄養（幼児期の食生活の問題） 6. 幼児期栄養（幼児期の食生活の特徴と実践） 7. 幼児期栄養（集団生活と献立作成・調理） 8. 幼児期栄養（間食と弁当） 9. 学齢期・思春期の食生活 10. 摂食障害など特別な配慮を必要とする事例 11. 小児期の疾病の特徴と食生活 12. 障害児と施設における食事と実際 13. 教育現場における食育と栄養教育について 14. 食育活動と実際 15. まとめ 				
単位認定の方法及び基準 授業態度 20%、およびレポート 30%と定期試験成績 50%により総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 食事と健康について学んで欲しい。多くの情報から選択する力を身につけて欲しい。				
テキスト ①「三訂セミナー子どもの食と栄養」建帛社 その他適宜資料を配布する			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 管理栄養士として勤務した経験がある教員が、その経験を活かし、子どもの食と栄養について実践的な事例の紹介をしながら授業を行う。				

科目名 臨床心理学			担当教員 松宮美樹			
2年次	通年	2単位	選択	演習		
授業のテーマ及び到達目標 さまざまな心の問題について理解し、その解決方法を探って支えることの実践を学ぶ。						
授業のねらい・概要 さまざまな心の問題を抱える状態とはどのようなことで、どのような方法で評価するのか、どのような現場があるのか、また、どのような支援をしていくのかを学ぶ。各自が卒業後にその現場で活用できるような学びを目指す。						
授業の内容・進め方 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <臨床心理学を学ぶ> I 臨床心理学とは 1. 臨床心理学の定義 II 臨床心理学の歩み 2. 臨床心理学の歴史 III 臨床心理学の領域と方法 3. 臨床心理学の領域 4. 5. 臨床心理学の方法 IV 心の問題と心理臨床 6. 心の問題のとらえ方 7. 病因論に基づく分類 V ライフサイクルと臨床心理学 8. 人間とライフサイクル 9. 大人のライフサイクルと心理的支援 VI ポジティブ心理学と臨床心理学 10. ポジティブ心理学の動向 11. 「生きること」への支援と臨床心理学 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <子どものための臨床心理学> I 乳幼児の発達と心理臨床 12. 13. 生活習慣の形成にかかわる問題 14. 15. 身体的・知的な発達における問題 16. 17. 社会的・人格的な発達における問題 18. 19. 知的障害・発達障害 II 児童の発達と心理臨床 20. 21 身体的・知的な発達における問題 22. 23. 社会的・人格的な発達における問題 24. 25. 知的障害・発達障害 III 学校生活と心理臨床 26. 学校生活での心理臨床 IV 心の理解と支援のための心理臨床 27. 28. 子どもの心の理解のための心理技法 29. 30. 子どもの支援のための心理技法 </td> </tr> </table>					<臨床心理学を学ぶ> I 臨床心理学とは 1. 臨床心理学の定義 II 臨床心理学の歩み 2. 臨床心理学の歴史 III 臨床心理学の領域と方法 3. 臨床心理学の領域 4. 5. 臨床心理学の方法 IV 心の問題と心理臨床 6. 心の問題のとらえ方 7. 病因論に基づく分類 V ライフサイクルと臨床心理学 8. 人間とライフサイクル 9. 大人のライフサイクルと心理的支援 VI ポジティブ心理学と臨床心理学 10. ポジティブ心理学の動向 11. 「生きること」への支援と臨床心理学	<子どものための臨床心理学> I 乳幼児の発達と心理臨床 12. 13. 生活習慣の形成にかかわる問題 14. 15. 身体的・知的な発達における問題 16. 17. 社会的・人格的な発達における問題 18. 19. 知的障害・発達障害 II 児童の発達と心理臨床 20. 21 身体的・知的な発達における問題 22. 23. 社会的・人格的な発達における問題 24. 25. 知的障害・発達障害 III 学校生活と心理臨床 26. 学校生活での心理臨床 IV 心の理解と支援のための心理臨床 27. 28. 子どもの心の理解のための心理技法 29. 30. 子どもの支援のための心理技法
<臨床心理学を学ぶ> I 臨床心理学とは 1. 臨床心理学の定義 II 臨床心理学の歩み 2. 臨床心理学の歴史 III 臨床心理学の領域と方法 3. 臨床心理学の領域 4. 5. 臨床心理学の方法 IV 心の問題と心理臨床 6. 心の問題のとらえ方 7. 病因論に基づく分類 V ライフサイクルと臨床心理学 8. 人間とライフサイクル 9. 大人のライフサイクルと心理的支援 VI ポジティブ心理学と臨床心理学 10. ポジティブ心理学の動向 11. 「生きること」への支援と臨床心理学	<子どものための臨床心理学> I 乳幼児の発達と心理臨床 12. 13. 生活習慣の形成にかかわる問題 14. 15. 身体的・知的な発達における問題 16. 17. 社会的・人格的な発達における問題 18. 19. 知的障害・発達障害 II 児童の発達と心理臨床 20. 21 身体的・知的な発達における問題 22. 23. 社会的・人格的な発達における問題 24. 25. 知的障害・発達障害 III 学校生活と心理臨床 26. 学校生活での心理臨床 IV 心の理解と支援のための心理臨床 27. 28. 子どもの心の理解のための心理技法 29. 30. 子どもの支援のための心理技法					
単位認定の方法及び基準 単位認定の方法及び基準：授業中の取り組みと課題提出、期末試験への取り組みを総合的に評価する。比率は前者が60%、後者が40%程度とする。						
学生へのメッセージ 1年次で学んだ心理学全般が土台となるため復習を勧める。						
テキスト 「子どもと大人のための臨床心理学」 北大路書房 資料は適宜配布			参考図書			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 公認心理師、スクールカウンセラーとしての経験がある教員の指導の下、様々な心の問題についてその解決方法に関する講義と演習を指導する。						

科目名 健康指導法			担当教員 眞鍋隆祐																															
2年次	通年	2単位	必修	演習																														
授業のテーマ及び到達目標 心身共に健康な子どもを育てるための学習																																		
授業のねらい・概要 現代の子どもたちを取り巻く社会的環境、生活環境の現状を理解すると共に、子どもの健康をめぐる諸問題についての考えを深める。また、領域「健康」のねらいと内容を理解した上で、保育者として幼児の健康教育に携わるための正しい知識と指導力を養う。																																		
授業の内容・進め方																																		
<table border="0"> <tr> <td>1. 子どもの健康と生活環境</td> <td>16. 安全教育と安全管理</td> </tr> <tr> <td>2. 生きる力と子どもの健康</td> <td>17. 事故傾向児の特徴</td> </tr> <tr> <td>3. 子どもの心とからだの諸問題</td> <td>18. 安全教育のねらい、事故の原因（潜在危険）</td> </tr> <tr> <td>4. 子どものからだ全国調査と幼児期の肥満</td> <td>19. 潜在危険と園内事故の全国調査</td> </tr> <tr> <td>5. 生活習慣の形成、内容、援助の留意点</td> <td>20. 子どもと交通事故（交通事故のメカニズム）</td> </tr> <tr> <td>6. 子どもの心の健康と保育者の態度</td> <td>21. 幼児教育施設における健康管理</td> </tr> <tr> <td>7. 保育とカウンセリング</td> <td>22. 健康観察と健康診断</td> </tr> <tr> <td>8. 領域「健康」の史的変遷</td> <td>23. 子どもの病気、罹りやすい病気の予防と特徴</td> </tr> <tr> <td>9. 領域「健康」のねらいと内容</td> <td>24. 感染症対策と乳幼児突然死症候群（SIDS）</td> </tr> <tr> <td>10. 幼稚園教育要領</td> <td>25. 災害時の指導と危機管理、地域との連携</td> </tr> <tr> <td>11. 保育所保育指針</td> <td>26. 子どもの歯の健康</td> </tr> <tr> <td>12. 子どもの発育、発達の姿</td> <td>27. 食育の環境とアレルギーへの対応</td> </tr> <tr> <td>13. 形態の発育と機能の発達</td> <td>28. 保健だよりの作成（グループ活動）</td> </tr> <tr> <td>14. 姿勢と移動能力の発達、運動能力と動きの獲得、</td> <td>29. 保育者と救急法、応急処置（止血法など）</td> </tr> <tr> <td>15. 運動機能の発達と運動意欲を高める指導</td> <td>30. 救命のための処置、心肺蘇生法（乳児、幼児）</td> </tr> </table>					1. 子どもの健康と生活環境	16. 安全教育と安全管理	2. 生きる力と子どもの健康	17. 事故傾向児の特徴	3. 子どもの心とからだの諸問題	18. 安全教育のねらい、事故の原因（潜在危険）	4. 子どものからだ全国調査と幼児期の肥満	19. 潜在危険と園内事故の全国調査	5. 生活習慣の形成、内容、援助の留意点	20. 子どもと交通事故（交通事故のメカニズム）	6. 子どもの心の健康と保育者の態度	21. 幼児教育施設における健康管理	7. 保育とカウンセリング	22. 健康観察と健康診断	8. 領域「健康」の史的変遷	23. 子どもの病気、罹りやすい病気の予防と特徴	9. 領域「健康」のねらいと内容	24. 感染症対策と乳幼児突然死症候群（SIDS）	10. 幼稚園教育要領	25. 災害時の指導と危機管理、地域との連携	11. 保育所保育指針	26. 子どもの歯の健康	12. 子どもの発育、発達の姿	27. 食育の環境とアレルギーへの対応	13. 形態の発育と機能の発達	28. 保健だよりの作成（グループ活動）	14. 姿勢と移動能力の発達、運動能力と動きの獲得、	29. 保育者と救急法、応急処置（止血法など）	15. 運動機能の発達と運動意欲を高める指導	30. 救命のための処置、心肺蘇生法（乳児、幼児）
1. 子どもの健康と生活環境	16. 安全教育と安全管理																																	
2. 生きる力と子どもの健康	17. 事故傾向児の特徴																																	
3. 子どもの心とからだの諸問題	18. 安全教育のねらい、事故の原因（潜在危険）																																	
4. 子どものからだ全国調査と幼児期の肥満	19. 潜在危険と園内事故の全国調査																																	
5. 生活習慣の形成、内容、援助の留意点	20. 子どもと交通事故（交通事故のメカニズム）																																	
6. 子どもの心の健康と保育者の態度	21. 幼児教育施設における健康管理																																	
7. 保育とカウンセリング	22. 健康観察と健康診断																																	
8. 領域「健康」の史的変遷	23. 子どもの病気、罹りやすい病気の予防と特徴																																	
9. 領域「健康」のねらいと内容	24. 感染症対策と乳幼児突然死症候群（SIDS）																																	
10. 幼稚園教育要領	25. 災害時の指導と危機管理、地域との連携																																	
11. 保育所保育指針	26. 子どもの歯の健康																																	
12. 子どもの発育、発達の姿	27. 食育の環境とアレルギーへの対応																																	
13. 形態の発育と機能の発達	28. 保健だよりの作成（グループ活動）																																	
14. 姿勢と移動能力の発達、運動能力と動きの獲得、	29. 保育者と救急法、応急処置（止血法など）																																	
15. 運動機能の発達と運動意欲を高める指導	30. 救命のための処置、心肺蘇生法（乳児、幼児）																																	
第13回目・第14回目（補講対応）に補講日等を活用し学外授業（外部施設見学等）を実施する予定である。また、各学期末もしくは補講日に特別講師の招聘を予定している。																																		
単位認定の方法及び基準 期末試験と授業への取り組みを総合して評価する。評価の比率は、期末試験70%、授業中の課題提出や授業態度30%の割合とする。																																		
学生へのメッセージ 幼児期は生涯にわたって健康的な生活を送る基となる習慣を身に付ける重要な時期です。実際に保育の現場において指導する場面を想定しながら授業に臨んでいただきたい。前期および後期に学習のまとめとして筆記試験を行う予定です。成績評価は筆記試験（60）レポート（20）出席・態度（20）の総合的評価とします。																																		
テキスト 『新しい保育講座7保育内容「健康」』 ミネルヴァ書房			参考図書																															
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育園の新設に携わった経験を持つ教員が、現代の子どもたちを取り巻く社会的環境、生活環境の現状を伝えるとともに、保育者として子どもの健康教育に携わるにあたって必要とされる視点や知識、技術を指導する。																																		

科目名 人間関係指導法			担当教員 中内幸子	
2年次	後期	1単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 「人間関係」の領域のねらいと内容を理解する。また、他の人たちとの関わりを通じて自己が形成され、自立心が養われることを理解する。				
授業のねらい・概要 子どもの発達過程に沿った他人との関わり方の変化を理解し、保育の際の配慮ができることを目指す。				
授業の内容・進め方 第1回：領域「人間関係」の誕生した歴史的背景 第2回：領域「人間関係」の意義とねらい 第3回：遊び場と遊びからみる人間関係の変化 第4回：人との関わりが育つ道筋～愛着 第5回：人との関わりが育つ道筋～0歳児 第6回：人との関わりが育つ道筋～1歳児 第7回：人との関わりが育つ道筋～2歳児以上 第8回：こころを語る力を育てる保育の事例（映像資料からの読み取りと模擬保育の実践） 第9回：関係づくりの力を育てる～「失敗」の事例（映像資料からの読み取りと模擬保育の実践） 第10回：関係づくりの力を育てる～「けんか」の事例（映像資料からの読み取りと模擬保育の実践） 第11回：関係づくりの力を育てる～「仲間はずれ」の事例（映像資料からの読み取りと模擬保育の実践） 第12回：情報機器の活用を含めた友だちと楽しく仲良く遊ぶための指導 第13回：情報機器や連絡帳を活用した保護者からの相談 第14回：情報機器の活用を含めた同僚や地域の子育て家庭の人々との関わり 第15回：保育者と保護者が育ちあう場へ 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験 (70%)、レスポンスシートの提出 (30%)				
学生へのメッセージ 本授業ではグループに分かれての討議を行う。実習で培った知識や各自の保育観など、活発な意見交換を行うことを期待する。				
テキスト 授業時に印刷物を配布する。			参考図書 『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『保育所保育指針』(平成29年3月告示 厚生労働省) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (無)				

科目名 言葉指導法			担当教員 中村萌	
2年次	通年	2単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育におけるより良い言葉環境について考える力を養うとともに指導力を高める。				
授業のねらい・概要 言葉の発達や表現能力の向上、相手との言葉を通じたコミュニケーション力の獲得、また児童文化財とのふれあいや活用法などについて理解を深める。				
授業の内容・進め方				
第1回：言葉とは何か 第2回：私たちの生活の中の言葉や文字 第3回：乳幼児のコミュニケーション能力 第4回：乳児期の発達と言葉～乳児期前期 第5回：乳児期の発達と言葉～乳児期後期 第6回：幼児期の発達と言葉～幼児期前期 第7回：幼児期の発達と言葉～幼児期後期 第8回：環境構成と言葉の発達 第9回：言葉を育てる保育者の役割～周りにいる人の言葉に関心を持つ（情報機器等を活用した模擬保育の実践） 第10回：言葉を育てる保育者の役割～相手の話を聞く（情報機器等を活用した模擬保育の実践） 第11回：言葉を育てる保育者の役割～自分の考えを言葉にする（情報機器等を活用した模擬保育の実践） 第12回：児童文化財との出会いと言葉～様々な児童文化財と情報機器等を活用した模擬保育の実践 第13回：児童文化財との出会いと言葉～言葉や想像の楽しさを感じるための情報機器等を活用した模擬保育の実践 第14回：情報機器等のメディアと言葉 第15回：言葉の発達をとらえる視点			第16回：子どもの言葉と自己省察 第17回：共感と言葉 第18回：「聞く」と「話す」と～傾聴 第19回：言葉としての身体表現～言葉にならない言葉の理解 第20回：言葉としての身体表現～身体表現の言語化 第21回：言葉としての身体表現～言語表現と身体表現の協和 第22回：寄り添うことから生まれる言葉 第23回：保護者対応と言葉～言葉を用いたコミュニケーション 第24回：保護者対応と言葉～言葉から真意を汲み取る、伝える 第25回：現代社会と言葉をめぐる諸問題 第26回：文字に出会う～情報機器等を活用した模擬保育の実践 第27回：文字を使う～情報機器等を活用した模擬保育の実践 第28回：指導計画と領域「言葉」 第29回：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第30回：言葉の持つ力 定期試験	
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、小テスト（20%）、課題提出（10%）				
学生へのメッセージ 保育者に求められる正確さや丁寧さ、そして創意工夫などを意識して授業や課題に取り組むことを期待する。				
テキスト 『生活事例からはじめる－保育内容－言葉』（徳安敦、堀科編、青踏社）			参考図書 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 『こどもの世界Ⅰ こどもと文化／生活』（矢野博之編、大学図書出版）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育教諭経験のある教員が実例を多く取り入れ、子どもの言葉の発達課程、子どもの言葉を豊かに育むための援助の在り方についての授業を行う。				

科目名 表現指導法Ⅱ			担当教員 荒木みどり	
2年次	通年	2単位	選択	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育者として表現活動の意義・展開について理解を深める。				
授業のねらい・概要 グループ製作・個人製作による視聴覚教材を用いて具体的な表現活動の理解と整理を行う。				
授業の内容・進め方				
第1回：表現活動の意義と展開		第22回：エプロンシアター発表と相互評価（クラス後半）		
第2回：表現活動へ導く遊びとは		第23回：自由課題（ペープサート、人形劇、影絵など）製作～題材を選択する		
第3回：表現活動の理解と整理		第24回：自由課題（ペープサート、人形劇、影絵など）製作～台本、演出を考える		
第4回：年間を通した保育の流れと生活		第25回：自由課題（ペープサート、人形劇、影絵など）製作～製作の実施		
第5回：絵本から学ぶ～世界の絵本		第26回：自由課題（ペープサート、人形劇、影絵など）製作～リハーサルの実施		
第6回：絵本から学ぶ～読み聞かせの基本		第27回：自由課題（ペープサート、人形劇、影絵など）発表と相互評価（クラス前半）		
第7回：絵本から学ぶ～読み聞かせの応用展開		第28回：自由課題（ペープサート、人形劇、影絵など）発表と相互評価（クラス後半）		
第8回：絵本製作～題材を選択する		第29回：グループ討議～表現活動における教材作製と活用について		
第9回：絵本製作～物語を創作する		第30回：保育の中で表現の楽しさを引き出すために		
第10回：絵本製作～ページ構成を考える		定期試験は実施しない。		
第11回：絵本製作～下書き				
第12回：絵本制作～描画				
第13回：絵本制作～製本				
第14回：絵本発表と相互評価（クラス前半）				
第15回：絵本発表と相互評価（クラス後半）				
第16回：エプロンシアター製作～題材を選択する				
第17回：エプロンシアター製作～台本を考える				
第18回：エプロンシアター製作～演出を考える				
第19回：エプロンシアター製作～登場人物等の製作				
第20回：エプロンシアター製作～リハーサルの実施				
第21回：エプロンシアター発表と相互評価（クラス前半）				
単位認定の方法及び基準 各課題製作の成果（50%）、各課題制作の発表の成果（50%）				
学生へのメッセージ 授業での学生の立場は、子どもと保育者の間を行き来します。表現活動を通して、その立場だからこそ、子どもの姿や保育者の思いに気づくことがあります。 積極的にグループワークやディスカッションをすることで、認知していきましょう。また課題にあった表現活動をじっくり考えて立案し、時間にあった合理的な準備をすることで、造形が身近で気軽なあそびになることを理解してほしいと思います。各自が主体的に制作や活動を楽しむことで感じる満足感は、子どもの場合も同様であり、自己肯定力にもつながっていくことを感得してほしいと思います。				
テキスト		参考図書		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） こどもの造形ワークショップ活動や幼児遊具の開発経験を持つ教員が、表現領域での保育者の造形活動の導入やその援助の仕方を体得するために、現場実践を含めた授業を行う。				

科目名 子どもと言葉			担当教員 藤澤麻里	
2年次	後期	1単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 領域「言葉」の指導の基盤となる乳幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識を身に付ける。				
授業のねらい・概要 子どもの言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識を身に付ける。また、保育の場で子どもが触れている児童文化財の素材や種類について理解を深める。				
授業の内容・進め方 第1回：人間にとっての言葉の意義と機能 第2回：子どもの言葉の発達過程 第3回：言葉に対する感覚を豊かにする実践 第4回：子どもと楽しむ「言葉遊び」 第5回：子どもの生活における児童文化と児童文化財 第6回：子どもの育ちにおける児童文化と歴史 第7回：保育の中の児童文化（1）わらべうた、絵描き歌 第8回：保育の中の児童文化（2）絵本、昔話、物語 第9回：子どもの遊びと児童文化財（1）発達と言葉の理解 第10回：子どもの遊びと児童文化財（2）遊び場、環境構成 第11回：子どもの遊びと児童文化財（3）玩具、伝承遊び 第12回：児童文化財を用いた実践 第13回：園生活における言語表現と保育者の援助 第14回：子どもの遊びとメディアとの関係 第15回：保育における言語表現 定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験と出欠状態・提出物、授業への取り組みを総合して評価する。 定期試験（60%）、授業の発表内容（20%）、課題レポート（20%）程度の割合とする				
学生へのメッセージ 子どもの言葉を豊かに育てるための保育者の役割を児童文化財への知識を深めることを通して考えていってほしい。				
テキスト 授業中に適宜資料を配布する。			参考図書 『子どもの世界Ⅱ 子どもと表現／メディア』（矢野博之編著、大学図書出版）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育現場に勤務した経験を持つ教員が、その経験を活かし、子どもの言葉に対する感覚を豊かにする保育について、また、児童文化財の素材や活用について授業を行う。				

科目名 音楽表現Ⅲ		担当教員 桐原明子・倉林公美・浅見二子・今石明子・佐倉藍・佐々木純子・清水絵美・菅原ユリ・橋本美香・水上まり		
2 年次	前期	1 単位	選択	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育のためのピアノと弾き歌い －レパートリーを増やす				
授業のねらい・概要 音楽Ⅰ、音楽Ⅱを基礎として、保育現場で活かせる実践的なピアノ演奏および弾き歌いの技術を身に付けると同時に、実習・就職に向けてレパートリーを増やす。				
授業の内容・進め方 音楽Ⅱからの継続で、15回の授業の中で童謡伴奏と自由曲を平行して学ぶ。保育の際に役立てることができる曲、さらには就職試験で弾くことができる曲、ということを前提に、各指導教員と相談の上、選曲すること。練習予定表（初回配付）を毎回持参すること。 1～2. 実習課題に取り組む（ピアノ・歌を含む） 3～4. 実習課題を仕上げる（ピアノ・歌を含む） 5～7. レパートリーを広げる（ピアノ） 8～10. レパートリーを広げる（童謡） 11. 保育における童謡伴奏の応用 12. 保育におけるピアノ伴奏の応用 13. 人の演奏を聴くこと 14～15. 人の前で発表すること（独奏・弾き歌い）				
* 前期授業終了時に、就職試験と同じ形式で試験を行う。指定の課題曲1曲のほか、自由曲、弾き歌い2曲の合計4曲を課す。 * 初級で特に余裕のない学生は、まず試験曲を早めに決め、完璧に仕上げる努力をすること。 * 就職試験では、その場で渡された楽譜を見てすぐ演奏しなければならない「初見」を課されることもある。この場合、曲は童謡伴奏であることが多いので、その対策という意味でも、童謡伴奏を1曲でも多くこなす努力をすること。また、これまでに仕上げた童謡も、すぐに弾けるよう、と時々復習しておくこと。（せつかく練習しても、忘れてしまっは使い物にならない。）				
単位認定の方法及び基準 基本的に期末試験の成績で単位認定を行うが、授業の出席状況と日頃の取り組みが著しく不十分な場合は減点する。				
学生へのメッセージ 音楽Ⅱと同様、出席と授業態度を重視する。夏から始まる就職試験では、多くの場合、ピアノ実技試験が行われる。この前期の努力がダイレクトに関わってくるので、毎回真剣に取り組む、1曲でもレパートリーを増やすように努力してほしい。 また、実習先で出されたピアノ（歌含む）の課題は必ずこの授業で指導を受けること。さらに前期試験は、就職試験のリハーサルのつもりでスーツ着用の上、緊張感と集中力をもって臨むこと。 * 遅刻厳禁（10分以上遅れて来た者は指導は行いが欠席扱い） * ツメを短く切っていない者は授業を受けさせない * 楽譜を持ってこない者、宿題をやってこない者は大幅減点（場合によっては欠席扱い）とする * あいさつをしっかりする「よろしくお願いします」「ありがとうございました」 * ピアノは実技科目であるため、定期試験不合格者への救済措置として、再テストの機会を複数回設けている。ただし、安易に再テスト受験しないよう、2度目の再テストからは受験料として3000円を徴収する。再テスト受験せずにすむよう、日頃から精一杯の努力をすること。				
テキスト 音楽Ⅱからの継続教材（各指導教員の指示に従う）		参考図書		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（無）				

科目名 造形表現Ⅱ			担当教員 宮脇佳子	
2年次	後期	1単位	選択	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育の中での造形表現活動について、様々な素材を用いた活動の可能性を知る。				
授業のねらい・概要 保育の中での造形表現活動について、1年次で学んだ基礎知識を基に、実技演習を通じて理解を深める。				
授業の内容・進め方 第1回：壁面パネルを用いた造形表現（共同制作）① 第2回：壁面パネルを用いた造形表現（共同制作）② 第3回：壁面パネルを用いた造形表現（共同制作）③ 第4回：壁面パネルを用いた造形表現（共同制作）④ 第5回：粘土による造形表現の習得 第6回：紙、その他の素材を用いた造形表現の習得 第7回：自然物を用いた造形表現の習得 第8回：絵の具を用いた造形表現の習得 第9回：実習保育所での造形活動レポート 第10回：実習幼稚園での造形活動レポート 第11回：布を用いた造形表現の習得 第12回：ひもを用いた造形表現の習得 第13回：版を用いた（写る、写す）造形表現の習得 第14回：紙芝居制作 第15回：紙芝居制作発表 定期試験は実施しない。				
単位認定の方法及び基準 授業における発表の成果（50%）、授業における課題制作の成果（25%）、ノート提出（25%）				
学生へのメッセージ 1年次で学んだ造形表現を基に、共同制作を通して実技演習を行なう。課題制作が中心となるがその過程、材料などノートに記録すること。				
テキスト 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社 内容によりプリント配布。 スケッチブック代、材料費を徴収する。			参考図書 適宜、参考資料を配布する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 幼児の造形教室、社会人造形教室、特別支援学校での造形指導がある教員が、その経験を活かし、様々な素材による造形表現方法の指導を行う。				

科目名 特別支援教育・保育概論			担当教員 三輪 謙	
2年次	通年	2単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 特別な支援を必要とする子どもの様々な困難を理解し、保育現場で対応していくための方法や課題とそれらの意義について学び、理解を深める。				
授業のねらい・概要 各種障害に関する知識を深め、保育の中での対応について理解する。また、特別に支援が必要な児童、障害のある児童に対する保育計画の作成や関係諸機関等との連携、今後の課題等について理解する。				
授業の内容・進め方				
第1回：「障害」の概念と障害児保育を支える理念 第2回：障害児保育の歴史的変遷～明治期・大正期 第3回：障害児保育の歴史的変遷～昭和期から現在 第4回：ノーマライゼーションの思想とインクルーシブ教育の考え方 第5回：共生社会の実現をめざす教育・保育理念 第6回：障害児等への理解と発達支援の考え方 第7回：肢体不自由児の理解と発達援助 第8回：視覚障害児の理解と発達援助 第9回：聴覚障害児・言語障害児の理解と発達援助 第10回：知的障害児の理解と発達援助 第11回：発達障害の基本的理解 第12回：自閉スペクトラム症の子どもの理解と発達援助 第13回：注意欠如多動症の子どもの理解と発達援助 第14回：限局性学習症の子どもの理解と発達援助 第15回：重度心身障害児、医療的ケアを要する子どもの理解と援助 第16回：その他の保育・教育的ニーズを持つ子どもの理解と援助 第17回：特別支援教育・保育における保育計画 第18回：個別の指導計画作成と特別支援教育 第19回：個々の発達を促す遊びや生活の環境整備 第20回：障害児と他児との関わり合いと育ち合い			第21回：保育職員間の協働とスーパービジョン 第22回：保護者や家族に対する理解と支援 第23回：保護者間の交流や支え合いの意義 第24回：地域の専門機関との連携 第25回：療育機関の現状と活動 第26回：小学校等との連携のしくみ 第27回：保健・医療の制度・施策と障害児 第28回：福祉・教育の制度・施策と障害児 第29回：障害児にかかわる今後の課題（支援の場の広がりとながりのために） 第30回：コンプライアンスの実践－法令の理解－定期試験	
単位認定の方法及び基準 定期試験（70%）、課題提出（30%）				
学生へのメッセージ 障害のある人の存在は今も昔もかわらない。そして周囲に多くのことを教えてくれる。保育所や幼稚園では特別な配慮を必要とする子どもたちが支援を求めている。昨年から続くコロナ禍における学修環境は全ての人にとって厳しいものがある。時代が大きく変化しつつある中で、土台となる基本的な考え方を学んでほしい。				
テキスト 授業時に印刷物を配布する。			参考図書 授業中に随時紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 公立民営の児童発達支援・放課後等デイサービス施設および重度心身障害者施設で管理職・現場実務経験を有する教員が障害のある幼児との関わり方について指導する。				

科目名 社会的養護Ⅱ			担当教員 熊田智恵子	
2年次	前期	1単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 子どもの理解を踏まえた社会的養護の内容について具体的に理解する				
授業のねらい・概要 1. 施設養護及び家庭養護の実際について理解する 2. 社会的養護に関わる相談援助技術や記録、評価について理解する 3. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する				
授業の内容・進め方 1. 社会的養護における子どもの理解 2. 日常生活支援 3. 治療的支援 4. 自立支援 5. 施設養護の特性 6. 施設養護の実際 7. 実習のふりかえりを通した施設養護の総合的理解 8. 家庭養護の生活特性及び実際 9. アセスメントと個別支援計画の作成 10. 記録及び自己評価 11. 保育士の専門性に関わる知識・技術とその実践 12. 社会的養護に関わる相談援助の知識・技術とその実践 13. 社会的養護における家庭支援 14. 社会的養護の課題と展望 15. まとめ（試験）				
単位認定の方法及び基準 平常点（授業への参加態度、授業内の課題提出等）40%、期末試験60%とし、総合的に評価する。				
学生へのメッセージ 授業を通して子どもを取り巻く社会問題に関心を向け、自分で考える力を身に付けて欲しい。				
テキスト 『実践研究や事例から学ぶ社会的養護Ⅱ』上田征三 編著、大学図書出版			参考図書 初回にアナウンスする	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 社会福祉士として療育施設等に勤務した経験のある教員が、その経験を活かして授業を行う				

科目名 子育て支援			担当教員 上田美香	
2年次	後期	1単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育士の行う保育の専門性を背景とした子育て支援について、その特性と展開、具体的な支援方法を理解する。				
授業のねらい・概要 子どもの保育とともに行う日常的・継続的な保護者支援、保育の専門性を生かした地域の子育て家庭に対する支援について、その重要性を理解する。そのうえで、様々な課題を抱える子育て家庭に対して行う保育士の支援について、その内容や方法及び技術、社会資源の活用と自治体・関係機関や多職種との連携・協働について実践事例を通して具体的に理解する。				
授業の内容・進め方 1. オリエンテーション、保育所における子育て支援とは 2. 子育て・子育ての現状 3. 日常的・継続的なかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 4. 相談・支援の基本的姿勢 5. 保護者と子どもの状況・状態の把握 6. 支援の計画と環境の構成 7. 支援の実践・記録・評価・カンファレンス 8. 職員間の連携と協働 9. 関係機関（者）との連携・調整・社会資源の活用 10. 地域の子育て支援 11. 障がいを抱えた子どもと家族の支援 12. 特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援 13. 子ども虐待の予防と対応 14. 要保護児童等の家庭に対する支援 15. まとめ				
単位認定の方法及び基準 ・単位数が2／3以下の場合、単位履修を認めない。 ・期末試験（40%）、レポート・小テスト（30%）、出席状況・授業態度（30%）を総合して評価する。				
学生へのメッセージ 具体的な子育て支援の方法を理解するため実践事例を通して学びを深めていくことが中心となります。積極的なワークへの取り組みと記録を望みます。				
テキスト 小橋明子 監修・著、木脇奈智子 編著「子育て支援」 中山書店、2020年			参考図書 参考文献等は、その都度紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 社会福祉士の資格を持ち、保育現場における保育士経験のある教員がその経験を生かし、保育所や児童福祉施設における子育て支援の方法と技術について指導する。				

科目名 教育相談論			担当教員 松宮美樹	
2年次	通年	2単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 個々の子どもの発達の・心理的な特質を踏まえ、教育的課題の解決を支援するための基礎的な知識を習得する。				
授業のねらい・概要 子どもの不適応等に関する心理学諸理論を学び、発達段階や内容に応じた教育相談の進め方について理解を深め、実践力を高める。				
授業の内容・進め方 第1回：教育相談支援の定義と意義 第2回：教育相談支援の目的と対象 第3回：教育相談支援の原理・原則 第4回：保育と教育相談支援 第5回：教育相談支援に関する理論 第6回：子どもの問題行動・不適応とその特徴 第7回：カウンセリングの基礎理論とカウンセリングマインド 第8回：カウンセリングの基礎技術 第9回：受信型と発信型の教育相談支援技術 第10回：教育相談支援の直接的な手段 第11回：教育相談支援の間接的な手段 第12回：教育相談支援の構造と展開～支援の前提 第13回：教育相談支援の構造と展開～アセスメント 第14回：教育相談支援の構造と展開～モニタリング 第15回：保護者との信頼関係を形成する環境づくり 第16回：基本的な生活を支える環境 第17回：教育相談支援の評価のポイント 第18回：園における教育相談支援の体制、仕組みづくり 第19回：他機関や他専門職等との連携 第20回：日常的な関わりの中での教育相談支援～「気になる子」のシグナル 第21回：日常的な関わりの中での教育相談支援～日常の保育場面での対応 第22回：特定の機会における教育相談支援～懇談会 第23回：特定の機会における教育相談支援～保育参観 第24回：障害のある子どもとその家庭への支援 第25回：不適応行動を示す子どもとその家庭への支援 第26回：児童虐待が疑われる子どもとその家庭への支援 第27回：保護者に子育てで不安が強い子どもとその家庭への支援 第28回：保護者に障害や疾患のある子どもとその家庭への支援 第29回：その他特別な配慮を必要とする子どもとその家庭への支援 第30回：保育所等児童福祉施設における相談支援定期試験				
単位認定の方法及び基準 定期試験（40%）、課題提出（60%）				
学生へのメッセージ 心理学の授業内容が基礎となるため、復習を勧める。				
テキスト 『実践・保育相談支援』みらい			参考図書 適宜、資料を配布する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 巡回相談員、母子相談員、心認心理師、スクールカウンセラー経験がある教員が、幼稚園・保育園において実際に担当した事例を中心に現状や課題について講義する。				

科目名 生活文化			担当教員 市原浩美	
2年次	後期	1単位	選択	演習
授業のテーマ及び到達目標 多文化共生子育てにおける保育者の役割				
授業のねらい・概要 子どもの生活を知る上で欠かせない行事や食に焦点を当て、諸外国との違いにも目を向けながら多文化共生保育の現状と課題について考える。きものの着付けや舞踊鑑賞を通して自国の文化に触れ、現代の子どもの生活を支える保育者の役割について考える機会としたい。				
授業の内容・進め方 1. 生活文化とは 2. 衣食住に関わる物質文化 3. 子どもと日本文化 4. 着物文化と礼儀作法 5. 着つけの基礎知識 6. 行事と食― (1) 異文化保育の現状と課題 7. 行事と食― (2) 諸外国の文化 8. 保育園での行事食をコーディネート 9. 成人までの通過儀礼 10. 出産の行事（乳児沐浴） 11. 食育とマナー 12. 子どもと祭り 13. 多文化共生子育ての現状と課題（事例検討） 14. 多文化共生子育ての現状から見る保育者の役割 15. ゆかたの着つけと所作（応用）				
単位認定の方法及び基準 期末試験及び授業への取り組み状況による総合評価。評価の比率は、期末試験 70%、課題提出・授業態度 30%とする。				
学生へのメッセージ 自分自身の行動様式や日常的な慣習を見つめ直す授業にしたいと思っています。ゆかたの準備については、初回のオリエンテーションで説明します。				
テキスト I Live in Tokyo written & illustrated by Mari Takabayashi その他、必要に応じた DVD 教材及び資料を配布する。			参考図書 食・育歳時記新藤由喜子（2012）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育現場での勤務経験を有する教員が、諸外国と日本の違いに目を向けながら、多文化共生保育の現状と課題について指導する。				

科目名 国語表現法			担当教員 綾 牧子																																			
2年次	通年	2単位	選択	演習																																		
授業のテーマ及び到達目標 保育の場における国語表現力の錬成																																						
授業のねらい・概要 (1) 国語表現力の基礎・基本を学び、自己の意見や主張を的確に伝える文章表現力などを養い、採用試験や保育現場で役立てる。 (2) 保育の場に求められる言葉の知識や使い方、声を出す訓練をし、話し言葉による表現力を錬成する。																																						
授業の内容・進め方																																						
<table border="0"> <tr> <td>1. 国語力に必要な知識</td> <td>18. ソーシャルスキル (1) あいさつ</td> </tr> <tr> <td>2. 文章表現における表記などの基礎知識</td> <td>19. ソーシャルスキル (2) 話すスキルと聴くスキル</td> </tr> <tr> <td>3. まぎらわしい漢字</td> <td>20. ソーシャルスキル (3) 援助を要請する</td> </tr> <tr> <td>4. 文章を読解する</td> <td>21. ソーシャルスキル (4) 上手に断る</td> </tr> <tr> <td>5. 声を出して読む日本語</td> <td>22. ソーシャルスキル (5) 感謝の気持ちを伝えよう</td> </tr> <tr> <td>6. 連絡帳の文章の工夫と作成</td> <td>23. ソーシャルスキル (6) 上手に自分の言いたいことを伝える</td> </tr> <tr> <td>7. 園だより・クラスだよりの文章の工夫と作成</td> <td>24. 文を書くときの注意点</td> </tr> <tr> <td>8. 新聞を用いた学習方法</td> <td>25. レポートの作成方法－引用文と著作権</td> </tr> <tr> <td>9. 電子メールの適切な活用法</td> <td>26. 小論文の書き方－文章構成の工夫と作成</td> </tr> <tr> <td>10. スタディスキル (1) 正しい日本語</td> <td>27. 図書館の活用法</td> </tr> <tr> <td>11. スタディスキル (2) 敬語</td> <td>28. ビブリオバトル (1) グループ実践</td> </tr> <tr> <td>12. スタディスキル (3) 要約する</td> <td>29. ビブリオバトル (2) クラス実践</td> </tr> <tr> <td>13. スタディスキル (4) クリティカルに読む</td> <td>30. ビブリオバトル (3) コミュニティ実践</td> </tr> <tr> <td>14. スタディスキル (5) 説明する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15. スタディスキル (6) 連絡する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16. スタディスキル (7) 子どもとの対話を支える表現</td> <td></td> </tr> <tr> <td>17. スタディスキル (8) 保育の営みを表現する</td> <td></td> </tr> </table>					1. 国語力に必要な知識	18. ソーシャルスキル (1) あいさつ	2. 文章表現における表記などの基礎知識	19. ソーシャルスキル (2) 話すスキルと聴くスキル	3. まぎらわしい漢字	20. ソーシャルスキル (3) 援助を要請する	4. 文章を読解する	21. ソーシャルスキル (4) 上手に断る	5. 声を出して読む日本語	22. ソーシャルスキル (5) 感謝の気持ちを伝えよう	6. 連絡帳の文章の工夫と作成	23. ソーシャルスキル (6) 上手に自分の言いたいことを伝える	7. 園だより・クラスだよりの文章の工夫と作成	24. 文を書くときの注意点	8. 新聞を用いた学習方法	25. レポートの作成方法－引用文と著作権	9. 電子メールの適切な活用法	26. 小論文の書き方－文章構成の工夫と作成	10. スタディスキル (1) 正しい日本語	27. 図書館の活用法	11. スタディスキル (2) 敬語	28. ビブリオバトル (1) グループ実践	12. スタディスキル (3) 要約する	29. ビブリオバトル (2) クラス実践	13. スタディスキル (4) クリティカルに読む	30. ビブリオバトル (3) コミュニティ実践	14. スタディスキル (5) 説明する		15. スタディスキル (6) 連絡する		16. スタディスキル (7) 子どもとの対話を支える表現		17. スタディスキル (8) 保育の営みを表現する	
1. 国語力に必要な知識	18. ソーシャルスキル (1) あいさつ																																					
2. 文章表現における表記などの基礎知識	19. ソーシャルスキル (2) 話すスキルと聴くスキル																																					
3. まぎらわしい漢字	20. ソーシャルスキル (3) 援助を要請する																																					
4. 文章を読解する	21. ソーシャルスキル (4) 上手に断る																																					
5. 声を出して読む日本語	22. ソーシャルスキル (5) 感謝の気持ちを伝えよう																																					
6. 連絡帳の文章の工夫と作成	23. ソーシャルスキル (6) 上手に自分の言いたいことを伝える																																					
7. 園だより・クラスだよりの文章の工夫と作成	24. 文を書くときの注意点																																					
8. 新聞を用いた学習方法	25. レポートの作成方法－引用文と著作権																																					
9. 電子メールの適切な活用法	26. 小論文の書き方－文章構成の工夫と作成																																					
10. スタディスキル (1) 正しい日本語	27. 図書館の活用法																																					
11. スタディスキル (2) 敬語	28. ビブリオバトル (1) グループ実践																																					
12. スタディスキル (3) 要約する	29. ビブリオバトル (2) クラス実践																																					
13. スタディスキル (4) クリティカルに読む	30. ビブリオバトル (3) コミュニティ実践																																					
14. スタディスキル (5) 説明する																																						
15. スタディスキル (6) 連絡する																																						
16. スタディスキル (7) 子どもとの対話を支える表現																																						
17. スタディスキル (8) 保育の営みを表現する																																						
単位認定の方法及び基準 定期試験 50%、授業における小レポート等 50%																																						
学生へのメッセージ 言葉による表現力は、実際に話す、聞く、読む、書く、考えるなどの言語活動を重ねることで初めて身に付く。日頃から身近な出来事、自己の体験、社会の問題などに目を向け、自分の考え方や言葉に対する関心を深める努力をしてほしい。また、積極的に人と関わって言語活動を充実させてほしい。 授業では、様々な学習法を取り入れ、そのひとつとしてビブリオバトルの実践を行う。地域で行われているビブリオバトルに参加する機会を設ける。																																						
テキスト 『保育系学生のための日本語表現トレーニング』 (渡辺弥生・平山祐一郎・藤枝静暁編著、三省堂)			参考図書 『保育者になるための国語表現』(田上貞一郎著、萌文書林)																																			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (無)																																						

科目名 保育・教職実践演習		担当教員 綾牧子・川邊恵子・石川晶生・ 山梨有子・野見山直子 他		
2年次	後期	2単位	必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 教科学習や教育・保育実習での学びを踏まえて、保育者としての知識や技能の修得を確認するとともに、社会性や対人関係能力の向上と保育に携わる者としての使命感や責任感、実践力を養う。				
授業のねらい・概要 修得した知識や技能を、保育の場での実践にどのように結びつけたら良いのかを、演習を通して学べるように授業を展開する。特に、実習での体験をもとにして、乳幼児に対する理解や関わりのある方、保護者との関係の構築方法、また乳幼児や保護者に対する責任とは何か等について、講義を踏まえつつグループワークやロールプレイングなどを用いた授業を行う。さらには、保育実践力を高めるための技術向上を図るとともに、幼稚園や保育所が抱えている課題とその解決方法などについて、学生自らが調べ、まとめる機会も設ける。				
授業の内容・進め方				
第1回：オリエンテーション－保育・教職実践演習の目的（担当：綾 牧子）		第8回：保育実践力を高める－読み聞かせやお話の技術（担当：野見山直子）		
第2回：保育の楽しさと難しさ（1）－乳児と関わることの意義の再確認（担当：川邊 恵子）		第9回：保育実践力を高める－創作や表現の技術（担当：山梨 有子）		
第3回：保育の楽しさと難しさ（2）－幼児と関わることの意義の再確認（担当：山梨 有子）		第10回：保育実践力を高める－音楽や運動の技術（担当：川邊 恵子）		
第4回：関わり方の技術（1）－幼稚園実習の体験を踏まえて、子どもとのより良い関わり方を考える（担当：野見山直子）		第11回：保育実践力を高める－環境への興味を引き出す技術（担当：石川 晶生）		
第5回：関わり方の技術（2）－保育所実習体験を踏まえて、子どもとのより良い関わり方を考える（担当：山梨 有子）		第12回：保育者の使命と責任（1）－子どもの目に写る保育者の姿とは（担当：綾 牧子）		
第6回：関わり方の技術（3）－施設実習の体験を踏まえて、子どもとのより良い関わり方を考える（担当：川邊 恵子）		第13回：保育者の使命と責任（2）－社会の一員としての保育者（担当：山梨 有子）		
第7回：関わり方の技術（4）－保護者や地域とのより良い関わり方を考える（担当：石川 晶生）		第14回：幼稚園や保育所が抱えている今日的課題（担当：野見山直子）		
		第15回：どのような保育者になりたいか－目指すべき保育者の姿を描く（担当：野見山直子）		
		定期試験		
単位認定の方法及び基準 定期試験（50%）、授業におけるレポート課題の評価（50%）				
学生へのメッセージ なお、本科目は、すべての実習修了（見込み）者を対象とした科目であるため、未修了の実習がある場合、本科目も未修了となる。				
テキスト 適宜プリントを配布する。		参考図書 『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『保育所保育指針』（平成29年3月告示 厚生労働省） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 幼稚園教諭経験や保育実践経験のある教員が、オムニバス形式により、その経験を活かして具体的な行事・活動を行う上での計画の立て方、準備の仕方、他の保育者との連携の取り方について実践的な授業を行う。				

実習科目

科目名 保育実習Ⅰ－保育所		担当教員 山梨有子・他	
1年次	2単位	必修	実習
授業のテーマ及び到達目標 保育所保育の機能内容の理解と実践力の養成			
授業のねらい・概要 児童福祉施設である保育所の生活に参加し、保育所保育士の職務内容および保育所の機能を理解することをねらいとする。また、子どもや保育者との関わりを通して実践力を養う。さらに、保育所保育士としての職業倫理と使命を理解し、保育への熱意を育むこともねらいとする。			
実習期間 保育所実習Ⅰ期は、1年次2月に90時間以上の実習を行う。			
授業の内容・進め方 保育所実習Ⅰ期では、観察実習、参加実習を中心に行い、さらに部分実習を行う。その段階においては、実習園の状況によって実施される。実習中には巡回指導を実施し、実習施設の実習担当者との連携のもとに、実習へのスーパービジョンを行う。 1. 実習施設について理解する 2. 保育所の生活に参加することを通して、一日の流れを理解する 3. 子どもへの観察や実際の関わりを通して乳幼児の発達を理解する 4. 全体的な計画と指導計画及び評価を理解する 5. 生活および遊びなど一部分を担当して保育技術を習得する 6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する 7. 記録や保護者とのコミュニケーションを通して家庭や地域社会との連携を理解する 8. 子どもの最善の利益を具現化する方法について学ぶ 9. 保育士としての倫理を具体的に学ぶ 10. 安全及び疾病予防への配慮について理解する			
実習の記録 実習期間を通して、毎日実習日誌を作成し、指導者へ提出する。予め立てた一日の目標に沿って実習体験を記録し、学びや反省をまとめる。			
単位認定の方法及び基準 実習態度、実習における保育の理解や記録、事前事後学習を総合的に評価する。実習態度、実習における保育の理解、記録80%、事前事後学習20%とする。			
学生へのメッセージ これまで学んだ様々な保育の理論や技術を踏まえ、総合的な実践学習である。 したがって、まずこれまでの学習を復習し、各自がしっかりとした目標を持って臨んでほしい。実践を通して、保育所保育の理解、子ども理解、保育者の役割について学びを深めてほしい。 また、実習を行うにあたっては、生活態度など社会人としての自覚を十分に意識してほしい。さらに、自らの言動を振り返り、自身の適正や指標を考える手がかりにしてほしい。			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 （有） 保育士として保育所で働く上で必要な能力を身につけるために、実習指導者の指導の下、保育所において保育実践を行う。			

科目名 保育実習Ⅰ－施設		担当教員 川邊恵子・他	
1・2年次	2単位	必修	実習
授業のテーマ及び到達目標 施設養護の内容の理解と実践力の習得			
授業のねらい・概要 居住型・通所型児童福祉施設などの生活に参加し、利用児・者への理解を深めるとともに、居住型・通所型児童福祉施設等の役割と機能を理解し、そこでの保育士の職務について学ぶ。			
実習期間 施設実習（必修）は、実質90時間以上実施とする。			
授業の内容・進め方 施設実習（必修）では、観察実習、見学実習、参加実習を、段階を踏まえて実習施設の状況に合わせておこなう。 1. 実習施設役割と機能について理解する。 2. 養護の一日の生活の流れを理解し、共に生活する。 3. 利用者の観察や関わりを通して、利用者のニーズを理解する。 4. 援助支援計画を理解する。 5. 生活や援助支援などの一部分を担当し、養護・			
<p>介助技術を習得する。</p> <p>6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する。</p> <p>7. 記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して、家庭・地域社会との連携を理解する。</p> <p>8. 利用者の最善の利益についての配慮を学ぶ。</p> <p>9. 保育士としての職業倫理を理解する。</p> <p>10. 安全および疾病予防への配慮について理解する。</p>			
実習の記録 実習期間を通して、毎日実習日誌を作成し、毎朝指導者に提出する。実習日誌は予め立てた一日の目標に沿ってその日の実習体験を記録し、学びや反省をまとめる。			
実習事後指導 1. 実習の振り返り総括レポート作成を通して、自己評価を行う。 2. それぞれが実習体験を報告し合い、様々な児童福祉施設の実態を理解する。 3. まとめとして、 ・様々な種別の児童福祉施設で働く保育士の業務の共通点、 ・利用児・者の生活や遊び・発達の援助・支援で大切にしていた事、 ・他職種との連携、 などを話し合うことを通して「保育士の専門性」について考える。			
実習中の巡回指導 実習期間中に教員が巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに、実習生へスーパービジョンをおこなう。			
単位認定の方法及び基準 レポート、授業態度及び出席状況、実習日誌、実習先評価などによる総合評価。			
学生へのメッセージ 施設実習（必修）は、保育所以外の児童福祉施設等で実施される。施設の種別によって対象者は乳児から成人まで幅広くその目的や役割もさまざまであり、したがって実習園によって実習内容や学びが大きく異なるという点が施設実習の特徴である。 つまり、普段の授業での学習はもちろんのこと、各自が実習する施設について、その概要や目的などの十分な下調べが必要である。また、福祉施設を取り巻く社会的問題の把握などの事前学習をしっかりと行なうことで、実習が実りの多い学習機会となる。 保育士資格を持つ、広域に亘る職務内容を体験することを通して、その社会的責任の重みを改めて考え、各自の将来に繋げてほしい。			
テキスト 「より深く理解できる施設実習－施設種別の計画と記録の書き方」萌文書林		参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育士として施設（乳児院・障害者支援施設など）で働く上で必要な能力を身につけるために、実習指導者の指導の下、施設において実践的な経験積む。			

科目名 保育実習指導 I			担当教員 川邊恵子・山梨有子																															
1 年次	通年	2 単位	必修	演習																														
授業のテーマ及び到達目標 保育実習を通して保育者になるための実践力を習得する																																		
授業のねらい・概要 1 年次 2 月より実施される保育所実習 I 期、及び施設実習についての事前事後学習を行う。保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深化させ、実習体験の共有化を通して福祉職の体系化を推し進め、将来につながる実践力を養うことをねらいとする。																																		
授業の内容・進め方																																		
<table border="0"> <tr> <td>1. オリエンテーション</td> <td>16. 実習日誌について③記録の書き方 2</td> </tr> <tr> <td>2. 保育実習の意義目的と概要</td> <td>17. 乳幼児保育の実際①</td> </tr> <tr> <td>3. 実習に向けての準備と心構え</td> <td>18. 乳幼児保育の実際②</td> </tr> <tr> <td>4. 保育所の理解①保育所の日</td> <td>19. 保育者の援助と役割</td> </tr> <tr> <td>5. 保育所の理解②保育環境</td> <td>20. 保育計画の理解①保育計画とは</td> </tr> <tr> <td>6. 施設の理解①施設実習の意味</td> <td>21. 保育計画の理解②指導計画の立案 1</td> </tr> <tr> <td>7. 施設の理解②施設の種類</td> <td>22. 保育計画の理解③指導計画の立案 2</td> </tr> <tr> <td>8. 保育技術の習得①発達過程と保育</td> <td>23. 指導計画による実践</td> </tr> <tr> <td>9. 保育技術の習得②絵本 1</td> <td>24. 施設実習の理解①実習における課題の明確化</td> </tr> <tr> <td>10. 保育技術の修得③絵本 2</td> <td>25. 施設実習の理解② 2 年生の体験談</td> </tr> <tr> <td>11. 保育技術の実践</td> <td>26. ゲストスピーカーによる講演</td> </tr> <tr> <td>12. 保育実習の自己課題①</td> <td>27. 保育実習における学びの整理</td> </tr> <tr> <td>13. 保育実習の自己課題②</td> <td>28. 体験の共有化と課題の明確化①</td> </tr> <tr> <td>14. 実習日誌について①記録の意義</td> <td>29. 体験の共有化と課題の明確化②</td> </tr> <tr> <td>15. 実習日誌について②記録の書き方 1</td> <td>30. まとめ</td> </tr> </table>					1. オリエンテーション	16. 実習日誌について③記録の書き方 2	2. 保育実習の意義目的と概要	17. 乳幼児保育の実際①	3. 実習に向けての準備と心構え	18. 乳幼児保育の実際②	4. 保育所の理解①保育所の日	19. 保育者の援助と役割	5. 保育所の理解②保育環境	20. 保育計画の理解①保育計画とは	6. 施設の理解①施設実習の意味	21. 保育計画の理解②指導計画の立案 1	7. 施設の理解②施設の種類	22. 保育計画の理解③指導計画の立案 2	8. 保育技術の習得①発達過程と保育	23. 指導計画による実践	9. 保育技術の習得②絵本 1	24. 施設実習の理解①実習における課題の明確化	10. 保育技術の修得③絵本 2	25. 施設実習の理解② 2 年生の体験談	11. 保育技術の実践	26. ゲストスピーカーによる講演	12. 保育実習の自己課題①	27. 保育実習における学びの整理	13. 保育実習の自己課題②	28. 体験の共有化と課題の明確化①	14. 実習日誌について①記録の意義	29. 体験の共有化と課題の明確化②	15. 実習日誌について②記録の書き方 1	30. まとめ
1. オリエンテーション	16. 実習日誌について③記録の書き方 2																																	
2. 保育実習の意義目的と概要	17. 乳幼児保育の実際①																																	
3. 実習に向けての準備と心構え	18. 乳幼児保育の実際②																																	
4. 保育所の理解①保育所の日	19. 保育者の援助と役割																																	
5. 保育所の理解②保育環境	20. 保育計画の理解①保育計画とは																																	
6. 施設の理解①施設実習の意味	21. 保育計画の理解②指導計画の立案 1																																	
7. 施設の理解②施設の種類	22. 保育計画の理解③指導計画の立案 2																																	
8. 保育技術の習得①発達過程と保育	23. 指導計画による実践																																	
9. 保育技術の習得②絵本 1	24. 施設実習の理解①実習における課題の明確化																																	
10. 保育技術の修得③絵本 2	25. 施設実習の理解② 2 年生の体験談																																	
11. 保育技術の実践	26. ゲストスピーカーによる講演																																	
12. 保育実習の自己課題①	27. 保育実習における学びの整理																																	
13. 保育実習の自己課題②	28. 体験の共有化と課題の明確化①																																	
14. 実習日誌について①記録の意義	29. 体験の共有化と課題の明確化②																																	
15. 実習日誌について②記録の書き方 1	30. まとめ																																	
単位認定の方法及び基準 授業への参加態度と理解、課題レポートを総合に評価する。授業への参加態度と理解 50%、課題レポート 50%とする。																																		
学生へのメッセージ 保育実習はこれまで得た知識・技術を基に、子どもや保育者と実際に関わりながら、保育について具体的に学ぶ機会です。 そのためにも、基本的な保育理解が必要になってきます。毎回の授業での学びや復習を怠らず、しっかり準備をして実習に臨みます。また、実習は社会での学びとなります。日常から社会人としての常識を理解し、責任ある言動をとることも重要になってきます。 実習事後においては、他の学生と体験を共有することにより、自分の課題を明確にしたり、保育観を深化していきます。																																		
テキスト 名須川知子 監修『保育者になる人のための実習ガイドブック AtoZ』萌文書林 佐藤暁子『基本の遊びと広げ方』ひかりのくに 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』平成 30 年版 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』平成 30 年版 相馬和子、中田カヨ子編『幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方』萌文書林			参考図書 適宜授業の中で紹介する。																															
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (有)																																		
川邊恵子 心身障害児総合通園施設において、保育士・心理士として障害児の療育指導の経験がある教員が、実習施設の基礎的な事項、実習事務手続き、実習の意義、日誌の書き方等充実した実習に向けた知識・技術について指導する。																																		
山梨有子 保育実践の経験がある教員がその経験を活かし、保育所の具体を伝えると共に、保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わりについての授業を行う。																																		

科目名 教育実習指導			担当教員 野見山直子			
1・2年次	通年	1単位	必修	実習		
授業のテーマ及び到達目標 幼稚園実習での学びを深めるために						
授業のねらい・概要 2年次に予定している教育（幼稚園）実習についてその事前準備と事後学習を行なうことにより、基礎理論をベースにしながら実践について学びを深めることができるようにすることをねらいとする。						
授業の内容・進め方						
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. オリエンテーション 2. 教育実習とは (1) 実習の意義・目的・内容・段階 3. 教育実習とは (2) 実習の心得 4. 幼稚園とは (1) 幼稚園の制度と教育基本 5. 幼稚園とは (2) 幼稚園の一日 6. 「彰栄幼稚園」観察実習 (1) オリエンテーション 7. 「彰栄幼稚園」観察実習 (2) 観察の方法 8. 「彰栄幼稚園」観察実習 (3) 観察記録のとり方 9. 「彰栄幼稚園」観察実習 (4) 振り返りとまとめ 10. 保育実技 (1) 手遊び 11. 保育実技 (2) 紙芝居 </td> <td style="vertical-align: top;"> 12. 保育実技 (3) 絵本その他 13. 実習日誌とは (1) 意義・書き方 14. 実習日誌とは (2) 日誌を書いてみる 15. 実習指導案とは (1) 実習指導案とは何か 16. 実習指導案とは (2) 実習指導案を書いてみる 17. 教育実習について諸注意 18. ゲストスピーカーによる講演 19. 春期幼稚園実習における学びの整理 (1) 自己評価と反省 20. 春期幼稚園実習における学びの整理 (2) 実習体験の共有化 21. 春期幼稚園実習における学びの整理 (3) 自己課題の整理 22. 秋期幼稚園実習に向けての準備 (1) 活動研究と実践演習 23. 秋期幼稚園実習に向けての準備 (2) 日案の立案 24. 秋期幼稚園実習における学びの整理 </td> </tr> </table>					1. オリエンテーション 2. 教育実習とは (1) 実習の意義・目的・内容・段階 3. 教育実習とは (2) 実習の心得 4. 幼稚園とは (1) 幼稚園の制度と教育基本 5. 幼稚園とは (2) 幼稚園の一日 6. 「彰栄幼稚園」観察実習 (1) オリエンテーション 7. 「彰栄幼稚園」観察実習 (2) 観察の方法 8. 「彰栄幼稚園」観察実習 (3) 観察記録のとり方 9. 「彰栄幼稚園」観察実習 (4) 振り返りとまとめ 10. 保育実技 (1) 手遊び 11. 保育実技 (2) 紙芝居	12. 保育実技 (3) 絵本その他 13. 実習日誌とは (1) 意義・書き方 14. 実習日誌とは (2) 日誌を書いてみる 15. 実習指導案とは (1) 実習指導案とは何か 16. 実習指導案とは (2) 実習指導案を書いてみる 17. 教育実習について諸注意 18. ゲストスピーカーによる講演 19. 春期幼稚園実習における学びの整理 (1) 自己評価と反省 20. 春期幼稚園実習における学びの整理 (2) 実習体験の共有化 21. 春期幼稚園実習における学びの整理 (3) 自己課題の整理 22. 秋期幼稚園実習に向けての準備 (1) 活動研究と実践演習 23. 秋期幼稚園実習に向けての準備 (2) 日案の立案 24. 秋期幼稚園実習における学びの整理
1. オリエンテーション 2. 教育実習とは (1) 実習の意義・目的・内容・段階 3. 教育実習とは (2) 実習の心得 4. 幼稚園とは (1) 幼稚園の制度と教育基本 5. 幼稚園とは (2) 幼稚園の一日 6. 「彰栄幼稚園」観察実習 (1) オリエンテーション 7. 「彰栄幼稚園」観察実習 (2) 観察の方法 8. 「彰栄幼稚園」観察実習 (3) 観察記録のとり方 9. 「彰栄幼稚園」観察実習 (4) 振り返りとまとめ 10. 保育実技 (1) 手遊び 11. 保育実技 (2) 紙芝居	12. 保育実技 (3) 絵本その他 13. 実習日誌とは (1) 意義・書き方 14. 実習日誌とは (2) 日誌を書いてみる 15. 実習指導案とは (1) 実習指導案とは何か 16. 実習指導案とは (2) 実習指導案を書いてみる 17. 教育実習について諸注意 18. ゲストスピーカーによる講演 19. 春期幼稚園実習における学びの整理 (1) 自己評価と反省 20. 春期幼稚園実習における学びの整理 (2) 実習体験の共有化 21. 春期幼稚園実習における学びの整理 (3) 自己課題の整理 22. 秋期幼稚園実習に向けての準備 (1) 活動研究と実践演習 23. 秋期幼稚園実習に向けての準備 (2) 日案の立案 24. 秋期幼稚園実習における学びの整理					
単位認定の方法及び基準 定期試験、授業中の小テスト、授業への取り組みを総合して評価する。評価の比率は、定期試験や小テスト70%、授業への取り組み30%程度とする。						
学生へのメッセージ 幼稚園教諭は、子どもの成長にかかわる責任ある仕事を担っている。この教育実習に臨むにあたり、専門的な知識や技能を身につけることは勿論のこと、日常における基本的な生活態度や社会人としての常識についてもしっかりと考えて欲しい。保育者になるために学ぶ学生として品位ある態度と行動が常に求められる。このことを十分に理解して授業に取り組み、学生一人ひとりが充実した実習を行い幼稚園という現場で具体的な体験を通して、子どもの魅力、保育の奥深さを知ってほしい。また、各期の実習後は自己課題を明確にするとともに実習体験の共有をはかり、理論と実践の体系化を目指して欲しい。特に、秋期幼稚園実習後には、春期の実習をも含めた学びの整理をした上で、「教育実習体験報告書」を作成し教育実習の総括を行う。						
テキスト 名須川知子監修『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z』萌文書林 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成30年）フレール館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成30年）フレール館 相馬和子・中田カヨ子『実習日誌の書き方』萌文書林			参考図書 必要に応じて適宜紹介する。			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 幼稚園教諭経験のある教員が、教育実習におけるマナー、実習事務手続き、実習の意義、日誌の書き方、指導案の書き方等充実した実習に向けた知識・技術について指導する。						

科目名 教育実習		担当教員 野見山直子・他	
1・2年次	4単位	必修	実習
授業のテーマ及び到達目標 幼稚園教育の実際の理解と保育実践力の習得			
授業のねらい・概要 実際の幼稚園における保育を観察し、自らが体験することを通して、幼稚園教育の深い理解を得ること、また保育実践力を養うことをねらいとする。さらに、幼稚園教諭として必要な資質や能力の向上をはかるだけでなく、教育者としての使命感や保育への熱意、幼児への深い愛情を育むこともねらいとしている。			
実習の時期 幼稚園実習は、24日間を春期（4月初旬）と秋期（9月下旬～10月初旬）の2期に分けて実施する。なお、春期（前期）、秋期（後期）とも同じ実習園で実習を行う。			
授業の内容・進め方 幼稚園実習は、観察実習、参加実習、指導実習の段階によって行う。その配分は、各幼稚園の状況に合わせて適切に実施されるが、春期（前期）実習では観察実習・参加実習を中心に指導実習（部分実習）を、秋期（後期）実習では参加実習・指導実習（1日実習）を中心に進められる。それぞれの内容は以下の通りである。			
1. 観察実習 幼稚園における保育実践の場を観察することにより、幼児や保育について理解する。特に以下の事柄を観察し学ぶ。 ①保育環境 ②一日の園生活の展開 ③幼児の園生活の様子 ④幼児の遊びや活動の様子 ⑤幼児の発達の実態 ⑥教師の幼児へのかかわり、援助			
2. 参加実習 参加実習は、指導教師の指導を受けながら、教師の助手的立場として側面から保育に参加し、幼児の活動や幼稚園教諭の役割を体験的に理解する。 ①指導教師の指示にしたがい、園生活や活動を展開していく上で必要な援助について補佐を行いながら学ぶ。			
②幼児と生活や遊びをともにしながら幼児理解を深め、指導教師の考えに基づき一人ひとりの幼児への必要な援助を考えながらかかわっていく。 ③自ら指導教師の指示を受け、清掃や環境整備、遊具や教材等の準備、事務処理、バスの添乗など保育以外の園務を行う。			
3. 指導実習 指導実習は、観察・参加実習での学習を踏まえ、助手的立場ではなく保育中の一定時間を教師として責任をもって担当する。保育の計画立案から準備、実践のすべてを体験的に学ぶ。 ①実習園の保育方針や教育課程、指導計画に即した実習案を作成する。 ②実習案の計画に基づいて保育の事前準備を行う。 ③実習案の計画に基づいて保育実践を行う。 ④自らの保育実践について反省、評価するとともに、指導教師及び参観者の評価、助言を受け、保育実践への学びを深める。 *指導実習は、最初の段階では一日の中の部分的な時間を担当し（部分実習）、最終段階では一日の保育を担当する（1日実習及び責任実習）。 なお、各期の実習中には、教員による巡回指導が実施され、実習園の実習指導担当者との連携のもとに、実習生へのスーパービジョンが行われる。			
実習の記録 実習期間を通じて、毎日実習日誌をつける。その日の保育や実習体験を記録し、実習での学びや反省をまとめる。			
単位認定の方法及び基準 実習園からの評価表をもとに評価を行う。			
学生へのメッセージ 幼稚園教諭となるためには、しっかりとした保育理論、また保育に必要な様々な技術を身につけなくてはならない。学校の授業では、こうした保育理論及び保育技術を学習するが、ただ理論と技術を習得するだけでは十分といえない。実際の幼稚園における保育を観察し、自らが体験することを通して、幼稚園教育の深い理解を得ることができ、また保育実践力を養うことができる。実習はまさにこうした実践的学習のできる貴重な場であることを認識して欲しい。そして、その実践的学習は保育理論や保育技術の基礎学習の上に成り立つことを理解し、学校での学習をしっかり行うことが前提となる。また、保育理論や保育技術の習得だけでなく、日常の基本的な生活態度や社会人としての常識についても問われるものである。教育の現場に立つという自覚をしっかりともち、幼稚園教諭を目指すものとして品位ある態度と行動を常に心がけて欲しい。			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 幼稚園教諭に必要な現場理解と保育実践力を身につけるため、幼稚園において、実習指導者の指導の下、指導案を立案し、教育を行う。			

科目名 保育実習Ⅱ（保育所）		担当教員 山梨有子・他	
2年次	2単位	選択必修	実習
授業のテーマ及び到達目標 保育所保育についての理解を深化させ、保育者としての資質向上をめざす			
授業のねらい・概要 保育所実習Ⅰ期で習得したことを踏まえ、保育士として必要な資質・能力・技術を向上させる。また、社会における保育所の実態にふれて、家庭や地域との関係や子育て支援などの理解を深める。			
実習期間 保育所実習Ⅱ期は、2年次8月下旬から9月上旬に90時間以上の実習を行う。			
授業の内容・進め方 保育所実習Ⅱ期では、参加実習、責任実習を行う。その段階においては、実習園の状況によって実施される。実習中には巡回指導を実施し、実習施設の実習担当者との連携のもとに、実習へのスーパービジョンを行う。 1. 保育全般に参加し、保育技術を習得する。 2. 子どもと丁寧にかかわり、一人ひとりの適切な関わりかたを学ぶ。 3. 生活環境を含め子どもの発達過程を理解する。 4. 家庭とのコミュニケーションの方法を具体的に習得し、家庭との連携について理解する。 5. 地域社会との連携について具体的に学ぶ。 6. 子どもの最善の利益の配慮を学ぶ。 7. 保育所保育士としての保育観を構築する。 8. 保育所の社会的役割を理解する。 9. 保育士としての職業倫理を理解する。 10. 保育所保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて、自己の課題を明確化する。			
実習の記録 実習期間を通して、毎日実習日誌を作成する。考察反省の記録のほか、指導計画案や部分及び責任実習実施の反省も記録し、指導者に提出する。			
単位認定の方法及び基準 実習態度、実習における保育の理解や記録、責任実習、事前事後学習を総合的に評価する。実習態度、実習における保育の理解、記録、責任実習80%、事前事後学習20%とする。			
学生へのメッセージ 保育所実習Ⅱ期では、Ⅰ期で明確となった自身の課題を踏まえて、保育士となるための更なる向上をめざし、部分・責任実習などから保育の知識や技術を学んでいく。 また、子どもや保育士の言動の意味を的確に捉えながら学生自身も積極的に関わり、子ども理解や保育者の役割についての学びを深めてほしい。 保育所実習の総括として悔いのないように、実習前には十分な準備をして臨むこと。そして、社会人としての意識を高く持ち、責任ある行動をとり、積極的に取り組んでほしい。			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育士に必要な能力を身につけるために、実習指導者の指導の下、保育実習Ⅰの課題を明確にした上で、保育所において保育実践を行う。			

科目名 保育実習指導Ⅱ			担当教員 山梨有子	
2年次	前期	1単位	選択必修	演習
授業のテーマ及び到達目標 保育実習Ⅰを踏まえ、保育者になるための実践力を習得する。				
授業のねらい・概要 1年次の保育実習指導Ⅰに引き続き、保育所実習Ⅱ期のための事前事後学習である。 保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深化させ、実習体験の共有化を通して福祉職の体系化を推し進め、将来につながる実践力を養うことをねらいとする。				
授業の内容・進め方 1. オリエンテーション 2. 保育所実習Ⅰ期① 3. 保育所実習Ⅰ期② 4. 保育計画の理解①指導案の理解 5. 保育計画の理解②指導案の作成 6. 保育実践力の習得①指導案の実践1 7. 保育実践力の習得①指導案の実践2 8. 保育実践力の習得①指導案の実践3 9. 保育の観察、記録、自己評価の省察①観察の読み取りと記録の仕方 10. 保育の観察、記録、自己評価の省察②記録による子ども理解 11. 保育の観察、記録、自己評価の省察③記録による保育者の役割理解 12. 子どもの保育と保護者支援 13. 保育士の専門性と職業倫理について 14. 実習の総括と自己課題の明確化① 15. 実習の総括と自己課題の明確化②				
単位認定の方法及び基準 授業への参加態度と理解、課題レポートを総合的に評価する。授業への参加態度と理解50%、課題レポート50%とする。				
学生へのメッセージ 社会の変化とともに、子どもを取り巻く環境も変化し、多様化している。このような社会における様々な状況の子どもたちと関わりながら理解していくとともに、そこでの保育者の役割を学んでほしい。 また、保育所実習を通して自分の保育観を確立させ、それに対する自己課題を明確化していくことを望む。				
テキスト 松本峰雄編『教育・保育・施設実習の手引』建帛社 佐藤暁子『基本の遊びと広げ方』ひかりのくに 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館			参考図書 適宜授業の中で紹介する	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 保育実践の経験がある教員がその経験を活かし、保育実習Ⅰにおける課題を明確化した上で、保育実習Ⅱにおける責任実習の実際について指導する。				

介護福祉専攻科

科目名 社会の理解 I			担当教員 高橋真理子	
1 年次	前期	1 単位	必修	講義
授業の目的・ねらい 保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。				
授業全体の内容の概要 「生活と福祉」をサブタイトルとし、個人と家庭、及びそれを取り巻く地域、社会との関係を知り、自身の生活を含めた人間関係について考える。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 個人の生活と家族、社会との関係を理解し、人間の生活を広い視点でとらえる。				
授業の内容・進め方 1. 生活と福祉 (1) 生活の概念 2. 生活と福祉 (2) 家族構造の変容 3. 生活と福祉 (3) ライフサイクルの変化 4. 生活と福祉 (4) 労働と雇用の変化 5. 生活と福祉 (5) 生活時間の变化 6. 生活と福祉 (6) 家庭の経済生活 7. 生活と福祉 (7) 消費者問題 8. 生活と福祉 (8) 自助、互助、共助、公助				
単位認定の方法及び基準 期末試験及び授業への取り組み状況による総合評価。評価の比率は、期末試験 90%、授業態度 10%とする。				
学生へのメッセージ 生活・家族・地域さらに社会がどのように関連をもっているのかを学ぶ授業です。自分の生活と関連づけて考えて欲しいと思います。				
テキスト ・介護福祉士養成講座編集委員会編 『最新介護福祉士養成講座 2 社会の理解』 『最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I』 中央法規出版			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 介護現場・精神保健福祉センターでの勤務経験を有する教員が、その経験を活かし、個人の生活と家族、社会との関係について指導を行う。				

科目名 社会の理解Ⅱ			担当教員 伏見幸子	
1 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業の目的・ねらい 保育士養成課程で学んだ社会福祉・保障制度の基礎的理解を踏まえて、近年の社会保障制度の動向を、特に介護福祉士に関わる介護保険法や障害者総合支援法、成年後見制度等の学習を通じて理解する。				
授業全体の内容の概要 「福祉と社会保障制度」をサブタイトルとし、視聴覚教材、新聞記事等の活用により、社会保障に関する諸制度について理解する。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 最終目標は国家試験合格であるから、合格レベルに達する程度の理解は必要である。				
授業の内容・進め方 1. 社会保障制度(1)社会保障の理念と役割 2. 社会保障制度(2)社会保障制度の歴史の変遷 3. 社会保障制度(3)社会保障制度の財源 4. 介護保険制度(1)介護保険制度の目的と理念 5. 介護保険制度(2)介護保険制度のしくみ 6. 介護保険制度(3)介護保険制度の財源 7. 介護保険制度(4)介護保険サービスの種類と内容 8. 障害者福祉の諸制度(1)障害者福祉の法制度とその理念 9. 障害者福祉の諸制度(2)障害者福祉の歴史 10. 障害者自立支援制度(1)障害者自立支援制度の仕組みその 1 11. 障害者自立支援制度(2)障害者自立支援制度の仕組みその 2 12. 介護実践に関する諸制度(1)成年後見制度 13. 介護実践に関する諸制度(2)個人情報保護制度 14. 介護実践に関する諸制度(3)生活保護法 15. 介護実践に関する諸制度(4)地域包括支援制度、介護関連の専門職				
単位認定の方法及び基準 授業中に最低 2 回の筆記試験結果が 90%、授業態度や出席状況 10% による総合評価。				
学生へのメッセージ 法律・制度は学生にとっては難解であるから、予習、復習を習慣化しよう。				
テキスト ・『最新介護福祉士養成講座 2 社会の理解』中央法規出版 ・『福祉小六法（2021 年版）』みらい			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 福祉事務所にて婦人・母子相談員として勤務した経験がある教員が、その経験を活かし、授業を行う。				

科目名 介護の基本 I			担当教員 小方則子	
1 年次	通年	4 単位	必修	講義
授業の目的・ねらい 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。				
授業全体の内容の概要 「介護に関わる専門職」をサブタイトルとして、介護とは何か、援助者として問われる事柄・姿勢を検証し考察を深める。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 介護福祉専門職として介護に携わるうえで必要とされる職業倫理を踏まえ、基本姿勢を身に付ける。				
授業の内容・進め方				
1. 介護福祉士を取りまく状況 (1) 介護の歴史 2. 介護福祉士を取りまく状況 (2) 介護とは何か 3. 介護従事者の倫理 (1) 職業倫理と介護の原則 4. 介護従事者の倫理 (2) 利用者の人権と介護① 5. 介護従事者の倫理 (3) 利用者の人権と介護② 6. 介護従事者の倫理 (4) プライバシーの保護 7. 介護を必要とする人の理解 (1) 介護における援助関係 8. 介護を必要とする人の理解 (2) 生活とは何か 9. 介護技法の視点 (1) 食事 10. 介護技法の視点 (2) 排泄 11. 介護技法の視点 (3) 睡眠と休息 12. 介護技法の視点 (4) 身体の清潔 13. 介護技法の視点 (5) 運動と移動 14. 介護技法の視点 (6) 衣類、身だしなみ 15. 介護技法の視点 (7) 居住環境の整備 16. 介護実践における連携 (1) チームアプローチ：チームワークの必要性 17. 介護実践における連携 (2) チームアプローチ：他職種との連携のあり方 18. 介護実践における連携 (3) チームアプローチ：記録と情報の共有化 19. 介護実践における連携 (4) チームアプローチ：緊急時の対応 20. 介護実践における連携 (5) チームアプローチ：地域連携の意義と目的 21. 介護実践における連携 (6) チームアプローチ：地域住民や組織との連携 22. 介護における安全の確保とリスクマネジメント (1) 介護における安全の確保 23. 介護における安全の確保とリスクマネジメント (2) 事故防止、安全対策 24. 介護における安全の確保とリスクマネジメント (3) 利用者の生活の安全 25. 介護における安全の確保とリスクマネジメント (4) 感染対策 26. 介護従事者の安全 27. さまざまな場における介護活動：在宅 28. さまざまな場における介護活動：施設 29. 自己の介護観の構築 30. 求められる介護福祉士とは				
単位認定の方法及び基準 筆記試験及び出席状況による総合評価。定期試験 80%、小テスト 10%、授業態度 10%とする。				
学生へのメッセージ 介護に関わる専門職として学んだことを身につけ、実習で実践してほしい。授業の初回に授業にのぞむ心構えなどを含め、オリエンテーションを行います。必ず出席して下さい。				
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編『最新介護福祉士養成講座 3・4 介護の基本 I・II』中央法規出版			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 介護福祉士として特別養護老人ホームでの指導員経験がある教員が、その経験を活かし、基本的な介護の知識について授業を行う。				

科目名 介護の基本Ⅱ			担当教員 高橋真理子	
1年次	通年	4単位	必修	講義
授業の目的・ねらい 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。				
授業全体の内容の概要 「介護サービスと実際」をサブタイトルとし、戦後の福祉施策から今日までの福祉サービスを概説したうえで、現在のケアマネジメント、ケアプランの実際を学ぶ。				
授業修了時の達成課題（到達目標） ケアマネジメント、ケアプランの流れとしくみを理解し、介護過程との関係を知る。				
授業の内容・進め方				
1. 介護福祉士を取り巻く状況 (1) 介護問題の背景 2. 介護福祉士を取り巻く状況 (2) 介護ニーズの変化 3. 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ (1) 社会福祉士及び介護福祉士法 4. 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ (2) 専門職能団体 5. 老人福祉制度の概要 6. 老人福祉サービスの発展 7. 老人福祉サービスの関係推進機関 8. 老人福祉サービスの財政システム、1～8までのまとめ試験 9. 老人福祉サービスの体系 10. 在宅福祉サービスの内容 11. 施設福祉サービスの内容 12. 民間シルバーサービスの現状と展望 13. 尊厳を支える介護 (1) QOL の考え方 14. 尊厳を支える介護 (2) ノーマライゼーションの考え方 15. 尊厳を支える介護 (3) 利用者主体の考え方、9～15までのまとめ試験 16. 介護サービス (1) ケアマネジメントとは 17. 介護サービス (2) 生活課題と ICF 視点 18. 介護サービス (3) 生活プランとケアプラン 19. 介護サービス (4) ケアプランの種類と内容：居宅 20. 介護サービス (5) ケアプランの種類と内容：施設 21. 介護サービス (6) ケアプランの種類と内容：介護予防 22. 介護サービス (7) 各種ケアプランの実際、16～22までのまとめ試験 23. 介護サービス (8) ケアプランの作成手順① 24. 介護サービス (8) ケアプランの作成手順② 25. 介護サービス (9) サービス提供の実際① 26. 介護サービス (9) サービス提供の実際② 27. 介護サービス (9) サービス提供の実際③ 28. 介護保険のサービスの種類 29. サービスの報酬、算定基準 30. 介護従事者の安全：労働安全、23～30までのまとめ試験				
単位認定の方法及び基準 筆記試験・レポート 90% 及び出席状況 10% による総合評価。				
学生へのメッセージ 介護福祉の基本的なベースとなる科目です。演習やロールプレイなどもとりいれ参加型の授業としますので積極的に参加して下さい。				
テキスト ・介護福祉士養成講座編集委員会編 『最新介護福祉士養成講座 3・4 介護の基本Ⅰ・Ⅱ』 中央法規出版 ・介護福祉士国試ナビ 2022			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 介護現場・精神保健福祉センターでの勤務経験を有する教員が、その経験を活かし、今日までの福祉サービスについて授業を行う。				

科目名 介護の基本Ⅲ			担当教員 森倉麗子	
1 年次	後期	2 単位	必修	講義
授業の目的・ねらい 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。				
授業全体の内容の概要 「リハビリテーション・介護予防」をサブタイトルとし、介護専門職としてのリハビリテーションを理解する。座学だけでなく、グループワークを行なう。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 利用者の生活そのものに関わる専門職種である介護福祉士として、リハビリテーションの意味や関わりを理解し、介護に活用できるようにする。				
授業の内容・進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションとは理念と基本原則 2. 自立に向けた介護（1）「普通の生活」とは 3. 自立に向けた介護（2）生活の見方 ICF ADL QOL 4. 福祉用具 5. 車椅子 特殊寝台 6. 住環境の整備 7. リハビリテーション介護 8. リハビリテーション介護技術 コミュニケーション 9. 利用者とのコミュニケーション検討 10. リハビリテーション介護技術 動きとは 11. 障害別リハビリテーション① 12. 障害別リハビリテーション② 13. 障害別リハビリテーション③ 14. リハビリテーション介護における対応検討 15. ターミナルにおけるリハビリテーション 				
単位認定の方法及び基準 授業態度（5%）、レポート（5%）、定期試験（90%）による総合評価。				
学生へのメッセージ 受け身でなく、積極的に考える姿勢を期待する。リハビリテーションの理念を持った介護について考えを深めてほしい。				
テキスト 長谷川幹『リハビリ生きる力を引き出す』岩波新書			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 作業療法士として身体障害分野、高齢者施設での経験がある教員が、その経験を活かし、リハビリテーションの理念、内容、実態について講義し、リハビリテーション介護の重要性について理解できるよう指導を行う。				

科目名 介護の基本Ⅳ			担当教員 市原浩美	
1年次	後期	2単位	必修	講義
授業の目的・ねらい 「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。				
授業全体の内容の概要 「人、くらしの理解」をサブタイトルとし、介護を必要とする人の生活を様々な角度からとらえる。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 高齢者や障害者の現在及びこれまでの生活を理解し、その人らしさを大切にしたい介護実践ができるようにする。				
授業の内容・進め方 1. 生活とくらし 2. くらしを形作るもの 3. 介護を必要とする人の理解 (1) その人らしさの理解 4. 介護を必要とする人の理解 (2) 食生活の変遷 5. 介護を必要とする人の理解 (3) 衣生活の変遷 6. 介護を必要とする人の理解 (4) 住生活の変遷 7. 介護を必要とする人の理解 (5) 生活様式の変化 8. 介護を必要とする人の理解 (6) 高齢者のくらしの実際：生活リズム 9. 介護を必要とする人の理解 (7) 高齢者のくらしの実際：家族形態 10. 介護を必要とする人の理解 (8) 高齢者のくらしの実際：就労・雇用 11. 介護を必要とする人の理解 (9) 高齢者のくらしの実際：収入・生計 12. 介護を必要とする人の理解 (10) 障害のある人のくらし：事例① 13. 介護を必要とする人の理解 (11) 障害のある人のくらし：事例② 14. 介護を必要とする人の理解 (12) 生活環境の理解：生活環境の考え方 15. 介護を必要とする人の理解 (13) 生活環境の理解：家族・地域・社会				
単位認定の方法及び基準 筆記試験、課題提出、発表、授業態度、出席状況による総合評価。評価の比率は、筆記試験 30%、課題提出 25%、発表 25%、授業態度 10%、出席状況 10%の割合とする。				
学生へのメッセージ 人、くらしの理解についての学びを深めましょう。				
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編『新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ』中央法規出版			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 介護・医療現場での勤務経験を有する教員が、その経験を活かし、授業を行う。				

科目名 コミュニケーション技術 I			担当教員 市原浩美			
1 年次	前期	1 単位	必修	演習		
授業の目的・ねらい 介護を必要とする者の理解や援助関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。						
授業全体の内容の概要 ロールプレイ、オリジナルのシナリオ事例演習を通して、主として施設場면을想定したコミュニケーションについて学ぶ。						
授業修了時の達成課題（到達目標） 施設における利用者、家族とのコミュニケーション、及びチームのコミュニケーションについて理解する。						
授業の内容・進め方 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 1. 介護におけるコミュニケーションの基本 (1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 2. 介護におけるコミュニケーションの基本 (2) 施設利用者・家族との関係づくり 3. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (1) 話を聴く技法 4. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (2) 気づき、洞察 5. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (3) 相談、助言、指導 6. 施設利用者とのコミュニケーションの実際① 7. 施設利用者とのコミュニケーションの実際② 8. 施設利用者とのコミュニケーションの実際③ 9. 施設利用者の家族とのコミュニケーションの実際 10. 介護におけるチームのコミュニケーション (1) 記録の意義、目的、種類 11. 介護におけるチームのコミュニケーション (2) 記録の方法、留意点 </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 12. 介護におけるチームのコミュニケーション (3) 介護記録の共有化と活用 13. 介護におけるチームのコミュニケーション (4) 報告・連絡・相談の方法 14. 介護におけるチームのコミュニケーション (5) 会議の意義、目的、種類 15. 介護におけるチームのコミュニケーション (6) 会議の方法、留意点 </td> </tr> </table>					1. 介護におけるコミュニケーションの基本 (1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 2. 介護におけるコミュニケーションの基本 (2) 施設利用者・家族との関係づくり 3. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (1) 話を聴く技法 4. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (2) 気づき、洞察 5. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (3) 相談、助言、指導 6. 施設利用者とのコミュニケーションの実際① 7. 施設利用者とのコミュニケーションの実際② 8. 施設利用者とのコミュニケーションの実際③ 9. 施設利用者の家族とのコミュニケーションの実際 10. 介護におけるチームのコミュニケーション (1) 記録の意義、目的、種類 11. 介護におけるチームのコミュニケーション (2) 記録の方法、留意点	12. 介護におけるチームのコミュニケーション (3) 介護記録の共有化と活用 13. 介護におけるチームのコミュニケーション (4) 報告・連絡・相談の方法 14. 介護におけるチームのコミュニケーション (5) 会議の意義、目的、種類 15. 介護におけるチームのコミュニケーション (6) 会議の方法、留意点
1. 介護におけるコミュニケーションの基本 (1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 2. 介護におけるコミュニケーションの基本 (2) 施設利用者・家族との関係づくり 3. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (1) 話を聴く技法 4. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (2) 気づき、洞察 5. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (3) 相談、助言、指導 6. 施設利用者とのコミュニケーションの実際① 7. 施設利用者とのコミュニケーションの実際② 8. 施設利用者とのコミュニケーションの実際③ 9. 施設利用者の家族とのコミュニケーションの実際 10. 介護におけるチームのコミュニケーション (1) 記録の意義、目的、種類 11. 介護におけるチームのコミュニケーション (2) 記録の方法、留意点	12. 介護におけるチームのコミュニケーション (3) 介護記録の共有化と活用 13. 介護におけるチームのコミュニケーション (4) 報告・連絡・相談の方法 14. 介護におけるチームのコミュニケーション (5) 会議の意義、目的、種類 15. 介護におけるチームのコミュニケーション (6) 会議の方法、留意点					
単位認定の方法及び基準 筆記試験及び出席状況による総合評価。評価の比率は、授業中の課題提出や授業態度 40%、期末テスト 60%とする。						
学生へのメッセージ						
テキスト 『最新介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術』中央法規出版 上記以外にも必要に応じた DVD 教材及び資料を配付する。			参考図書			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 介護・医療現場での勤務経験を有する教員が施設における利用者、家族およびチームのコミュニケーションについて指導する。						

科目名 コミュニケーション技術Ⅱ			担当教員 市原浩美			
1年次	後期	1単位	必修	演習		
授業の目的・ねらい 介護を必要とする者の理解や援助関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。						
授業全体の内容の概要 ロールプレイ、オリジナルのシナリオ事例演習を通して、主として在宅場面を想定したコミュニケーションについて学ぶ。						
授業修了時の達成課題（到達目標） 在宅における利用者、家族とのコミュニケーション及び利用者の状態に応じたコミュニケーションについて理解する。						
授業の内容・進め方						
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 介護におけるコミュニケーションの基本 (1) 在宅利用者・家族との関係づくり 2. 介護におけるコミュニケーションの基本 (2) コミュニケーションの基本ポイント 3. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (1) 利用者の状態に応じたコミュニケーション：聴覚障害者 4. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (2) 利用者の状態に応じたコミュニケーション：視覚障害者 5. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (3) 利用者の状態に応じたコミュニケーション：言語障害者 6. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (4) 利用者の状態に応じたコミュニケーション：認知症 7. 在宅利用者とのコミュニケーションの実際① 8. 在宅利用者とのコミュニケーションの実際② 9. 在宅利用者とのコミュニケーションの実際③ 10. 在宅利用者とのコミュニケーションの実際④ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 11. 在宅利用者の家族とのコミュニケーションの実際① 12. 在宅利用者の家族とのコミュニケーションの実際② 13. 介護におけるチームのコミュニケーション (1) 連絡ノート 14. 介護におけるチームのコミュニケーション (2) 介護記録における個人情報保護 15. 介護におけるチームのコミュニケーション (3) 報告、連絡、相談 </td> </tr> </table>					1. 介護におけるコミュニケーションの基本 (1) 在宅利用者・家族との関係づくり 2. 介護におけるコミュニケーションの基本 (2) コミュニケーションの基本ポイント 3. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (1) 利用者の状態に応じたコミュニケーション：聴覚障害者 4. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (2) 利用者の状態に応じたコミュニケーション：視覚障害者 5. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (3) 利用者の状態に応じたコミュニケーション：言語障害者 6. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (4) 利用者の状態に応じたコミュニケーション：認知症 7. 在宅利用者とのコミュニケーションの実際① 8. 在宅利用者とのコミュニケーションの実際② 9. 在宅利用者とのコミュニケーションの実際③ 10. 在宅利用者とのコミュニケーションの実際④	11. 在宅利用者の家族とのコミュニケーションの実際① 12. 在宅利用者の家族とのコミュニケーションの実際② 13. 介護におけるチームのコミュニケーション (1) 連絡ノート 14. 介護におけるチームのコミュニケーション (2) 介護記録における個人情報保護 15. 介護におけるチームのコミュニケーション (3) 報告、連絡、相談
1. 介護におけるコミュニケーションの基本 (1) 在宅利用者・家族との関係づくり 2. 介護におけるコミュニケーションの基本 (2) コミュニケーションの基本ポイント 3. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (1) 利用者の状態に応じたコミュニケーション：聴覚障害者 4. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (2) 利用者の状態に応じたコミュニケーション：視覚障害者 5. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (3) 利用者の状態に応じたコミュニケーション：言語障害者 6. 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (4) 利用者の状態に応じたコミュニケーション：認知症 7. 在宅利用者とのコミュニケーションの実際① 8. 在宅利用者とのコミュニケーションの実際② 9. 在宅利用者とのコミュニケーションの実際③ 10. 在宅利用者とのコミュニケーションの実際④	11. 在宅利用者の家族とのコミュニケーションの実際① 12. 在宅利用者の家族とのコミュニケーションの実際② 13. 介護におけるチームのコミュニケーション (1) 連絡ノート 14. 介護におけるチームのコミュニケーション (2) 介護記録における個人情報保護 15. 介護におけるチームのコミュニケーション (3) 報告、連絡、相談					
単位認定の方法及び基準 筆記試験及び出席状況による総合評価。評価の比率は、授業中の課題や授業態度 40%、試験 60%とする。						
学生へのメッセージ グループディスカッション、ロールプレイを中心に進めるので時間厳守で積極的に参加すること。						
テキスト 『最新介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術』 上記以外にも必要に応じたDVD教材の活用及び適宜資料を配付する。			参考図書			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 介護・医療現場での勤務経験を有する教員が在宅における利用者に応じたコミュニケーションおよび家族とのコミュニケーションについて指導する。						

科目名 生活支援技術 I			担当教員 中川早紀	
1 年次	前期	1 単位	必修	演習
授業の目的・ねらい 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出した り、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。				
授業全体の内容の概要 「生活支援、居住環境」をサブタイトルとして、生活のとらえ方を解説し、住生活に関する生活様式と支援 について学ぶ。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 生活支援の考え方を理解し、安心・快適な居住環境について考えられる。				
授業の内容・進め方 1. 生活支援 (1) 生活とは 2. (2) 生活形成のプロセス 3. (3) 生活支援の考え方 4. (4) 生活支援の必要な人の理解 5. (5) ICF の視点と生活支援 6. (6) チームアプローチ 7. 自立に向けた居住環境の整備 (1) 福祉用具の種類と機能 8. (2) 福祉用具を活用する視点 9. (3) 住宅改修 10. (4) 居住環境整備の意義と目的 11. (5) 高齢者・障害者の住まいの変遷 12. (6) 居住環境のアセスメント 13. (7) 安全で快適な生活の場づくり 14. (8) 高齢者等に配慮した住宅各所の空間構成 15. (9) 施設等での工夫・留意点				
単位認定の方法及び基準 筆記試験 50%、提出物 30%、出席状況・授業態度 20%による総合評価。				
学生へのメッセージ 高齢者・障害者の住まいの多様性を理解し、生活環境の整え方を考え、実践につなげましょう。				
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編 『最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術 I』 中央法規出版			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 特別養護老人ホームの介護職員・生活相談員・介護支援専門員として勤務経験を有する教員が、生活の捉え 方を解説し、住環境に関する生活様式と支援について指導する。				

科目名 生活支援技術Ⅱ			担当教員 高橋真理子			
1年次	通年	2単位	必修	演習		
授業の目的・ねらい 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。						
授業全体の内容の概要 「食事、身じたく、家事」をサブタイトルとし、食生活、衣生活、家事に関する支援について、実習や事例を通して学ぶ。						
授業修了時の達成課題（到達目標） 食生活、衣生活の支援の考え方を理解し、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出す視点をもって家事支援が考えられる。						
授業の内容・進め方						
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 自立に向けた食事の介護 (1) 食事の意義と目的 2. (2) 食事に関する利用者のアセスメント 3. (3) 「おいしく食べること」を支える介護 4. (4) 食事の環境づくり 5. 調理①基本の調理：和食 6. 食事の作法 7. 献立の立て方と栄養 8. 高齢者の機能低下と調理 9. 調理②嚥下、咀嚼機能が低下した人の食事 10. 疾病に対応した食事 11. 調理③塩分を控えた食事 12. 調理④行事食 13. 高齢者の食事：献立作成 14. 高齢者の食事：栄養計算 15. 調理⑤高齢者の食事 16. 自立に向けた身じたくの介護 (1) 身じたくの意義と目的 </td> <td style="vertical-align: top;"> 17. (2) 身じたくに関する利用者のアセスメント 18. (3) 生活習慣と装いの楽しみを支える介護 19. 衣服の素材 20. 衣服の表示と取り扱い 21. レクリエーション活動としての小物づくり 22. 自立に向けた家事の介護 (1) 家事援助の意味と基本原則 23. (2) 家事に関する利用者のアセスメント 24. (3) 家事に参加することを支える介護 25. (4) 家事の介助の技法：調理・食品衛生 26. (5) 家事の介助の技法：洗濯・漂白・しみ抜き 27. (6) 家事の介助の技法：アイロン掛け 28. (7) 家事の介助の技法：裁縫 29. (8) 家事の介助の技法：掃除・ごみ捨て 30. (9) 家事の介助の技法：買い物・家計管理 </td> </tr> </table>					1. 自立に向けた食事の介護 (1) 食事の意義と目的 2. (2) 食事に関する利用者のアセスメント 3. (3) 「おいしく食べること」を支える介護 4. (4) 食事の環境づくり 5. 調理①基本の調理：和食 6. 食事の作法 7. 献立の立て方と栄養 8. 高齢者の機能低下と調理 9. 調理②嚥下、咀嚼機能が低下した人の食事 10. 疾病に対応した食事 11. 調理③塩分を控えた食事 12. 調理④行事食 13. 高齢者の食事：献立作成 14. 高齢者の食事：栄養計算 15. 調理⑤高齢者の食事 16. 自立に向けた身じたくの介護 (1) 身じたくの意義と目的	17. (2) 身じたくに関する利用者のアセスメント 18. (3) 生活習慣と装いの楽しみを支える介護 19. 衣服の素材 20. 衣服の表示と取り扱い 21. レクリエーション活動としての小物づくり 22. 自立に向けた家事の介護 (1) 家事援助の意味と基本原則 23. (2) 家事に関する利用者のアセスメント 24. (3) 家事に参加することを支える介護 25. (4) 家事の介助の技法：調理・食品衛生 26. (5) 家事の介助の技法：洗濯・漂白・しみ抜き 27. (6) 家事の介助の技法：アイロン掛け 28. (7) 家事の介助の技法：裁縫 29. (8) 家事の介助の技法：掃除・ごみ捨て 30. (9) 家事の介助の技法：買い物・家計管理
1. 自立に向けた食事の介護 (1) 食事の意義と目的 2. (2) 食事に関する利用者のアセスメント 3. (3) 「おいしく食べること」を支える介護 4. (4) 食事の環境づくり 5. 調理①基本の調理：和食 6. 食事の作法 7. 献立の立て方と栄養 8. 高齢者の機能低下と調理 9. 調理②嚥下、咀嚼機能が低下した人の食事 10. 疾病に対応した食事 11. 調理③塩分を控えた食事 12. 調理④行事食 13. 高齢者の食事：献立作成 14. 高齢者の食事：栄養計算 15. 調理⑤高齢者の食事 16. 自立に向けた身じたくの介護 (1) 身じたくの意義と目的	17. (2) 身じたくに関する利用者のアセスメント 18. (3) 生活習慣と装いの楽しみを支える介護 19. 衣服の素材 20. 衣服の表示と取り扱い 21. レクリエーション活動としての小物づくり 22. 自立に向けた家事の介護 (1) 家事援助の意味と基本原則 23. (2) 家事に関する利用者のアセスメント 24. (3) 家事に参加することを支える介護 25. (4) 家事の介助の技法：調理・食品衛生 26. (5) 家事の介助の技法：洗濯・漂白・しみ抜き 27. (6) 家事の介助の技法：アイロン掛け 28. (7) 家事の介助の技法：裁縫 29. (8) 家事の介助の技法：掃除・ごみ捨て 30. (9) 家事の介助の技法：買い物・家計管理					
単位認定の方法及び基準 期末試験及び授業への取り組み状況による総合評価。評価の比率は、期末試験 70%、課題提出・授業態度 30%とする。						
学生へのメッセージ 調理、掃除、洗濯等、自分自身の家事的自立を意識して、日常生活の中でも積極的に家事に取り組んでください。支援の前提となる生活技術と科学的なものの見方を身につける授業にしたいと思っています。 自分用の裁縫用具を準備しておいてください。						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編 『最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』 中央法規出版			参考図書			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 訪問介護事業所・グループホームで勤務した経験のある教員が、利用者の自立・自律の観点から家事に関する支援について授業を行う。						

科目名 生活支援技術Ⅲ			担当教員 中川早紀・萩元裕	
1 年次	通年	4 単位	必修	演習
授業の目的・ねらい 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。				
授業全体の内容の概要 「介護の基本技術」をサブタイトルとし、演習を通じて、あらゆる介護場面における基礎的な介護の知識・技術を学ぶ。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 利用者の各生活場面における基礎的な介護技術の考え方と方法を理解し、実施できる。				
授業の内容・進め方				
1. 生活支援技術の視点 2. 自立に向けた移動の介護 (1) 移動の意義と目的 3. 自立に向けた移動の介護 (2) 移動に関する利用者のアセスメント 4. 自立に向けた移動の介護 (3) 安全で気兼ねなく動くことを支える介護 5. 自立に向けた移動の介護 (4) 安全で的確な移動・移乗の介助の技法①歩行の介助 6. 自立に向けた移動の介護 (5) 安全で的確な移動・移乗の介護の技法②車いすの介助 7. 自立に向けた移動の介護 (6) 安全で的確な移動・移乗の介護の技法③安楽な体位の保持 8. 自立に向けた移動の介護 (7) 安全で的確な移動・移乗の介護の技法④体位変換 9. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (1) 入浴の意義と目的 10. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (2) 入浴に関する利用者のアセスメント 11. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (3) 爽快感・安楽を支える介護 12. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (4) 安全で的確な移動・移乗の介助の技法①入浴 13. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (5) 安全で的確な移動・移乗の介助の技法②シャワー浴 14. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (6) 安全で的確な移動・移乗の介助の技法③全身清拭 15. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (7) 安全で的確な移動・移乗の介助の技法④陰部洗浄 16. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (8) 安全で的確な移動・移乗の介助の技法⑤足浴・手浴 17. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (9) 安全で的確な移動・移乗の介助の技法⑥洗髪 18. 自立に向けた排泄の介護 (1) 排泄の意義と目的 19. 自立に向けた排泄の介護 (2) 排泄に関する利用者のアセスメント 20. 自立に向けた排泄の介護 (3) 気持ちよい排泄を支える介護 21. 自立に向けた排泄の介護 (4) 安全で的確な排泄の介助の技法①トイレ 22. 自立に向けた排泄の介護 (5) 安全で的確な排泄の介助の技法②ポータブルトイレ 23. 自立に向けた排泄の介護 (6) 安全で的確な排泄の介助の技法③採尿器・差し込み便器 24. 自立に向けた排泄の介護 (7) 安全で的確な排泄の介助の技法④おむつ 25. 自立に向けた身じたくの介護 (1) 整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の方法①整容（洗面、整髪、ひげの手入れ） 26. 自立に向けた身じたくの介護 (2) 整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の方法②整容（爪、化粧） 27. 自立に向けた身じたくの介護 (3) 整容行動を調整する能力のアセスメントと介助の方法③口腔の清潔 28. 自立に向けた身じたくの介護 (4) 衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の方法①衣服着脱 29. 自立に向けた食事の介護 (1) 安全で的確な食事介助の技法①食前・食後の介護 30. 自立に向けた食事の介護 (2) 安全で的確な食事介助の技法②摂食時の介護 31. 自立に向けた食事の介護 (3) 自助具の工夫 32. 自立に向けた睡眠の介護 (1) 睡眠の意義と目的 33. 自立に向けた睡眠の介護 (2) 睡眠に関する利用者のアセスメント 34. 自立に向けた睡眠の介護 (3) 安眠のための介護 35. 自立に向けた睡眠の介護 (4) 安眠を促す介助の技法①入眠前の援助 36. 自立に向けた睡眠の介護 (5) 安眠を促す介助の技法②ベッドメイキング 37. 外出の介護 (1) 外出介護の意義 38. 外出の介護 (2) 外出介護の方法 39. アクティビティの介護 (1) アクティビティの意義 40. アクティビティの介護 (2) アクティビティ援助の方法① 41. アクティビティの介護 (3) アクティビティ援助の方法② 42. 福祉用具の意義 43. その他の福祉用具 44. 福祉用具の選択、活用、管理に関する援助 45. 実技試験				
単位認定の方法及び基準 実技試験・筆記試験 70%、課題提出 10%、出席状況・服装・授業中の態度 20%による総合評価。				
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編 『最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』中央法規出版 『最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』中央法規出版			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 介護現場における介護職経験のある教員が、その経験を活かし、基礎的な生活支援技術の指導を行う。				

科目名 生活支援技術Ⅳ			担当教員 小林久美子	
1 年次	通年	2 単位	必修	演習
授業の目的・ねらい 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出した り、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。				
授業全体の内容の概要 「障害に応じた介護」をサブタイトルとし、事例に沿った応用的介護技術の展開方法を学ぶ。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 利用者の状態・状況に応じた介護技術を身に付け、その留意点を理解する。				
授業の内容・進め方				
1. 応用的介護技術の視点 2. 自立に向けた移動の介護（1）利用者の状態に応じた移動の介助① 3. 自立に向けた移動の介護（2）利用者の状態に応じた移動の介助② 4. 自立に向けた移動の介護（3）利用者の状態に応じた移動の介助③ 5. 自立に向けた移動の介護（4）他の職種の役割と協働 6. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（1）利用者の状態に応じた入浴・清潔保持の介助① 7. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（2）利用者の状態に応じた入浴・清潔保持の介助② 8. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（3）利用者の状態に応じた入浴・清潔保持の介助③ 9. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護（4）他の職種の役割と協働 10. 自立に向けた排泄の介護（1）利用者の状態に応じた排泄の介助① 11. 自立に向けた排泄の介護（2）利用者の状態に応じた排泄の介助② 12. 自立に向けた排泄の介護（3）利用者の状態に応じた排泄の介助③ 13. 自立に向けた排泄の介護（4）利用者の状態に応じた排泄の介助④ 14. 自立に向けた排泄の介護（5）他の職種の役割と協働 15. 自立に向けた身じたくの介護（1）利用者の状態に応じた身じたくの介助① 16. 自立に向けた身じたくの介護（2）利用者の状態に応じた身じたくの介助② 17. 自立に向けた身じたくの介護（3）利用者の状態に応じた身じたくの介助③ 18. 自立に向けた身じたくの介護（4）他の職種の役割と協働 19. 自立に向けた食事の介護（1）利用者の状態に応じた食事の介助① 20. 自立に向けた食事の介護（2）利用者の状態に応じた食事の介助② 21. 自立に向けた食事の介護（3）利用者の状態に応じた食事の介助③ 22. 自立に向けた食事の介護（4）他の職種の役割と協働 23. 自立に向けた睡眠の介護（1）利用者の状態に応じた睡眠の介助① 24. 自立に向けた睡眠の介護（2）利用者の状態に応じた睡眠の介助② 25. 自立に向けた睡眠の介護（3）利用者の状態に応じた睡眠の介助③ 26. 自立に向けた睡眠の介護（4）他の職種の役割と協働 27. 自立に向けた家事の介護（1）利用者の状態に応じた家事の介助① 28. 自立に向けた家事の介護（2）利用者の状態に応じた家事の介助② 29. 自立に向けた家事の介護（3）他の職種の役割と協働 30. 実技試験				
単位認定の方法及び基準 実技試験、筆記試験、課題提出、授業態度、出席状況による総合評価。評価の比率は、筆記試験 50%、課題提出 30%、授業態度・出席状況 20%の割合とする。				
学生へのメッセージ グループワークなどの演習になりますので積極的に参加して下さい。				
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編 『新・介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』 中央法規出版 『新・介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ』 中央法規出版			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 病床で高齢者看護、保健センターでの訪問看護等の経験がある教員がその経験を生かし、応用介護技術を指導する。				

科目名 生活支援技術Ⅴ		担当教員 市原浩美		
1 年次	通年	2 単位	必修	演習
授業の目的・ねらい 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出した り、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学習する。死の概念 をとらえ、終末期の利用者を恐れず向き合うための姿勢を学ぶ。				
授業全体の内容の概要 「終末期の介護」をサブタイトルとし、オリジナルの事例を多く用いてターミナルケアの実際を知り、介護 福祉士の役割と対応について学ぶ。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 尊厳の保持を貫く終末期介護のあり方を個々の感性・人間観・共感を土台に考え、自分自身の死生観を深め ることができる。また、具体的な援助の仕方を学ぶ。				
授業の内容・進め方 1. 救急・事故時の対応：応急手当 2. 救急・事故時の対応：保健医療福祉関係者等への連絡 3. 事例① 4. 事例② 5. 終末期の介護（1）終末期とは 6. 終末期の介護（2）終末期における介護の意義 7. 終末期の介護（3）終末期における尊厳の保持 8. 終末期の介護（4）事前意思確認 9. 終末期の介護（5）終末期における利用者のアセスメント 10. 事例③ 11. 終末期の介護（6）家族への援助（グリーフケア） 12. 終末期の介護（7）医療との連携 13. 事例④ 14. 終末期の介護（8）臨終時の介護 15. 介護福祉士としての心構え				
単位認定の方法及び基準 筆記試験・レポート及び出席状況による総合評価。評価の比率は、試験 70%、授業中の課題提出や授業態 度 30%程度の割合とする。				
学生へのメッセージ				
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編『最新介護福祉士 養成講座 7 生活支援技術Ⅱ』 中央法規出版 上記以外にも必要に応じた DVD 教材及び資料を配 付する。		参考図書		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 介護・医療・在宅での終末期介護の経験を有する教員が「終末期の介護」における死生観や終末期の利用者、 その家族と向き合う姿勢を指導する。				

科目名 介護過程Ⅰ			担当教員 中川早紀	
1年次	前期	2単位	必修	講義
授業の目的・ねらい 他の授業科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程の展開や介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。 また、介護過程の導入として「くらし」に視点をあて、高齢者、障害者の生活をイメージする。				
授業全体の内容の概要 介護過程の導入として、問題解決的な考えの基本をおさえ、介護過程の意義と展開の概要を理解する。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 介護過程の意味と必要性を理解し、展開へと進められる基礎的知識を得る。				
授業の内容・進め方 1. 介護過程とは 2. 介護過程を学ぶために（1）「くらし」からみえてくるもの 3. 介護過程を学ぶために（2）「かかわり」からみえてくるもの 4. 介護過程の視点に気づき、広げるために（1）利用者の実像に近づくには 5. 介護過程の視点に気づき、広げるために（2）事例からくみ取る願いと思ひ 6. 介護過程を理解する（1）介護過程における「問題」のとらえ方 7. （2）日常場面での課題解決思考 8. （3）課題解決の概要 9. （4）課題解決思考を体験する 10. 介護過程の意義（1）介護過程の概要を知る 11. 介護過程の意義（2）介護過程の構造と構成要素 12. 介護過程の展開（1）介護過程展開の概要 13. 介護過程の展開（2）情報とは何か 14. 介護過程の展開（3）アセスメントの意味 15. 介護過程の展開（4）ワークシートの使い方				
単位認定の方法及び基準 出席 15%、レポート提出 40%、定期試験 45%				
学生へのメッセージ この授業は、他の科目で学習した内容を統合していきます。そのため、各授業で学んだことをよく復習し、分からないことは随時調べる習慣をつけましょう。				
テキスト 介護福祉教育研究会編『楽しく学ぶ介護過程』久美出版			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 特別養護老人ホームの介護職員として勤務経験を有する教員が、その経験を活かし、根拠に基づいた介護計画を立案するまでの導入部分について授業を行う。				

科目名 介護過程Ⅱ			担当教員 中川早紀	
1年次	前期	2単位	必修	演習
授業の目的・ねらい 介護過程を継続した生活の一場面としてとらえることの意味をふまえて、他の科目で学習した知識や技術を統合し、介護計画を立案・展開できる能力を養う学習とする。				
授業全体の内容の概要 介護過程の展開が「アセスメント→計画→実施→評価」の繰り返しであることを、事例を用いたグループによる討議や発表、ロールプレイを通して学ぶ。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 介護過程とは個々のニーズを適格に把握し、計画的に介護を実践・評価することの連続であることを理解し、実習で実践できる。				
授業の内容・進め方				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 介護過程Ⅱの学びをはじめよう 2. 介護過程Ⅰの復習（基礎的理解） 3. アセスメントに必要な事実のとらえ方 4. 具体的なケアの場面からアセスメントを考える 5. 事実を解釈し課題を抽出するために 6. デイマズからニーズを理解する 7. 高齢者の生きてきた時代、生活の理解① 8. 高齢者の生きてきた時代、生活の理解② 9. 介護過程とケアマネジメント 10. 介護過程とチームアプローチ 11. ミニ事例で学ぶ介護過程の展開①（情報収集） 12. ミニ事例で学ぶ介護過程の展開②（事実の解釈） 13. ミニ事例で学ぶ介護過程の展開③（目標の立案） 14. ミニ事例で学ぶ介護過程の展開④（援助方法） 15. リスク回避のためのアセスメントとケア① 16. リスク回避のためのアセスメントとケア② 17. リスク回避のためのアセスメントとケア③ 18. リスク回避のためのアセスメントとケア④ 19. 施設事例で学ぶ介護過程の展開①（情報収集） 20. 施設事例で学ぶ介護過程の展開②（生活課題） 21. 施設事例で学ぶ介護過程の展開③（目標） 22. 施設事例で学ぶ介護過程の展開④（援助方法） 23. 施設事例で学ぶ介護過程の展開⑤（実施） 24. 施設事例で学ぶ介護過程の展開⑥（評価） 25. 障害事例で学ぶ介護過程の展開① 26. 障害事例で学ぶ介護過程の展開② 27. 介護実習に臨む前に 28. 介護過程を具体的に展開するための留意点 29. まとめと前期試験 30. 介護過程Ⅱのふりかえり 				
単位認定の方法及び基準 筆記試験及び出席状況等による総合評価とする。評価の比率は出席、課題提出、グループワーク、発表への貢献度、授業態度が60%、期末試験40%とする。				
学生へのメッセージ この授業は、グループによる討議や発表、ロールプレイなど学生が主体的に取り組めるような構成とするため、積極的に参加してください。				
テキスト 介護福祉教育研究会編『楽しく学ぶ介護過程』 久美出版			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 特別養護老人ホームの介護職員として勤務経験を有する教員が、その経験を活かし、介護計画を立案する学習を指導する。				

科目名 介護過程Ⅲ			担当教員 中川早紀																																									
1年次	後期	2単位	必修	演習																																								
授業の目的・ねらい 介護過程ⅠおよびⅡをふまえて、介護実習との相互性を活かし、「介護過程」の実践的思考とスキルの習得を目指す。その中で専門職としての介護福祉士の役割を自覚する学習とする。																																												
授業全体の内容の概要 実習で実践した個々の介護過程の展開を整理し、報告書としてまとめる。並行して実習体験を「介護過程」をキーワードにして一般化し、グループでポスターを作成する。																																												
授業修了時の達成課題（到達目標） 実習で体験した介護過程をふりかえり、介護過程におけるチームアプローチの重要性と介護福祉士として求められる専門性を自覚できる。																																												
授業の内容・進め方 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">1. 介護過程Ⅲの学びをはじめよう</td> <td style="width: 50%;">21. プロジェクト・ワーク⑤（制作）</td> </tr> <tr> <td>2. 介護過程の実践報告①（発表とピア評価）</td> <td>22. プロジェクト・ワーク⑥（制作）</td> </tr> <tr> <td>3. 介護過程の実践報告②（発表とピア評価）</td> <td>23. プロジェクト・ワーク⑦（制作）</td> </tr> <tr> <td>4. 介護過程の実践報告③（発表とピア評価）</td> <td>24. プロジェクト・ワーク⑧（制作）</td> </tr> <tr> <td>5. 介護過程の実践的展開</td> <td>25. プレゼンテーションと相互評価</td> </tr> <tr> <td>6. 実習事例の整理と記録①（はじめに）</td> <td>26. 介護過程とチームアプローチ</td> </tr> <tr> <td>7. プロジェクト・ワーク①（はじめに）</td> <td>27. 介護過程とチームアプローチ</td> </tr> <tr> <td>8. 実習事例の整理と記録②（アセスメント）</td> <td>28. まとめと後期試験</td> </tr> <tr> <td>9. プロジェクト・ワーク②（アセスメント）</td> <td>29. 介護過程Ⅲのふりかえり</td> </tr> <tr> <td>10. 実習事例の整理と記録③（立案）</td> <td>30. 介護実習報告会（全体）</td> </tr> <tr> <td>11. プロジェクト・ワーク③（立案）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12. 実習事例の整理と記録④（実施・評価）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13. プロジェクト・ワーク④（実施・評価）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14. 実習事例の整理と記録⑤（まとめ）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15. 実習報告書の作成①（PC）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16. 実習報告書の作成②（PC）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>17. 実習報告書の作成③（PC）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>18. 実習報告書の作成④（PC）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>19. 実習報告書の作成⑤（PC）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20. クラス内事例発表会</td> <td></td> </tr> </table>					1. 介護過程Ⅲの学びをはじめよう	21. プロジェクト・ワーク⑤（制作）	2. 介護過程の実践報告①（発表とピア評価）	22. プロジェクト・ワーク⑥（制作）	3. 介護過程の実践報告②（発表とピア評価）	23. プロジェクト・ワーク⑦（制作）	4. 介護過程の実践報告③（発表とピア評価）	24. プロジェクト・ワーク⑧（制作）	5. 介護過程の実践的展開	25. プレゼンテーションと相互評価	6. 実習事例の整理と記録①（はじめに）	26. 介護過程とチームアプローチ	7. プロジェクト・ワーク①（はじめに）	27. 介護過程とチームアプローチ	8. 実習事例の整理と記録②（アセスメント）	28. まとめと後期試験	9. プロジェクト・ワーク②（アセスメント）	29. 介護過程Ⅲのふりかえり	10. 実習事例の整理と記録③（立案）	30. 介護実習報告会（全体）	11. プロジェクト・ワーク③（立案）		12. 実習事例の整理と記録④（実施・評価）		13. プロジェクト・ワーク④（実施・評価）		14. 実習事例の整理と記録⑤（まとめ）		15. 実習報告書の作成①（PC）		16. 実習報告書の作成②（PC）		17. 実習報告書の作成③（PC）		18. 実習報告書の作成④（PC）		19. 実習報告書の作成⑤（PC）		20. クラス内事例発表会	
1. 介護過程Ⅲの学びをはじめよう	21. プロジェクト・ワーク⑤（制作）																																											
2. 介護過程の実践報告①（発表とピア評価）	22. プロジェクト・ワーク⑥（制作）																																											
3. 介護過程の実践報告②（発表とピア評価）	23. プロジェクト・ワーク⑦（制作）																																											
4. 介護過程の実践報告③（発表とピア評価）	24. プロジェクト・ワーク⑧（制作）																																											
5. 介護過程の実践的展開	25. プレゼンテーションと相互評価																																											
6. 実習事例の整理と記録①（はじめに）	26. 介護過程とチームアプローチ																																											
7. プロジェクト・ワーク①（はじめに）	27. 介護過程とチームアプローチ																																											
8. 実習事例の整理と記録②（アセスメント）	28. まとめと後期試験																																											
9. プロジェクト・ワーク②（アセスメント）	29. 介護過程Ⅲのふりかえり																																											
10. 実習事例の整理と記録③（立案）	30. 介護実習報告会（全体）																																											
11. プロジェクト・ワーク③（立案）																																												
12. 実習事例の整理と記録④（実施・評価）																																												
13. プロジェクト・ワーク④（実施・評価）																																												
14. 実習事例の整理と記録⑤（まとめ）																																												
15. 実習報告書の作成①（PC）																																												
16. 実習報告書の作成②（PC）																																												
17. 実習報告書の作成③（PC）																																												
18. 実習報告書の作成④（PC）																																												
19. 実習報告書の作成⑤（PC）																																												
20. クラス内事例発表会																																												
単位認定の方法及び基準 筆記試験及び出席状況等による総合評価とする。評価の比率は出席、課題提出、グループワーク、発表への貢献度、授業態度が70%、期末試験30%とする。																																												
学生へのメッセージ この授業は、介護過程Ⅰ・Ⅱの授業をベースに、実習での介護過程の実践を整理し、報告書にまとめていきます。介護過程Ⅰ・Ⅱの授業の復習と、実習での学びが重要になります。																																												
テキスト 介護福祉教育研究会編『楽しく学ぶ介護過程』久美出版			参考図書																																									
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 特別養護老人ホームの介護職員として勤務経験を有する教員が、その経験を活かし、実習での介護過程の展開を整理し、報告書としてまとめる作業を指導する。																																												

科目名 介護総合演習			担当教員 中川早紀																																									
1 年次	通年	2 単位	必修	演習																																								
授業の目的・ねらい 介護実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。																																												
授業全体の内容の概要 介護実習の意義と目的を正しく理解し、事例をもとに実習への意欲が高められるよう、事前指導を行う。後半は介護実習の振り返りを中心とし、介護福祉士の役割の理解に向けて討議、考察する。																																												
授業修了時の達成課題（到達目標） 介護実習の意味を理解し、実習を通して自己の介護観を確立する。																																												
授業の内容・進め方																																												
<table border="0"> <tr> <td>1. 実習の目的</td> <td>21. 介護実習Ⅰのまとめとレポート作成</td> </tr> <tr> <td>2. 実習の意味と重要性</td> <td>22. 介護実習Ⅱのまとめとレポート作成</td> </tr> <tr> <td>3. 実習先、施設について</td> <td>23. グループ討議：居宅介護実習</td> </tr> <tr> <td>4. 実習の自己目標、目的意識の明確化</td> <td>24. グループ討議：施設実習</td> </tr> <tr> <td>5. 訪問介護実習について</td> <td>25. グループワークによる事例研究①</td> </tr> <tr> <td>6. 個別表の書き方</td> <td>26. グループワークによる事例研究②</td> </tr> <tr> <td>7. 訪問介護実習に関する諸注意と準備</td> <td>27. 事例研究のまとめと発表①</td> </tr> <tr> <td>8. 施設の種類と利用者、サービス内容</td> <td>28. 事例研究のまとめと発表②</td> </tr> <tr> <td>9. 介護実習Ⅰについて</td> <td>29. 事例研究のまとめと発表③</td> </tr> <tr> <td>10. 介護実習Ⅱについて</td> <td>30. 自己の介護観の確立に向けて</td> </tr> <tr> <td>11. 個別表の書き方</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12. 実習日誌の書き方</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13. 社会人としての規範、マナー</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14. 実習に向けての心構え、注意事項</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15. 実習中の集団指導</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16. 実習報告：介護実習Ⅰ（居宅介護実習）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>17. 実習報告：介護実習Ⅰ（その他）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>18. 実習報告：介護実習Ⅱ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>19. 自己課題の達成度の把握</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20. 訪問介護実習のまとめとレポート作成</td> <td></td> </tr> </table>					1. 実習の目的	21. 介護実習Ⅰのまとめとレポート作成	2. 実習の意味と重要性	22. 介護実習Ⅱのまとめとレポート作成	3. 実習先、施設について	23. グループ討議：居宅介護実習	4. 実習の自己目標、目的意識の明確化	24. グループ討議：施設実習	5. 訪問介護実習について	25. グループワークによる事例研究①	6. 個別表の書き方	26. グループワークによる事例研究②	7. 訪問介護実習に関する諸注意と準備	27. 事例研究のまとめと発表①	8. 施設の種類と利用者、サービス内容	28. 事例研究のまとめと発表②	9. 介護実習Ⅰについて	29. 事例研究のまとめと発表③	10. 介護実習Ⅱについて	30. 自己の介護観の確立に向けて	11. 個別表の書き方		12. 実習日誌の書き方		13. 社会人としての規範、マナー		14. 実習に向けての心構え、注意事項		15. 実習中の集団指導		16. 実習報告：介護実習Ⅰ（居宅介護実習）		17. 実習報告：介護実習Ⅰ（その他）		18. 実習報告：介護実習Ⅱ		19. 自己課題の達成度の把握		20. 訪問介護実習のまとめとレポート作成	
1. 実習の目的	21. 介護実習Ⅰのまとめとレポート作成																																											
2. 実習の意味と重要性	22. 介護実習Ⅱのまとめとレポート作成																																											
3. 実習先、施設について	23. グループ討議：居宅介護実習																																											
4. 実習の自己目標、目的意識の明確化	24. グループ討議：施設実習																																											
5. 訪問介護実習について	25. グループワークによる事例研究①																																											
6. 個別表の書き方	26. グループワークによる事例研究②																																											
7. 訪問介護実習に関する諸注意と準備	27. 事例研究のまとめと発表①																																											
8. 施設の種類と利用者、サービス内容	28. 事例研究のまとめと発表②																																											
9. 介護実習Ⅰについて	29. 事例研究のまとめと発表③																																											
10. 介護実習Ⅱについて	30. 自己の介護観の確立に向けて																																											
11. 個別表の書き方																																												
12. 実習日誌の書き方																																												
13. 社会人としての規範、マナー																																												
14. 実習に向けての心構え、注意事項																																												
15. 実習中の集団指導																																												
16. 実習報告：介護実習Ⅰ（居宅介護実習）																																												
17. 実習報告：介護実習Ⅰ（その他）																																												
18. 実習報告：介護実習Ⅱ																																												
19. 自己課題の達成度の把握																																												
20. 訪問介護実習のまとめとレポート作成																																												
単位認定の方法及び基準 課題提出及び発表、小テスト、出席状況、授業態度による総合評価。評価の比率はそれぞれ 1/4 程度の割合とする。																																												
学生へのメッセージ 実習とのつながりが深い授業です。前期は実習前の準備、後期は実習後の振り返りを中心に授業を展開していきます。1 年間、厳しいスケジュールにはなりますが、共に頑張りましょう。																																												
テキスト 『最新介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習』			参考図書																																									
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 介護職員として勤務経験を有する教員が、その経験を活かし、実習に必要な知識・技術の指導を行う。																																												

科目名 介護実習 I			担当教員 中川早紀 小林久美子・櫻庭久美子 高橋真理子	
1 年次	通年	1 単位	必修	実習
授業の目的・ねらい 保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。				
授業全体の内容の概要 居宅介護事業所、通所介護施設及びグループホーム等での実習とする。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 居宅介護事業所、通所介護及びその他の施設での介護利用者への援助について理解する。				
授業の内容・進め方 1. 居宅介護実習 (1) 居宅介護事業所の機能や基本的なケアを学ぶ。 (2) 施設実習とは異なる居宅介護の特性について学ぶ。 2. 通所介護及びその他の施設での実習 (1) 通所介護施設またはグループホーム等での基本的ケアを学ぶ。 (2) 入所施設とは異なる通所介護またはグループホーム等での介護の特性について学ぶ。				
単位認定の方法及び基準 ①実習先施設及び事業所の担当者による評価 ②教員評価による総合評価 評価の比率は①が60%、②が40%の割合とする。				
学生へのメッセージ 健康管理に留意し積極的な姿勢をもって実習に臨みましょう。				
テキスト			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 介護福祉士に必要な能力を身につけるために、特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの施設などの介護現場において、実習指導者の指導の下、担当利用者の介助および介護過程の立案を行う。				

科目名 介護実習Ⅱ		担当教員 中川早紀 小林久美子・櫻庭久美子 高橋真理子		
1 年次	後期	4 単位	必修	実習
授業の目的・ねらい 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他授業科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。				
授業全体の内容の概要 高齢者入所施設での介護実習の中で、「介護過程」で学んだ思考のプロセスを実際の利用者を受け持つことにより実践する。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 高齢者入所施設での介護過程の展開の仕方を理解し、介護職として働く姿勢や介護の本質を探究する基本的な姿勢を身につける。				
授業の内容・進め方 1. 個々の利用者の生活背景や生活リズムを理解し、必要な情報を収集し、自立支援の観点から介護過程を展開する。 2. 立案した介護計画に基づいた介護を提供し、評価する。必要に応じて計画の修正を行う。 3. 一連の介護過程におけるカンファレンスの位置付け・機能を理解し、カンファレンスに参加する。 4. 基本的な介護技術を踏まえ、障害のレベルに応じた介護技術を取得する。				
単位認定の方法及び基準 ①実習先施設及び事業所の担当者による評価 ②教員評価による総合評価 評価の比率は①が60%、②が40%の割合とする。				
学生へのメッセージ 健康管理に留意し積極的な姿勢をもって実習に臨みましょう。				
テキスト		参考図書		
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 介護福祉士に必要な能力を身につけるために、特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどの施設などの介護現場において、実習指導者の指導の下、担当利用者の介助および介護過程の立案を行う。				

科目名 発達と老化の理解 I			担当教員 松宮美樹	
1 年次	前期	1 単位	必修	講義
授業の目的・ねらい 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。				
授業全体の内容の概要 心理学的側面から、人間の成長と発達、老化について解説する。随時事例検討も行う。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 高齢者の心理特性に関する知識を習得し、それを介護に役立てる。				
授業の内容・進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の成長と発達の基礎的理解 2. 人間の発達とその心理的理解 3. 老年期の発達と成熟 4. 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 <ol style="list-style-type: none"> (1) 老化に伴う知能や記憶の変化 5. 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 <ol style="list-style-type: none"> (2) 老化に伴う感情やその他の精神機能の変化 6. 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活 <ol style="list-style-type: none"> (3) 老年期に現れやすい精神障害 7. 認知症高齢者へのケア 8. 高齢者への援助の実際～事例を通して 				
単位認定の方法及び基準 平常点 20%、試験点 80%。				
学生へのメッセージ 授業中の質問は大いに歓迎する。				
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編 『最新介護福祉士養成講座 11 発達と老化の理解』 中央法規出版			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 公認心理師の経験がある教員が、発達や老化に関して講義する。				

科目名 発達と老化の理解Ⅱ			担当教員 小林久美子			
1 年次	前期	2 単位	必修	講義		
授業の目的・ねらい 発達の観点からの老化を理解し、老化に関する身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。						
授業全体の内容の概要 身体的側面から、老化を理解し、日常生活への影響を考える。また、高齢者に多く現れる病気の概要と生活上の留意点について解説する。						
授業修了時の達成課題（到達目標） 高齢者の身体機能の変化及びわかりやすい病気について理解し、医療職との連携がはかれるようにする。						
授業の内容・進め方						
<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1. 老化に伴うからだの変化と日常生活（1） 外見上、免疫機能、感覚機能、咀嚼、消化器機能の変化 2. 老化に伴うからだの変化と日常生活（2） 循環器・呼吸器・骨・関節・泌尿器・生殖・体温維持機能の変化 3. 老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響とその留意点 4. 高齢者の症状・疾患の特徴 5. 高齢者に多い病気とその留意点（1） 生活習慣病、高血圧、糖尿病、脂質異常症 6. 高齢者に多い病気とその留意点（2） 脳卒中、心疾患、がん 7. 高齢者に多い病気とその留意点（3） 骨・関節系の病気 8. 高齢者に多い病気とその留意点（4） 目、耳、皮膚の病気 9. 高齢者に多い病気とその留意点（5） 呼吸器、腎臓、泌尿器の病気 10. 高齢者に多い病気とその留意点（6） 消化器、腎臓、脳・精神の病気 </td> <td style="vertical-align: top;"> 11. 高齢者に多い感染症 12. 高齢者に多い症状・訴えとその留意点（1） 痛み、めまい、体重減少、低栄養、しびれ、浮腫、咳・痰 13. 高齢者に多い症状・訴えとその留意点（2） 息切れ・息苦しさ、掻痒感、不眠、便秘、下痢、誤嚥、出血、熱中症 14. 保健医療職との連携（1）チームケア 15. 保健医療職との連携（2）連携のポイント </td> </tr> </table>					1. 老化に伴うからだの変化と日常生活（1） 外見上、免疫機能、感覚機能、咀嚼、消化器機能の変化 2. 老化に伴うからだの変化と日常生活（2） 循環器・呼吸器・骨・関節・泌尿器・生殖・体温維持機能の変化 3. 老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響とその留意点 4. 高齢者の症状・疾患の特徴 5. 高齢者に多い病気とその留意点（1） 生活習慣病、高血圧、糖尿病、脂質異常症 6. 高齢者に多い病気とその留意点（2） 脳卒中、心疾患、がん 7. 高齢者に多い病気とその留意点（3） 骨・関節系の病気 8. 高齢者に多い病気とその留意点（4） 目、耳、皮膚の病気 9. 高齢者に多い病気とその留意点（5） 呼吸器、腎臓、泌尿器の病気 10. 高齢者に多い病気とその留意点（6） 消化器、腎臓、脳・精神の病気	11. 高齢者に多い感染症 12. 高齢者に多い症状・訴えとその留意点（1） 痛み、めまい、体重減少、低栄養、しびれ、浮腫、咳・痰 13. 高齢者に多い症状・訴えとその留意点（2） 息切れ・息苦しさ、掻痒感、不眠、便秘、下痢、誤嚥、出血、熱中症 14. 保健医療職との連携（1）チームケア 15. 保健医療職との連携（2）連携のポイント
1. 老化に伴うからだの変化と日常生活（1） 外見上、免疫機能、感覚機能、咀嚼、消化器機能の変化 2. 老化に伴うからだの変化と日常生活（2） 循環器・呼吸器・骨・関節・泌尿器・生殖・体温維持機能の変化 3. 老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響とその留意点 4. 高齢者の症状・疾患の特徴 5. 高齢者に多い病気とその留意点（1） 生活習慣病、高血圧、糖尿病、脂質異常症 6. 高齢者に多い病気とその留意点（2） 脳卒中、心疾患、がん 7. 高齢者に多い病気とその留意点（3） 骨・関節系の病気 8. 高齢者に多い病気とその留意点（4） 目、耳、皮膚の病気 9. 高齢者に多い病気とその留意点（5） 呼吸器、腎臓、泌尿器の病気 10. 高齢者に多い病気とその留意点（6） 消化器、腎臓、脳・精神の病気	11. 高齢者に多い感染症 12. 高齢者に多い症状・訴えとその留意点（1） 痛み、めまい、体重減少、低栄養、しびれ、浮腫、咳・痰 13. 高齢者に多い症状・訴えとその留意点（2） 息切れ・息苦しさ、掻痒感、不眠、便秘、下痢、誤嚥、出血、熱中症 14. 保健医療職との連携（1）チームケア 15. 保健医療職との連携（2）連携のポイント					
単位認定の方法及び基準 筆記試験（70%）・小テスト（20%）・課題提出及び授業態度（10%）による総合評価。						
学生へのメッセージ ・高齢者は多くのことを教えてくださいますので積極的に関わって、学びを深めて下さい。 ・高齢になっても社会参加や自己実現が可能となる介護福祉士への対応に繋げて下さい。						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編 『最新介護福祉士養成講座 11 発達と老化の理解』 ・必要に応じて適宜資料を配布する。			参考図書 ぜんぶわかる「人体解剖図」成美堂出版 中央法規出版			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 病床での高齢者看護、保健センターでの訪問看護等の経験のある教員が、その経験を活かし、発達の観点からの老化の特徴に関する基礎的知識を習得できるよう授業を行う。						

科目名 認知症の理解 I			担当教員 櫻庭久美子			
1 年次	前期	2 単位	必修	講義		
授業の目的・ねらい 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。						
授業全体の内容の概要 認知症を取り巻く状況、及び特に医学的側面から見た認知症の基礎的事項を解説する。						
授業修了時の達成課題（到達目標） 認知症に関する医学的知識を習得し、認知症の特性、ケアの視点を理解する。						
授業の内容・進め方						
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 認知症を取り巻く状況（1） 認知症ケアの歴史 2. 認知症を取り巻く状況（2） 認知症ケアの理念 3. 認知症を取り巻く状況（3） 認知症高齢者の現状と今後 4. 認知症を取り巻く状況（4） 認知症に関する行政の方針と施策 5. 医学的側面から見た認知症の基礎（1） 認知症の定義と診断 6. 医学的側面から見た認知症の基礎（2） 認知症の症状①：中核症状 7. 医学的側面から見た認知症の基礎（3） 認知症の症状②：BPSD 8. 医学的側面から見た認知症の基礎（4） 認知症の原因となる疾患：アルツハイマー型認知症① 9. 医学的側面から見た認知症の基礎（5） 認知症の原因となる疾患：アルツハイマー型認知症② 10. 医学的側面から見た認知症の基礎（6） 認知症の原因となる疾患：脳血管性認知症 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 11. 医学的側面から見た認知症の基礎（7） 認知症の原因となる疾患：レビー小体型認知症・その他の認知症 12. 医学的側面から見た認知症の基礎（8） 認知症の治療法・予防法 13. 医学的側面から見た認知症の基礎（9） 認知症と間違えられやすい症状：せん妄 14. 医学的側面から見た認知症の基礎（10） 認知症と間違えられやすい症状：うつ症状 15. 医学的側面から見た認知症の基礎（11） 若年性認知症 </td> </tr> </table>					1. 認知症を取り巻く状況（1） 認知症ケアの歴史 2. 認知症を取り巻く状況（2） 認知症ケアの理念 3. 認知症を取り巻く状況（3） 認知症高齢者の現状と今後 4. 認知症を取り巻く状況（4） 認知症に関する行政の方針と施策 5. 医学的側面から見た認知症の基礎（1） 認知症の定義と診断 6. 医学的側面から見た認知症の基礎（2） 認知症の症状①：中核症状 7. 医学的側面から見た認知症の基礎（3） 認知症の症状②：BPSD 8. 医学的側面から見た認知症の基礎（4） 認知症の原因となる疾患：アルツハイマー型認知症① 9. 医学的側面から見た認知症の基礎（5） 認知症の原因となる疾患：アルツハイマー型認知症② 10. 医学的側面から見た認知症の基礎（6） 認知症の原因となる疾患：脳血管性認知症	11. 医学的側面から見た認知症の基礎（7） 認知症の原因となる疾患：レビー小体型認知症・その他の認知症 12. 医学的側面から見た認知症の基礎（8） 認知症の治療法・予防法 13. 医学的側面から見た認知症の基礎（9） 認知症と間違えられやすい症状：せん妄 14. 医学的側面から見た認知症の基礎（10） 認知症と間違えられやすい症状：うつ症状 15. 医学的側面から見た認知症の基礎（11） 若年性認知症
1. 認知症を取り巻く状況（1） 認知症ケアの歴史 2. 認知症を取り巻く状況（2） 認知症ケアの理念 3. 認知症を取り巻く状況（3） 認知症高齢者の現状と今後 4. 認知症を取り巻く状況（4） 認知症に関する行政の方針と施策 5. 医学的側面から見た認知症の基礎（1） 認知症の定義と診断 6. 医学的側面から見た認知症の基礎（2） 認知症の症状①：中核症状 7. 医学的側面から見た認知症の基礎（3） 認知症の症状②：BPSD 8. 医学的側面から見た認知症の基礎（4） 認知症の原因となる疾患：アルツハイマー型認知症① 9. 医学的側面から見た認知症の基礎（5） 認知症の原因となる疾患：アルツハイマー型認知症② 10. 医学的側面から見た認知症の基礎（6） 認知症の原因となる疾患：脳血管性認知症	11. 医学的側面から見た認知症の基礎（7） 認知症の原因となる疾患：レビー小体型認知症・その他の認知症 12. 医学的側面から見た認知症の基礎（8） 認知症の治療法・予防法 13. 医学的側面から見た認知症の基礎（9） 認知症と間違えられやすい症状：せん妄 14. 医学的側面から見た認知症の基礎（10） 認知症と間違えられやすい症状：うつ症状 15. 医学的側面から見た認知症の基礎（11） 若年性認知症					
単位認定の方法及び基準 筆記試験及び授業中の態度、提出物等。						
学生へのメッセージ 認知症の人への対応やケアは認知症の増悪や症状の改善に影響します。そのためにも認知症を正しく理解して下さい。						
テキスト 『最新介護福祉士養成講座 13 認知症の理解』中央法規出版 ・必要に応じて適宜資料を配布する。			参考図書 ぜんぶわかる認知症の事典（成美堂出版） ぜんぶわかる脳の事典（成美堂出版）			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 看護師としての経験を持つ教員が、その経験を活かし、認知症の医学的な脳の変化、症状などについて授業を行う。						

科目名 認知症の理解Ⅱ			担当教員 櫻庭久美子	
1 年次	後期	1 単位	必修	演習
授業の目的・ねらい 認知症に関する基礎知識を踏まえ、認知症のある人の特性を理解した上で、地域の連携や家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。				
授業全体の内容の概要 事例を通して、認知症のある人の生活上の困難を理解し、連携を含めた支援の方法について考える。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 認知症の人の生活を理解し、適切な支援について理解できる。また、他職種との連携・協働のあり方、家族の支援についての具体的な方法を理解できる。				
授業の内容・進め方 <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症に伴うこころからだの変化と日常生活：認知症の人の心理・行動 2. 認知症の人の体験世界 3. 認知症の人のかかわりの基本①：介護の基本原則 4. 認知症の人のかかわりの基本②：パーソン・センタード・ケア 5. 認知症の人の生活の理解 6. 認知症の人とのコミュニケーション 7. 認知症の人の生活障害①：食事の介護 8. 認知症の人の生活障害②：排泄の介護 9. 認知症の人の介護過程① 10. 認知症の人の介護過程② 11. 認知症の人の進行に応じた介護① 12. 認知症の人の進行に応じた介護② 13. 連携と協働（1）認知症の人と地域におけるサポート体制 14. 連携と協働（2）認知症の人とチームアプローチ 15. 家族への支援：認知症の人と家族支援とレスパイトケア 				
単位認定の方法及び基準 筆記試験及び授業態度、提出物等。				
学生へのメッセージ <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症を正しく理解し、その症状や行動について認知症の人主体に考えて下さい。 ・ 前向きな討論や議論を希望します。 				
テキスト 『最新介護福祉士養成講座 13 認知症の理解』 中央法規出版 ・ 必要に応じて適宜資料を配布する。			参考図書 認知症の人のこころ（中央法規） 認知症ケアの手引き（日本看護協会出版会）	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 看護師としての経験を持つ教員が、その経験を活かし、認知症を持つ人への関わり、対応の仕方について授業を行う。				

科目名 障害の理解			担当教員 櫻庭久美子	
1年次	後期	2単位	必修	講義
授業の目的・ねらい 保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。また、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。				
授業全体の内容の概要 障害を医学的に解説し、障害のある人の日常生活の理解と援助の視点、家族支援について考える。また他職種や行政機関等の連携について解説する。				
授業修了時の達成課題（到達目標） ①科学的根拠をもって障害をとらえることができる。 ②障害のある人の生活と援助の視点及び家族支援の視点が理解できる。 ③障害のある人に関わる他職種を知り、連携方法を理解できる。				
授業の内容・進め方 1. 障害の基礎的理解 (1) 障害者福祉とその基本 理念・障害による心理的影響 2. 障害の基礎的理解 (2) コミュニケーションを 通しての障害の理解と支援、介護の視点 3. 障害の医学的側面の基礎的知識 (1) 視覚障害の理解と介護の留意点 4. 障害の医学的側面の基礎的知識 (2) 聴覚・言語障害の理解と介護の留意点 5. 障害の医学的側面の基礎的知識 (3) 肢体不自由の理解 6. 障害の医学的側面の基礎的知識 (4) 内部障害と介護の留意点 7. 障害の医学的側面の基礎的知識 (5) 内部障害と介護の留意点 8. 障害の医学的側面の基礎的知識 (6) 内部障害と介護の留意点 9. 難病の理解と介護の留意点 10. 精神障害の理解と介護の留意点 11. 精神障害の理解と介護の留意点 12. 知的障害の理解と介護の留意点 13. 発達障害の理解と介護の留意点 14. 連携と協働 15. 家族への支援				
単位認定の方法及び基準 筆記試験及び授業内での小テスト。				
学生へのメッセージ 短期間で病気や障害、人の心理にまで理解を深めることは大変です。授業に集中して積極的に参加して下さい。				
テキスト 『最新介護福祉士養成講座 14 障害の理解』 中央法規出版			参考図書 授業中に紹介する。	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 看護師としての経験を持つ教員が、その経験を活かし、医学的知識による障害に対する理解と障害者への関わり方について授業を行う				

科目名 こころとからだのしくみ I			担当教員 松宮美樹	
1 年次	前期	1 単位	必修	講義
授業の目的・ねらい 保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。				
授業全体の内容の概要 こころのしくみの基礎を概説し、対人援助にどう活かせるかについて、いくつかのエピソードをまじえながら授業展開する。				
授業修了時の達成課題（到達目標） こころのしくみの基礎的知識や考えの進め方を習得する。				
授業の内容・進め方 1. 人間の欲求の理解 2. 自己概念と尊厳 3. こころのしくみの理解 (1) 動機づけの定義と機能 4. こころのしくみの理解 (2) 思考のしくみ 5. こころのしくみの理解 (3) 記憶の理論と過程 6. こころのしくみの理解 (4) 忘却の理論と過程 7. こころのしくみの理解 (5) 感情のしくみ 8. こころのしくみの理解 (6) 適応のしくみ				
単位認定の方法及び基準 平常点 20%、試験点 80%。				
学生へのメッセージ 人のこころや行動について関心を寄せてほしい。授業中の質問は大いに歓迎する。				
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編 『最新介護福祉士養成講座 14 こころとからだのしくみ』中央法規出版			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 公認心理師の経験のある教員が、心理学的事項を講義する。				

科目名 こころとからだのしくみⅡ			担当教員 小林久美子	
1年次	前期	2単位	必修	講義
授業の目的・ねらい 保育士養成課程で学んだ内容を踏えて、介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点について理解する学習とする。				
授業全体の内容の概要 人体の基本構造やそれぞれの臓器・器官の生理機能、身体のしくみについて理解する。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 人体の構造や機能を知り、介護における利用者・介護者双方の安全への留意点を理解する。				
授業の内容・進め方 1. からだのしくみの理解(1)生命の維持・恒常性のしくみ 2. 人体の構造と機能(1)細胞・組織・器官 3. 人体の構造と機能(2)脳・神経系 4. 人体の構造と機能(3)骨格系・骨格筋 5. 人体の構造と機能(4)骨格系・骨格筋 6. 人体の構造と機能(5)感覚器 7. 人体の構造と機能(6)呼吸器 8. 人体の構造と機能(7)消化器 9. 人体の構造と機能(8)泌尿器・生殖器 10. 人体の構造と機能(9)循環器 11. 人体の構造と機能(10)血液・体液・リンパ 12. 人体の構造と機能(11)内分泌・免疫系 13. からだのしくみの理解(2)骨・関節の動き 14. からだのしくみの理解(3)筋肉・神経系の働き 15. からだのしくみの理解(4)ボディメカニクス				
単位認定の方法及び基準 授授業中に1回程度小テストを実施する。期末試験 80%、小テスト 10%、授業態度 10% とする。				
学生へのメッセージ 「考える力」の基礎となる知識をつみあげていきましょう。				
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編 『最新介護福祉士養成講座 14 こころとからだのしくみ』中央法規出版 ぜんぶわかる「人体解剖図」成美堂出版			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 病床での高齢者看護、保健センターでの訪問看護等の経験のある教員が、その経験を活かし、介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点について理解できるよう授業を行う。				

科目名 こころとからだのしくみⅢ			担当教員 櫻庭久美子			
1 年次	前期	1 単位	必修	講義		
授業の目的・ねらい 保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。						
授業全体の内容の概要 生活の各場面に関連したこころとからだのしくみについて、解説する。						
授業修了時の達成課題（到達目標） 介護技術の根拠となる各生活場面のこころとからだのしくみを理解し、科学的根拠に基づいた安全で適切な介護が提供できるようにする。						
授業の内容・進め方						
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 1. 移動に関連したこころとからだのしくみ（1） 移動行為の生理的意味 2. 移動に関連したこころとからだのしくみ（2） 安全安楽な移動、立位・座位保持のしくみ 3. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ（1） 身じたく行為の生理的意味 4. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ（2） 爪、毛髪構造と機能、口腔の清潔のしくみ 5. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（1） 清潔保持の生理的意味 6. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（2） 皮膚の汚れ、発汗のしくみ 7. 食事に関連したこころとからだのしくみ（1） のどが渇くしくみと水分量 8. 食事に関連したこころとからだのしくみ（2） 食べるしくみ 9. 排泄に関連したこころとからだのしくみ（1） 排泄の生理的意味 10. 排泄に関連したこころとからだのしくみ（2） 便、尿の生成、排便、排尿のしくみ </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 11. 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（1） 睡眠の生理的意味 12. 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（2） 睡眠のしくみ 13. 死にゆく人のこころとからだのしくみ（1） 「死」の捉え方 14. 死にゆく人のこころとからだのしくみ（2） 終末期から危篤、死亡時のからだの理解 15. 死にゆく人のこころとからだのしくみ（3） 「死」に対するこころの理解 </td> </tr> </table>					1. 移動に関連したこころとからだのしくみ（1） 移動行為の生理的意味 2. 移動に関連したこころとからだのしくみ（2） 安全安楽な移動、立位・座位保持のしくみ 3. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ（1） 身じたく行為の生理的意味 4. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ（2） 爪、毛髪構造と機能、口腔の清潔のしくみ 5. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（1） 清潔保持の生理的意味 6. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（2） 皮膚の汚れ、発汗のしくみ 7. 食事に関連したこころとからだのしくみ（1） のどが渇くしくみと水分量 8. 食事に関連したこころとからだのしくみ（2） 食べるしくみ 9. 排泄に関連したこころとからだのしくみ（1） 排泄の生理的意味 10. 排泄に関連したこころとからだのしくみ（2） 便、尿の生成、排便、排尿のしくみ	11. 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（1） 睡眠の生理的意味 12. 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（2） 睡眠のしくみ 13. 死にゆく人のこころとからだのしくみ（1） 「死」の捉え方 14. 死にゆく人のこころとからだのしくみ（2） 終末期から危篤、死亡時のからだの理解 15. 死にゆく人のこころとからだのしくみ（3） 「死」に対するこころの理解
1. 移動に関連したこころとからだのしくみ（1） 移動行為の生理的意味 2. 移動に関連したこころとからだのしくみ（2） 安全安楽な移動、立位・座位保持のしくみ 3. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ（1） 身じたく行為の生理的意味 4. 身じたくに関連したこころとからだのしくみ（2） 爪、毛髪構造と機能、口腔の清潔のしくみ 5. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（1） 清潔保持の生理的意味 6. 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ（2） 皮膚の汚れ、発汗のしくみ 7. 食事に関連したこころとからだのしくみ（1） のどが渇くしくみと水分量 8. 食事に関連したこころとからだのしくみ（2） 食べるしくみ 9. 排泄に関連したこころとからだのしくみ（1） 排泄の生理的意味 10. 排泄に関連したこころとからだのしくみ（2） 便、尿の生成、排便、排尿のしくみ	11. 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（1） 睡眠の生理的意味 12. 睡眠に関連したこころとからだのしくみ（2） 睡眠のしくみ 13. 死にゆく人のこころとからだのしくみ（1） 「死」の捉え方 14. 死にゆく人のこころとからだのしくみ（2） 終末期から危篤、死亡時のからだの理解 15. 死にゆく人のこころとからだのしくみ（3） 「死」に対するこころの理解					
単位認定の方法及び基準 筆記試験及び授業態度。						
学生へのメッセージ 「人の動き」を分析してみましょう。基礎知識をつけたら「総合的に見る力」も身につけていきましょう。復習を必ずしておきましょう。						
テキスト 『最新介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ』中央法規出版 ・ぜんぶわかる「人体解剖図」成美堂出版			参考図書 看護形態機能学 生活行動からみるからだ（日本看護協会出版会）			
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 看護師としての経験を持つ教員が、その経験を活かし、日常生活の行動の理解と日常生活を維持できるような関わり方を指導する。						

科目名 こころとからだのしくみⅣ			担当教員 岡田恵子	
1 年次	後期	1 単位	必修	講義
授業の目的・ねらい 保育士養成課程で学んだ内容を踏まえて、介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。				
授業全体の内容の概要 栄養の基礎、及び成人とは異なる高齢者の生理代謝機能について概説する。また、機能障害や疾患のある高齢者の食生活について学び身につけることができる。				
授業修了時の達成課題（到達目標） 栄養の基礎知識を習得し、高齢者のより良い食生活を学ぶ。				
授業の内容・進め方 1. 食事に関連したこころとからだのしくみ、からだをつくる栄養素 2. 1日に必要な栄養量と食物 3. 老化現象と栄養との関係 4. 食べることの生理的意味 5. 食欲・おいしさを感じるしくみ 6. 消化・吸収の生理学 7. 機能低下・障害が及ぼす食事への影響 8. 生活習慣病と栄養・食生活				
単位認定の方法及び基準 評価は、レポート提出 30%および筆記試験 50%によるが出席状況や授業態度 20%も重視する。				
学生へのメッセージ 学んで身につけること。多くの情報の中から大切な物を選ぶ力をつけて欲しい。				
テキスト 最新介護福祉士養成講座 11 「こころとからだのしくみ」中央法規出版 ・その他適宜資料を配布する。			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当（有） 管理栄養士として勤務した経験がある教員が、その経験を活かし、実践的な事例の紹介をしながら授業を行う。				

科目名 医療的ケア I		担当教員 櫻庭久美子				
1 年次	通年	6 単位	必修	講義		
授業の目的・ねらい 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。						
授業全体の内容の概要 ①個人の尊厳と倫理観を身につける。 ②医行為に関係する法律と医療職との連携を理解する。 ③喀痰吸引や経管栄養を実施するためのリスクマネジメントの考え方を理解する。 ④清潔・不潔と感染予防対策を理解する。 ⑤身体・精神の健康状態やバイタルサインの見方を理解する。 ⑥呼吸器系の解剖・生理を理解する。 ⑦消化器系の解剖・生理を理解する。						
授業修了時の達成課題（到達目標） ①個人の尊厳と倫理を理解し、利用者の尊厳を守り医療的ケアが実施できる。 ②医療的ケアの実施にあたり、医療職との連携方法が理解できる。 ③安全に喀痰吸引や経管栄養を実施できる。 ④感染予防を考えた医療的ケアが実施できる。 ⑤利用者の健康状態の観察方法を身につけ、医療職への報告が的確にできる。 ⑥呼吸器系のしくみを理解し、安全に痰の吸引をする方法を身につける。 ⑦消化器系のしくみを理解し、安全な経管栄養法を身につける。						
授業の内容・進め方 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1～13. 医療的ケア実施の基礎 1. 人間と社会 (1) 個人の尊厳と自立 2. 人間と社会 (2) 医の倫理と介護の倫理 3. 保健医療制度とチーム医療 (1) 保健医療に関する制度と医行為に関係する法律 4. 保健医療制度とチーム医療 (2) 喀痰吸引と経管栄養についての医療職と介護職との連携 5. 安全な療養生活 (1) リスクマネジメントの考え方 6. 安全な療養生活 (2) ヒヤリハットとアクシデント 7. 安全な療養生活 (3) 救急蘇生と救急蘇生法 8. 清潔保持と感染予防 (1) 標準予防策 (スタンダード・プリコーション) 9. 清潔保持と感染予防 (2) 正しい手洗い法、うがい法、手指消毒法、マスク・ガウンの装着法 10. 清潔保持と感染予防 (3) 汚物の処理方法、医療廃棄物の処理方法 11. 健康状態の把握 (1) 観察方法、バイタルサインの見方 12. 健康状態の把握 (2) 急変状態の把握と対応方法 13. 試験と解説 14～22. 喀痰吸引 (基礎知識) 14. 人体の構造と機能 15～17. 呼吸器系の解剖・生理 18. 呼吸状態の見方 19. 喀痰の排出のしくみ 20. 小児の吸引 21. 急変状態への対応 </td> <td style="vertical-align: top;"> 22. 小試験と解説 23～29. 喀痰吸引 (実施手順) 23. 吸引器・器具・器材の清潔保持、消毒方法、準備の仕方 24. 吸引前の利用者の状態観察と留意点、利用者の準備と留意点 25～26. 吸引の実実施手順と留意点 27. 実施に伴う利用者の観察内容と報告の仕方、記録の仕方、後片付け 28. 痰を出しやすくする方法と口腔ケア 29. 小試験と解説 30～37. 経管栄養 (基礎的知識) 30～31. 人体の構造と機能 32～34. 消化器系の解剖・生理 35. 小児の吸引 36. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 37. 小試験と解説 38～44. 経管栄養 (実施手順) 38. 経管栄養の必要物品の清潔保持と消毒方法 39. 経管栄養の準備・設置と留意点 40. 経管栄養前の利用者状態の観察方法と利用者の準備の留意点 41. 経鼻経管栄養法の実実施手順と留意点 42. 経管栄養 (胃瘻または腸瘻) 法の実実施手順と留意点 43. 経管栄養実施中・後の利用者の状態観察方法と報告の仕方、記録の仕方、後片付け 44. 小試験と解説 45. 総合試験 </td> </tr> </table>					1～13. 医療的ケア実施の基礎 1. 人間と社会 (1) 個人の尊厳と自立 2. 人間と社会 (2) 医の倫理と介護の倫理 3. 保健医療制度とチーム医療 (1) 保健医療に関する制度と医行為に関係する法律 4. 保健医療制度とチーム医療 (2) 喀痰吸引と経管栄養についての医療職と介護職との連携 5. 安全な療養生活 (1) リスクマネジメントの考え方 6. 安全な療養生活 (2) ヒヤリハットとアクシデント 7. 安全な療養生活 (3) 救急蘇生と救急蘇生法 8. 清潔保持と感染予防 (1) 標準予防策 (スタンダード・プリコーション) 9. 清潔保持と感染予防 (2) 正しい手洗い法、うがい法、手指消毒法、マスク・ガウンの装着法 10. 清潔保持と感染予防 (3) 汚物の処理方法、医療廃棄物の処理方法 11. 健康状態の把握 (1) 観察方法、バイタルサインの見方 12. 健康状態の把握 (2) 急変状態の把握と対応方法 13. 試験と解説 14～22. 喀痰吸引 (基礎知識) 14. 人体の構造と機能 15～17. 呼吸器系の解剖・生理 18. 呼吸状態の見方 19. 喀痰の排出のしくみ 20. 小児の吸引 21. 急変状態への対応	22. 小試験と解説 23～29. 喀痰吸引 (実施手順) 23. 吸引器・器具・器材の清潔保持、消毒方法、準備の仕方 24. 吸引前の利用者の状態観察と留意点、利用者の準備と留意点 25～26. 吸引の実実施手順と留意点 27. 実施に伴う利用者の観察内容と報告の仕方、記録の仕方、後片付け 28. 痰を出しやすくする方法と口腔ケア 29. 小試験と解説 30～37. 経管栄養 (基礎的知識) 30～31. 人体の構造と機能 32～34. 消化器系の解剖・生理 35. 小児の吸引 36. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 37. 小試験と解説 38～44. 経管栄養 (実施手順) 38. 経管栄養の必要物品の清潔保持と消毒方法 39. 経管栄養の準備・設置と留意点 40. 経管栄養前の利用者状態の観察方法と利用者の準備の留意点 41. 経鼻経管栄養法の実実施手順と留意点 42. 経管栄養 (胃瘻または腸瘻) 法の実実施手順と留意点 43. 経管栄養実施中・後の利用者の状態観察方法と報告の仕方、記録の仕方、後片付け 44. 小試験と解説 45. 総合試験
1～13. 医療的ケア実施の基礎 1. 人間と社会 (1) 個人の尊厳と自立 2. 人間と社会 (2) 医の倫理と介護の倫理 3. 保健医療制度とチーム医療 (1) 保健医療に関する制度と医行為に関係する法律 4. 保健医療制度とチーム医療 (2) 喀痰吸引と経管栄養についての医療職と介護職との連携 5. 安全な療養生活 (1) リスクマネジメントの考え方 6. 安全な療養生活 (2) ヒヤリハットとアクシデント 7. 安全な療養生活 (3) 救急蘇生と救急蘇生法 8. 清潔保持と感染予防 (1) 標準予防策 (スタンダード・プリコーション) 9. 清潔保持と感染予防 (2) 正しい手洗い法、うがい法、手指消毒法、マスク・ガウンの装着法 10. 清潔保持と感染予防 (3) 汚物の処理方法、医療廃棄物の処理方法 11. 健康状態の把握 (1) 観察方法、バイタルサインの見方 12. 健康状態の把握 (2) 急変状態の把握と対応方法 13. 試験と解説 14～22. 喀痰吸引 (基礎知識) 14. 人体の構造と機能 15～17. 呼吸器系の解剖・生理 18. 呼吸状態の見方 19. 喀痰の排出のしくみ 20. 小児の吸引 21. 急変状態への対応	22. 小試験と解説 23～29. 喀痰吸引 (実施手順) 23. 吸引器・器具・器材の清潔保持、消毒方法、準備の仕方 24. 吸引前の利用者の状態観察と留意点、利用者の準備と留意点 25～26. 吸引の実実施手順と留意点 27. 実施に伴う利用者の観察内容と報告の仕方、記録の仕方、後片付け 28. 痰を出しやすくする方法と口腔ケア 29. 小試験と解説 30～37. 経管栄養 (基礎的知識) 30～31. 人体の構造と機能 32～34. 消化器系の解剖・生理 35. 小児の吸引 36. 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認 37. 小試験と解説 38～44. 経管栄養 (実施手順) 38. 経管栄養の必要物品の清潔保持と消毒方法 39. 経管栄養の準備・設置と留意点 40. 経管栄養前の利用者状態の観察方法と利用者の準備の留意点 41. 経鼻経管栄養法の実実施手順と留意点 42. 経管栄養 (胃瘻または腸瘻) 法の実実施手順と留意点 43. 経管栄養実施中・後の利用者の状態観察方法と報告の仕方、記録の仕方、後片付け 44. 小試験と解説 45. 総合試験					
単位認定の方法及び基準 筆記試験 (70%)、小テスト (20%)、課題提出・授業態度 (10%) による総合評価。						
学生へのメッセージ 自分自身が考える、想像する、を目指します。そして確かな技術を身につけましょう。 利用者の命を守るのは皆さんです。基本的な知識を習得し、技術に結びつけていきましょう。						
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編『最新介護福祉士養成講座 15 医療的ケア』中央法規出版		参考図書				
実務経験のある教員の担当する授業科目該当 (有) 病床での高齢者看護、訪問看護等の経験のある教員が、その経験を活かし、医療的ケア (喀痰吸引・経管栄養) を安全・適切に実施するために必要な知識を習得できるよう授業を行う。						

科目名 医療的ケアⅡ			担当教員 小林久美子・櫻庭久美子	
1年次	後期	2単位	必修	演習
授業の目的・ねらい 医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を修得する。				
授業全体の内容の概要 ①演習により「痰吸引」の安全な技術を習得できる。(口腔・鼻腔・気管カニューレ) ②演習により「経管栄養」の基本的技術が習得できる。(経鼻・胃瘻または腸瘻)				
授業修了時の達成課題(到達目標) ①安全に「痰吸引」が実施できる。(口腔・鼻腔・気管カニューレ) ②確実に「経管栄養法」が実施できる。(経鼻・胃瘻または腸瘻)				
授業の内容・進め方 1. 痰吸引の実施手順の解説 2～4. 口腔内痰吸引の演習 5～6. 口腔内痰吸引の実技テスト 7～9. 鼻腔内痰吸引の演習 10～11. 鼻腔内痰吸引の実技テスト 12～14. 気管カニューレ内痰吸引の演習 15～16. 気管カニューレ内痰吸引の実技テスト 17. 経管栄養法の実施手順の解説 18～20. 経鼻経管栄養の演習 21～24. 経鼻経管栄養の実技テスト 25. 胃瘻または腸瘻からの経管栄養の演習 26～29. 胃瘻または腸瘻からの経管栄養の実技テスト 30. 救急蘇生法				
単位認定の方法及び基準 実技試験による。				
学生へのメッセージ ・目に見えない微生物を意識して清潔(滅菌)操作を心掛けて下さい。 ・すでに学習した、人体の構造を理解した上で実技の実施を行なって下さい。				
テキスト 介護福祉士養成講座編集委員会編『最新介護福祉士養成講座15 医療的ケア』中央法規出版			参考図書	
実務経験のある教員の担当する授業科目該当(有) 病床での高齢者看護、訪問看護等の経験のある教員が、その経験を活かし、医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)を安全・適切に実施できるよう技術を指導する。				

履修の手引き

履 修 の Q & A

授業や成績について

Q 授業の出欠はどのようにとるのですか？

A 授業の出欠は、各科目毎に担当の教員がとります。遅刻・早退についても、同じように各科目毎にとります。

Q 授業の欠席は何回まで認められますか？

A 各科目とも授業回数の3分の2以上出席していないと、定期試験等を受ける資格を失い（「失格」といいます）、その科目の単位を修得することができません。例えば、半期開講科目の場合は、10回以上出席する必要があります。

出席回数は、自己管理が基本です。担当教員からの事前警告がなかったからといって、補講等で出席回数をカバーする理由にはなりませんので、十分に注意してください。

Q 授業の出席が3分の2未満の場合はどのように扱われますか？

A 定期試験等を受ける資格を失うので、その科目の単位は修得できません。1年次開講科目の場合は、2年次にその科目を再履修してください。卒業年次に履修している科目で失格科目が1科目でもあると、留年となります。

Q 保育科の「選択科目」は、履修しなくてもいいのですか？

A 保育科の選択科目は、履修しなければいけない科目・単位数が決められています。

2011年度入学生からは、「音楽表現Ⅱ」と「保育実習Ⅱ」「保育実習指導Ⅱ」は、選択科目の中でも必修です。それ以外に4単位以上修得しなければなりません。

Q 「単位」とは何ですか？

A その科目の学修時間を「単位」で表します。1単位は、「講義」では15時間の授業、「演習」と「実技」では30時間の授業、「実習」では45時間の授業をあてることとなっています。

授業時間割の1コマ（90分）は、2時間分の授業にあたります。

Q 成績評価はどのようにされますか？

A 具体的にどのような手続で成績評価を行うかは、科目担当教員によって異なりますが、成績評価は次のランクとなっています。評価が60点未満の場合は、単位を修得することができません。

成績評価点数が 60～69点 → 可
70～79点 → 良
80～100点 → 優

なお、学期毎に配付する成績表には評価点数が記されていますが、学校が発行する成績証明書には優・良・可のみが記されます。

Q GPAとは何ですか？

A GPA (Grade Point Average) は、各教科の成績評価点数によってGP (グレードポイント) を付与し、各科目の単位数にグレード・ポイントを乗じたものの総和を、履修した科目の総単位数で除したものです。計算式は、下記の通りです。学習成果を総合的に判断できる指標となります。保育科では、実習配属基準のひとつとして、配属する前の学期までのGPAを参考にしています。

$$\frac{(\text{履修科目のグレード・ポイント} \times \text{その科目の単位数}) \text{の総和}}{\text{履修科目の単位数の総和}}$$

本校では、グレード・ポイントを以下のように付与しています。

成績評価点数	グレード・ポイント
90～100点	4点
80～89点	3点
70～79点	2点
60～69点	1点
59点以下	0点

各科目において単位修得に必要な最低点をとった場合のGPAは1.0になります。

Q 入学する前に在籍していた大学等でとった単位は認められますか？

A 大学等で在籍していた学科や課程によって異なりますが、在籍当時に修得した単位を認める場合があります。細かな基準がありますので、学則第12条を参照した上で、担任あるいは学科長に相談してください。

Q 再履修科目があるのですが、時間割を見ると自分が本来出席すべき授業とダブってしまい、再履修ができません。どうすればいいですか？

A 自分が本来出席すべき科目の受講曜日・時限・クラスを変更して再履修科目を受講できるように時間割を組んでみてください。本来の受講曜日・時限・クラスを変更して受講できる場合は、再履修・時間変更届を事務局へ提出するのを忘れないでください。

なお、時間割は再履修者がいることを前提に作成するものではないため、いろいろやりくりをしても

すべての履修科目を履修できない事態が生じるかもしれません。その場合は留年となり、翌年度に残りの科目を履修することとなります。

Q 1年生から2年生に上がれないということはありませんか？

A 1年生の履修科目の単位を修得できなかった場合は再履修すればよいのですから、原則として2年生に上がれないということはありません。ただし、再履修科目数や失格科目数が多すぎて2年生で履修すべき科目が履修できない状況となった場合は、もう一度1年生のクラスに所属してもらうこともあります。

Q 大学等に編入学する場合、在学中に修得した単位を生かせますか？

A 編入学する大学等の規定に従って、本校で修得した単位が認められる場合があります。編入学先に相談してください。また、シラバスの写しの提出を求められることが多いようですから、このシラバスは大切に保管しておいてください。

試験について

Q 3分の2以上授業に出席しているのに定期試験を休んだときは、どのように扱われますか？

A 休んだ理由によって扱いが違います。病気や怪我、交通機関の遅延などやむを得ない事情があった場合は、追試験を受けることができます。単に寝坊したというような場合は、追試験を受けることができません。

Q 追試験と再試験とは何が違うのですか？

A 追試験は、やむを得ない事情があって定期試験を欠席したときに受けるものです。成績不良の者を救済するための試験ではありません。追試験の採点は、一部の例外を除いて80%採点となります。定期試験、追試験ともに受験しなかったときは、その科目の単位は修得できません。

再試験は、試験終了後の時点で単位を修得できなかった科目があるときに受けることができるものです。詳細は履修規程第13条を参照してください。

Q 追試験を受ける手続を教えてください。

A その科目の定期試験が終わってから3日以内に事務局へ追試験願を提出します。その後、審査を経て追試験受験の可否が決定されます。受験が認められた者については、追試験時間割発表と同時に掲示で通知します。受験が認められた場合は、事務局窓口

で受験料を納めてください。

Q 再試験を受ける手続を教えてください。

A 再試験の対象となる科目と対象者を掲示で通知します。試験対象者となった場合は、事務局窓口で受験料を納めてください。

学籍について

Q 休学したいのですが、どのような手続が必要ですか？

A 事情があって休学したい場合は、まずは担任に申し出てください。担任とよく話し合った上で「休学願」を担任に提出してください。その後は、教員会で承認されて正式に休学が認められます。なお、休学は1年を超えることができません。また、休学期間中は授業料の2分の1を納めなくてはなりません。

Q 退学したいのですが、どのような手続が必要ですか？

A 休学と同じように担任とよく話し合った上で、学生証と退学願を担任に提出してください。その後、教員会で承認されて正式に退学が認められます。なお、退学を申し出る学期までの学費が納められていないと退学は認められません。学費未納の場合は退学願は受理されず、除籍として扱われます。

Q 退学と除籍の違いは何ですか？

A 退学は、本校で修得した単位はそのまま認められます。従って、他校へ編入学する場合や本校に再入学する場合などに、それまでの修得単位が認められることがあります。

除籍は、学校が学生に対して行う一種の処分です。従って、本校で修得した単位はすべて取り消されます。

Q 再入学とは何ですか？

A 事情があって本校を一度退学した後に、再び入学し直して卒業を目指すのが「再入学」です。再入学については、いろいろな決まりがあるので、学生便覧の「再入学に関する内規」を見てください。また、退学後に再入学を希望する場合は、前もって学校に相談してください。

Q 除籍された場合でも再入学できますか？

A 除籍された場合は、再入学の扱いは受けられません。再度入学を希望する場合は、通常の入学選考試験を受けることになります。